創設期（明治三十四年～同三十五年）

日本女子大學校開校の辭

貴顯紳士淑女諸君、今日ハ雨天にも係らず、遠路の處、斯くも賑々敷御來會の榮を賜ハり、斯くも同情を表せられたることを深く感謝致します。

私ハ先づ第一に、簡單にこの日本女子大學校の成立ちました由來を述べ、次に今日の現狀を御報道申し、終りに將來の希望を陳べまして、今日の開校式の辭に更へたいと存じます。

不肖の私が、我邦女子教育の發達の爲めに、女子大學を設立するの必要を深く感じましたのハ、十數年以前のことで御座りました。其時分から不肖をも顧みず、女子教育の研究に志しまして、今日まで至りまして御座りますが、參考の材料に供したいと思ひまして、明治二十三年米國に渡りまして、出來る丈處々を遊歷して、女子教育殊に女子の高等教育に關しまして、其現狀やら其結果などを種々と研究致しまして、二十七年に歸朝致しまして御座ります。併し私が我邦に設立致したいと思ひました女子大學の理想ハ、一種特別のもので御座りまして、決して西洋の女子大學通りのものを設けやうとか、又ハ我邦の男子の大學の如きものを造らうとした譯でハ御座りませぬ。本邦の國狀並に本邦の婦人に適切にして必要なる女子大學を作りたいと云ふ精神で御座りました。それ故に歸朝後『女子教育』と申します小册子を著述致しまして、其中に女子大學に關する意見をも陳述致しまして、輿論に問ひました處、餘り反對もなく、却て豫想に反しまして、一般の賛成を受けました故に、愈々之を實行して見たいと云ふ希望が起りましたが、之を實行致しますにハ、是非共有力者の賛助を仰ぐの外に途ハないと存じまして、當時の總理大臣伊藤侯爵、文部大臣西園寺侯爵を初め大隈伯爵、板垣伯爵、又ハ大阪府知事内海忠勝、大阪控訴院長北畠治房の兩男、其他の有力者に計りました處、實に力ある言葉を以て賛成の意を表せられましたのみでなく、熱心なる同情を寄せられまして、共に發起者となッて、成立に盡力しやうと申さるゝに至りましたので御座ります。

殊に大和の土倉庄三郎氏、大阪の廣岡淺子の御兩人ハ、各々金五千圓宛を投ぜられ、都合金壹萬圓を以て創立費に當てんことを希望致されまして、若し廣く天下に訴へて此事業が成就せざることありとするも、吾等兩人にて其入費を引受け、他の發起人や寄附者にハ決して御迷惑ハ掛けまじ、と契はれまして御座ります。それで當初大阪で校地を金四萬圓で買ひ入れました時にも、御兩人が責任を負うて下さりましたのであります。

其後東京の澁澤さん、三井さん、岩崎さん、大阪の住友さんなどの有力の發起人が出來まして、遂に明治二十九年四月廿四日、東京星ケ岡の茶寮に於きまして、最初の發起人會を催すことと相成りました。其節創立委員を設けまして、委員長にハ近衞公爵が御當選せられましたかなれども、當時非常の御多忙でいらツしやいましたから、委員長を大隈伯に御依頼することとなり、會計監督にハ澁澤榮一、住友吉左衞門の御兩君が選に當ツて御承諾になりました。

仝年四月二十五日、帝國ホテルに於きまして、貴衆兩議院の議員諸氏と、新聞記者諸君とを御招待申しまして、女子大學設立の主旨を披露致しました。其節賛成の演説をなされましたのハ、大隈伯爵、峰須賀侯爵、近衞公爵、島田三郎、江原素六の五君で御座りました。然るに此事業にハ自然と二大中心が出來まして、一ハ東京に御座りまして、一ハ大阪に御座りました。それで前申述べました通り、會計監督も御兩人御座りまして、各々其地方の會計を殊に監督すると云ふ有様でありましたが、これと云ふも、發起人の有志家中に於きまして、日本全國に女子教育の三大中心を造り、行く〳〵ハ女子大學を三地方に造りたい。其手初として先づ第一番に大阪、それより東京に置くと云ふ計畫が御座りましたからで御座ります。それで大阪と東京が、各々中心を見た様になッたので御座ります。

其後卽ち三十年五月廿六日、大阪中島ホテルに於きまして、再び日本女子大學校を設立するの主旨を披露する爲に、發表會を開きました。此時東京から、御出席なさッて下さッた御方ハ、大隈伯、近衞公、土方伯等の方々で御座りました。

かくて東西の二大中心に於きまして、披露會を開き、賛助員も段々增加するの幸運に向ひ、事將に成就せんとするの間際に至りまして、突然一の困難に遭遇致しました。卽ち經濟界の不振の爲めに大に妨げられまして、暫時の間ハ資本金募集も、殆んど中止の有様に立ち至りました。

又この經濟界の不振に聯關致しまして、一の問題が起りまして御座ります。卽ち學校の位地の問題でありまして、一ハ東京に置くの説、二ハ大阪に置くの説、三ハ同時に東西に各々適當したる學科より着手すべしと云ふ三説が御座りました。これが實に第二の難關でありました。

處が昨年に至りまして、大阪の發起人諸氏も、先づ第一番に東京に設くる方が最も適當であり、且ハ便利であると云ふことに賛成せらるゝ様になられ、終に委員會を大阪に於て開きまして、之を相談致しました處、滿場一致で東京に置くことに決定致しました。然るに元來大阪の賛助員諸君の意嚮と云ふもの

ハ、日本の爲めに日本女子大學校を設立すると云ふに在たのでありますから、快く東京に置くことに賛意を表せられたのみでありません、寄附金の如きハ却て最初約束せられたよりも、倍して出さるゝことになりました。卽ち住友氏ハ五千圓を壹萬圓に增し、鴻池氏ハ五千圓、芝川、殿村兩氏ハ貳千圓宛、村山、磯野、北畠等の諸氏ハ壹千圓宛を出さるゝことを約束せられ、直に豫約金五萬圓以上に達した次第であります。

斯樣の次第で、學校の位置が東京に極りましてから、東京の方に於きましても、大に奮發心が起りまして三井一家よりハ五千四百坪許の校地を寄附せらるゝに至り、岩崎兩家よりハ壹萬五千圓、澁澤氏も貳千五百圓、古河氏ハ參千五百圓と云ふ風に、段々寄附金が出來る樣になッて參りました。

そこで兎に角設立に着手すべしとの議が起りましたから、昨年の九月、東京で創立委員會を催ふされて、愈設立に着手することに決定致しまして、建築委員に岩崎彌之助男、久保田讓君、兒島惟謙君、三井三郎助君、澁澤榮一男、住友吉左衞門君の六名を御依賴することに相成りました。其後委員諸君の御盡力と、文部技師久留正道氏の監督の下に、本校々舍並に寄宿舍等の建築ハ成就したので御座ります。殊に澁澤男爵ハ大躰のことハ云ふまでもなく、細き處までに氣を付けられて粗漏のなき樣に注意せられました。三井氏ハ必要なる物品ハ御自身のを持ち出して下さるやら、又私が多忙でありましたから、私の代りに代理人を日々出張させて、大に監督の事を助けて下さりました。久保田君の如きハ、常に有益なる注意を與へて、落度のなき樣に助けて下さり、久留君ハ公務の餘暇を以て、無報酬にて設計監督の事を指揮して下さりました。

序に申上げますが、校舍の建築ハ、赤神善三郎と云ふ大工が之を引き受け、寮舍及理科教室等ハ、清水組が之を請負ひましたが、兩人共に、此學校ハ普通の學校とハ、其成立が違ふ故に、吾々も損さへせねばよいと云ふ精神で、大に勉强して吳れましたのみならず、清水組の方ハ、金五百圓を寄附して吳れ、赤神の方ハ本校の表門を寄附して吳れました。

又此學校の設立に就きましてハ、文部省の方々や、東京府の方々や、區役所の方々が、一方ならぬ便利を與へられました。

そこで此學校の特色の一ハ、既に此の創立の際に顯れて居ると云うてもよからうと存じます。卽ち發起人諸君の精神ハ、前申述べました通り、既に建築請負人にも及んで居ることであります。又東京府下の重立ちたる新聞社及雜誌社ハ、皆非常の同情を表せられまして、過日來生徒募集の廣告を致しましたが、あれハ悉皆新聞社の寄附でありまして、學校よりハ一文の代價

も拂はずに濟んだ次第であります。教職員諸君の如きも、皆薄給にて御盡力下さる譯であります。

又此事業の成立を早からしめましたものハ、舊華族方の御賛成であります。就中近衞公、岩倉公、西園寺侯、峰須賀侯、岡部子、長岡子、其他の方々の御盡力であります。

又序に申述べて置きますが、私共が寄附金を使用するときの心得と致します點ハ、

（第一）ハ可成寄附者に滿足を與ふる樣に使用すること。

（第二）ハ寄附金を永久に効力ある用に使用すること。

（第三）ハ無益の浪費なからしむること。

の三點で厶ります。

以上ハ、日本女子大學校が產れ出た由來の、極々の既略に過ぎないので御座りますが、此事業を助けたものの內にハ、外部に顯ハれずして、地中に埋れて此の事業の根蔕となツて、此事業の生命を養うて來た所の營養を、日夜人知れず事業全躰に注いで居る者も澤山御座りますが今玆に申上ぐる暇がありませぬから割愛して略します。

要しまするに、五十六名の發起人、三十二名の創立委員、數百名の賛助員、其他本校の創立に同情を寄せらるゝ諸君ハ、皆各自に何か、金錢か、知慧か、學力か、又ハ勢力か、勞力かを寄附して、それ〴〵此の創業に盡力せられたのでありまして、此の校舍柱一本も、椅子一脚も、皆諸君の盡力の形に顯れた結果であります。畢竟するに、諸君の盡力が集ツて、此日本女子大學校となツたのであります。故に此學校ハ、發起人の學校でもありませぬ。又創立委員の學校でもありませぬ。此學校ハ、實に此學校に同情を表せられた所の諸君の學校であります。今日此開校の名譽ハ、悉諸君一同の名譽であります。諸君一同に歸すべきもので御座ります。

次に今日の現狀を御報道申上げ度存じますが、第一に御報告申上ぐべきものハ、募集した金額と、其性質、並に又如何に之を使用したかと云ふ點でありませうが、今日ハ只其大躰に止め詳細の御報告ハ、他日寄附者の御姓名と、其寄附金額と、又使用の方法等を印刷に附して、御覽に入るゝ積りであります。先づ大躰申上げますれば、寄附金豫約高ハ、豫定額三十萬圓の半額までに達しました。其內創業費と致しまして、凡そ十一萬圓許を使用致しましたが、これハ豫定創業費と大差ありませぬ。卽ち創業費は大凡拾萬圓と見積ツてあッたのであります。

次に此學校の本體たる教職員と、生徒のことに就て一言申上げ度存じます。

教授及教諭の組織に關しましてハ、種々苦心を致しました

が、教授及教諭になられた方々が、本校創立の主旨を熱心に賛成され、且つ發起人等の精神に同情を表せられ、自ら進んで御承諾なさツて下さツたと云ふ譯で、更に有力なる教員を組織することが出來ましたのハ、誠に此學校の仕合で御座ります。それで此の方々ハ、只名前を連ねたばかりでハありませぬ、報酬の爲めでハ勿論ありませぬことハ申すまでもないことであります。至誠より此學校に同情を表せらるゝが爲であります。

此學校の精神ハ、既に教授諸君の内に顯れて居ると存じます。今其一例を申上げますれば、或日帝國大學の一室に於きまして、二三の博士方と、教授の組織に就て、御相談申した時に、一人の博士ハ「これからハ吾々學者の責任である。吾々自身が出席して教授の任に當り、善良なる模範を示さねばならぬ」と申されましたが、これハ實に此校の精神であります。吾々の責任、吾々の學校といふ觀念ハ、實に此學校の精神であります。西園寺侯爵も、此學校のことハ常に吾々の學校と稱して居られます。

次に生徒のことを申上げます。此學校の本科ハ、家政、國文、及英文の三學部に分れて居りますが、最初生徒を募集するときにハ、各學部に三十名宛の生徒を得、都合百名あれば充分であると思ツて居りました處が、募ツて見ました所が、案外に應募生が多くて、國文、家政などハ直に百名宛の志望者が出來ましたから其後ハ入學願書を受理せぬことを發表しましたが、尚續々志望者がありましたにも係らず、皆斷ツてしまツた有樣であります。で入學した者が三學部合せて、凡そ貳百名許となりました。又附屬高等女學校の方ハ、入學生徒凡そ參百名許りでありますから、都合五百名許の生徒が御座ります。其内寮生は百五十名許で、他ハ皆通學生であります。以上ハ今日の現狀でありますが、まだ實に女子大學校の萠芽に過ぎないので、小さいものであります。併し創業時代のものとしてハ、可なりに大なるものと謂ツても差支ハなかるまいと存じます。

英國に於きまして、初めて女子に大學教育を施す樣になつた時分に、例へばガルトン大學の如きも、其始めハ漸く五名の女學生があつたばかりでござりますが、今日ハ英國の大學教育を受くる女生徒ハ、三千人許あると云ふ勢であります。米國の如き女子の高等教育の盛なる國にして、五萬内外の女子大學生を有する國でも、例へばスミス女子大學の如きも、其初めハ僅に十四人の女學生を以て開校したさうであります。

然るに、今や此日本女子大學校ハ、始より殆貳百名の女生徒を得たと申しますものハ、明治昭代の御蔭によるもので、又一にハ女子教育家の盡力の結果が顯ハれたものでありませう。實

に慶すべき事實と存じます。

然るに此事實を打ち消して、此日本女子大學校ハ、之を英米の女子大學教育に比較するときハ、程度が低いと云ふものも御座ります様です。成程程度ハ高くハない、此の程度が高くないと云ふ所も、實ハ他國の女子大學を直に模倣せざる所の一點であります。今日の本邦女子の學問の程度でハ、此位の所より着手するが穩當であらうと信じます。尚此學校の、一種特別の女子大學たる點ハ、種々御座りますが、今日ハ申上ぐる暇もありませんから略しますが、程度の如きも、必要に應じて漸次に進める考でありますから、規則書中にも、三年許の研究科を設置する筈になッて居ります。此研究科ハ本年募集の生徒が卒業する頃、卽ち今日より三年の後にハ、自然と出來る譯でありますが、併し時宜に依つてハ尙早く設けても宜しいのであります。斯様の順序を踏て行くのが、最も穩健の處置と信じて居りますから、彼是云ふ人がありましても今ハ爭ひませぬ。

又寄附金も、拾五萬圓と申せば、勿論餘り大きな金でハありませぬ。殊に之を米國邊の寄附金に比較しますと、小さいものでありますが、本邦の富の程度又ハ女子教育の程度などより考へ合せますときにハ、比較的に大なる着手と云うても差支ないかと存じます。

前述の次第でありますから、此學校が日本の女子大學校の種子としてハ、比較的大なるもので御座りませう。是皆大方諸君の御助力の結果で御座りますが、今後ハ此の種子を培養して高大なる樹木となし、美なる花、麗はしき果を結ばしむる様にせんければなりませぬ。これにハ又諸君の助力を仰ぐより致し方ハありません。これハ實に將來に屬する私共の希望でありますから、一言此の將來の希望を述べて、此演說を終りたいと存じます。

さて今後の事業ハ、本校の主義、方針を實行して、淑女たり、賢母たり、良妻たるべきものを產み出すことでありますが、此目的を達せんと致しますれば、必二つの要素が必要で御座ります。一ハ人、一ハ金であります。先日初めて教職員方の御會合の節に澁澤會計監督ハ、「之を戰とすれば、諸君ハ兵士で、私共ハ兵糧方を勤むるものであります」と申されましたが、成程其通りであります。今日戰爭をするにハ、是非とも精兵と金力との二要素が必要である如くに、教育事業にも此二要素が必要であります。

今日ハ漸く外部の設備が、一部分だけ略出來た許りであります。これから内部の設備と同時に、外部の設備を完うせねばなりませぬが、殊に内部の設備が必要であります。兎角内部の設備ハ人目に觸れ難いから、大抵何時も不充分勝で御座ります

が、實ハ教育に必要なるものハ、教職員と、内部の設備とで御座ります。此二者さへ完備すれば、教育ハ出來るものであります。今後ハ是非共此内部の設備に向て、一層諸君の助力を仰ぎたいと存じます。今内外設備に必要なるものを大略申上げますれば、講堂、躰操場、本校舍、書籍館及寮舍の增築などハ、外部の設備として必要であります。又圖書、機械、標本などハ、内部の設備として是非入用で御座ります。

右様の次第でありますから、一方にハ尙引き續いて募金をなし、又一方にハ教育に力を盡して、諸君の御希望に背かぬ様に致さなければなりませぬが、之を思へば前途遼遠であります、又夥多の難關を通過して、戰をせなければなりません。で誠に不肖なる私共の微力の及ばない所でありますが、私ハ此等の難關を通過して、彼岸に達することが出來ると確信致します。と申します者ハ、是れ丈の有力者是れ丈の學者や教員が賛助せられて居らるゝ以上ハ、此位のことハ必出來ると信じます。若し萬一出來ぬならば、それハ私共の責任であります。罪であります。能ハざるにあらず、爲さゞるの罪と云うてもよからうと存じます。

私ハ發起人、創立委員、賛助員、其他同情諸君に切望致します。どうか此學校を諸君のものと思召して、善良の結果を奏する様に御助力を願ひます。又教職員、生徒諸君にも、又同様に諸君御自身のものとして、諸君の御責任であると云ふ精神で、此學校の目的を達する様に有効なる教育の行ハるゝ様に、或ハ教育を施し、或ハ自ら教育せられんことを切望致します。今日事業と云ふものハ、戰爭と同一で、矢張一騎打でハ出來ませぬ。必全躰共同でなくてハなりませぬ。内外上下協心同力して、此學校の爲め御盡力を願ひます。若し惡弊の萠があらば、注意を與へて下さい。氣付かぬことあらば御教示下さい。眠らんとするならば警醒して下さい、倒れんとするならば直して下さらんことを切望致します。

（「女子の友」第九十三號）明治三十四年四月

歐米女子大學の形勢

蓋世の文豪ユーゴー颱言して曰く、十九世紀は女子の世紀なりと、寔に前世紀に於て女子教育は非常の速力を以て非常に發達せり、其發達せる事實は一面に於ては教育か高尙になりしことにして他の一面に於ては普及せることなり、斯の結果はやがて社會に發露して今日は女子教育が非常に文明の要素を爲すに至りぬ、依て今日文化發達の淵源は教育にあり、其教育の淵源

は女子教育にあり、故に社會文化の進運を謀らんと欲せば先づ女子教育を發達完美せしめざるべからずと云ふに至れり、而して女子教育の程度を計ると云へることは其女子の高等教育を見て定むることゝなれり。

今日各國の高等教育を論ずるものは、其國内に女子大學は幾多ありや、女子の爲めに高等教育の門戸を開きしや、將た亦た女子の教育は男子と同等とすべきやに着眼論及し是等を以て看過すべからざる重要問題と爲せり、今日の女子教育の大勢を觀察するには、先づ各國の女子大學の形勢は如何なりしや而して其結果如何を考察するは太だ大切なることなり、今ま女子の高等教育を類別すれば

第一、男子の大學を女子の爲に其門戸を開放せしもの

第二、男女共有の大學を設立せるもの

第三、男女の大學に附屬せる女子大學

第四、純粹の女子大學

第一に屬するものは素と男子の大學なりしを女子の爲めに門戸を開放せるものにして、瑞典（スヱーデン）、丁抹（デンマーク）、芬蘭（フィンランド）、阿蘭陀（オランダ）、白耳義（ベルギー）、邦威（ノールウエー）、西班牙（イスパニヤ）、葡萄牙（ポルトガル）、瑞西（スイツル）、伊太利（イタリー）、露西亞（ロシア）、獨逸（ドイツ）、佛蘭西（フランス）、亞米利加（アメリカ）は卽ち是なり、獨逸は女子の高等教育に於ては素と保守主義なりしも、女子に大學教育を要するの氣運進み大勢迫るを見て一昨年始めて伯林（ベルリン）大學を開放せしに勿ち三百人の入學者を得たり、佛蘭西は千八百六十八年に女子の爲に大學醫學部を開放せるに、當時未だ一般に女子大學の氣運盛んならざりしを以て入學者僅に三人なりしも千八百九十五年に至りては九十五人を得たり、佛蘭西は今日にては十五ヶ所に四分科乃ち文、理、法、醫の各大學ありて皆な共に女子の入學を許せり、以上は乃ち第一に屬するものなり、第二に屬するものは米國に於て頗る隆盛にして全州に二百幾十あり就中（なかんづく）有名なるものはカナダ大學、クインス大學、ダルハウス大學、ツリニチー大學、セントヒルタス大學、マツギル大學なり、其第三の男子の大學に附屬せるものにはコーネル大學、コロンビヤ大學、ハーバート大學あり、此種に屬するものは英國に多く見る所なり、第四の純粹大學も米國に於ては昨年に至りて大に增加せり、其著名なるものを擧ぐれば乃ちバザー、スミス、ウエスレー、ブリンマーの諸大學なり。

英國のガルトン大學は其創始に方りては僅に五人の生徒を見、米國のスミス大學は今より二十五年前に設立せしものなるか當時生徒僅に十四人なりき、斯の如く其創始に方りて生徒の少數なりしは孰れも皆な當時の輿論が反對せしを以てなり、而れども亦た何れも皆な昨年に至りて急に盛大と爲れり、現今英

國の如きは女子大學の生徒二千七百〇一人にして米國は五萬に垂んとせる勢ひなり、要するに昨年は最も女子高等教育の盛況を呈せし年なりき、本年は二十世紀の最初なるかユーゴーの謂へるが如く十九世紀は女子の世紀なりとせば、二十世紀は女子教育の著しく發達する世紀なりと予は信ずるなり。

今日世界教育の大勢を觀察すれば女子教育の程度は益々高尚となれり、是れ果して社會の爲に憂ふべきことなるか、將た祝すべきことなるかは隨分或部分にての問題となり居ることなるが、この問題を消滅せしむるには女子大學が如何なる結果を社會に與ふるかを調査すれば足れり、今より二十五年前頃に方りては世界各國ともに女子教育に就ては大い疑惑を有せしなり、殊に大學教育は社會の爲に決して祝すべきものにあらず其弊害の必らず百出すべしと杞憂せる學者あり、其要點は

第一、女德を汚損すること

第二、女子の身體を衰弱せしむること

にして此女子の身體を衰弱せしむる結果は延て其子孫を衰弱せしめ更に國民を衰弱せしむるに至るとせり、予は會て英國の古書林にて種々の書籍を購ひしに、中に女子教育に就て奇怪なることを云へるあり、卽ち女子に高等教育を與ふるは女子をして神に對して罪人と成らしむるものなりとあり、又た米國ポストンのクラーク氏の著書には女子に高等教育を授くるは是れ女子をして身體の健康を害せしむるものなりとて種々の統計と證據とを例擧して殷んに女子の高等教育を非難せり、當時は未だ文化發達せず從って女子の高等教育を要せざりしを以て斯かる非難も生ぜしものにしてスミス抔の起りし時も囂々として反對の聲强かりしなり、而れども今日の如く幾萬の卒業生を出すに至り、而して此の卒業生は如何なる人に嫁し如何なる家庭を作り如何に子女を教育し將た社會に如何なる影響を與へしかを見るに及びて今日は非難するもの殆ど跡を絶つに至りぬ、斯く非難の跡を絶つに至りし所以は世上の杞憂せるか如く高等教育を受けしものは男子らしく爲るかと云ふに決して然らずして太だ女子らしくなり吾人の所謂女德が甚だ發達せるにあり、論者或は米國の風俗を見て非難するものあるも這は其觀察の唯だ一部の弊害のみに及べるか爲めなり、彼國にありても高等教育を受けざるものは擧動粗暴にして萬事に對して善良なる判斷を缺げり、之れに反して高等教育を受けしものは修身齊家に於て幸福なるを見るのみならず其一般社會に對しても頗る善良なる行爲を見るなり、是れ獨り予の觀察のみにあらずミチガン大學總理アンゼン氏は千八百八十四年に揚言して云く『女子の高等教育に就ては之れに反對せし人の豫期せし弊害は一も生せざりき』

と、コーネル大學のモーゼス、タイラー氏云く『予の觀察より判定すれば男女をして同一に學ばしむるは大に學校の品位を高め嚴肅、優美にして浮躁、粗暴を醫するの益あり、而して女子は通常同級生中に於て優等の地位を占め其健康も男子に勝れり』と、昨年我國に漫遊せるスタンホード大學のジョルダン氏云く『今日米國に於ける女子大學の形勢は其主義平穩にして鞏固なる女性を作るにあり、理想の女學生は健全なる身體と明透なる頭腦とを供へて能く世間の實務に堪へ信仰の念强く愛國心深く同胞に對して仁愛の性に滿つる婦人とならしむるに在り、左れば斯の如き大學教育を終りし婦人は其母に優りて能く時間の利用を解し能く女性の任務をも知り而して其力に於いて如何なる女性の任務にも堪へざるの憂ひなし、其智に於いて又能く幾多の人物、行爲の價値を判するに足るものなり』と、予も體育に就ては歐米に於て實際に觀察せるに、大學に於ける女子は此に入らざるものに比して一層强健なるを親しく見たり、又た大學生徒か結婚後に於て如何なる健康なりやし、其生みし子は如何なりしやを調査せし學者も少からざりしか、其結果は皆な教育なきものより健康なりき、如何にして此健康を得しやと云ふに體育を盛んにせしを以てなり、卽ち體育に伴ふ智育を進めしを以て斯く好結果を示せしなり、女子大學は其創始に於て非常の反對ありにも關らず昨年に至りて一般に好況を呈し反對論者の杞憂せし弊害は一も見ざるに至れり、予は歐米に於て慥められたる經驗に鑒みて女子に高等教育を授くる結果は國民の健康を進め國民の德育を進めしことを斷言するは決して過言にあらずと信ず。

其他高等教育の進歩せし結果として國家に及ぼせし利益は實に莫大なるものあり、卽ち一般に教育思想の普及せしこと是なり、米國の如きは家庭の不和若くは一身上の境遇より獨身となれる婦人の多くは皆な小學教師として子女薫陶の任に當り居れり、然るに我國に在りては斯かる境遇にあるものは稍もすれば身を花街狹斜に投じて賤陋恥づべきことを爲し居れるを見るは社會の爲め其人の爲めに悲むべきことならずや、予は深く信ず、歐米各國に於て今日の如く教育事業を熾んならしめたる原因は女子教育の力に賴りしものにして、女子教育を熾んにせる結果は國家の文明を進め國家の元氣を振興せしことを、而して更に女子教育に由りて社會に慈善事業は勃興せり、乃ち孤育院の如き盲啞院の如き白痴院の如き將た宗教傳播の如き若くは家庭の文學などよりして一般社會を教育して國家社會に湧起する弊害を芟除せしこと頗る大なるものあるは殆ど枚擧するに遑あらざるなり。

予は終りに臨みて更に一言せんとす、世上若し女子に授くるに高等教育を以てするを不可と爲すあらば更に其人に反問して謂はん國民中に高等教育に其品性を涵養せられたるもの多くあるを喜ぶや否やと、女子を單に柔軟性として觀察し唯だ家庭に於て男子の内助たるに過ぎざるものとせば卽ち止む、苟も一個の國民として解せば乃ち如何、國民中に意氣精神ともに高潔にして修養深きもの多きは國家の上より達觀して喜ぶべき現象ならずや、國家は教育高き人の手に抱き上げられたる國民の益々多からんことを希望するは恐くは何人も首肯する所ならん乎。

（文責記者）

（「女學世界」第壹卷第參號）明治三十四年三月

開校二ヶ月を迎へて

本日は開校以來二ヶ月と十四日目に相當す。此の間、實に短日月なりしと雖も我等は一の希望と、一の心配とを以て此の學期を始めしが、其の希望もどの程度迄達したるか、又心配もどれ丈けの結果を見しか。回顧すれば混雜多忙を以て此の期は經過せしも、併し我々の豫期せし程の心配、混雜は割合に起らざりしなり。扨てこれ迄說き來りし大意は、諸子が學問をなす方法、及び品性を養ひ、學校の精神を作ると云ふことなり。

我が國の教育は先づ、米國に、次ぎは英國、獨國にと交々採る所ありしが、初等教育より高等教育を通じて必要なるは勿論智育なれども、夫れよりも重きを置くべきは品性を陶冶し、所謂人物を養成する事なり。我が教育上、今日最も缺乏を感ずるのは此の點にして、本校の特色は專ら此の點に勉むる事にあり。アメリカにはもとアメリカン・インデイアン住み、清教徒が移住せし其の當初は彼等土人の襲擊甚だしく、殆ど安眠するを得ざる程なりしかば、是は兵力よりも教育の力によらざる可からずとなし、兵備の費用を以て土人を教育し、以て今日の隆盛進歩の基を開きたり。予は諸子の individual 卽ち各々の品性を作らん事を希望せしが、僅かなる此の短日月の間に於て、既に稍ゝ見るべきものありて、諸子の顏色態度の上に少しく變化を見るに至れり。

予嘗てアメリカにてボストンなるアンドバーの大學寄宿舍に入りし時、學生は大抵半白の老人にして、而も其の動作は小兒の如く實に無邪氣にして、談話することも一向つまらぬこと多きを以て、一度は落膽失望せしが、熱病に罹りし時、始めて其の眞相を知り、大國の學者、學生は斯かるものかと云ふことを始めて悟り、大いに感激せし事ありき。ウヰリヤム、タツカー

博士は時の大學總理にして、予等の社會學の教授なりしが、予の病めるを聞くや直ちに傳染性なる、而も外國の一書生なる予の病室を訪問せられ、萬端の指揮及び注意を即座に決定し、且發熱中は毎日必ず二度づゝ見舞はれたり。又五十日間の就褥中氏の夫人の手にて好意を以て調理せられし種々の食品を三度ながら時々贈與せられたり。又、ウテーカー氏は優等生にして他日外國に留學生として派遣せらるべく非常に多忙なる際にも拘はらず、予の徒然を慰めんが爲に其の繁忙の中より毎夕來りて、面白き小説、雑誌などを讀み聞かせられたり。又或親友は、一日數回臥せる予の全身を鄭重に拭ひ清め、種々の汚物をも一々手づから取りかたづけられ、共の他猶云ひ盡し難き介抱を受けぬ。又光線のよくあたる室に予を移すべしと醫師の勸告せしより、直ちに三人も室がへをなして、最もよき室に予を入らしめたり。(彼地の室はストーブ、炭、石炭等一切備へつけにて、完備せる丈け容易に室を更ふべきにあらず。中々手間のかゝる、おつくうなるものなり。)

予が久しく居たりし家庭にては、雪の深き時などは、夫人自ら車を驅りて學校迄予を迎へに來られし事も屢々なりき。而して予が病を獲て此の家に歸りし時、二人の小兒は予が枕頭に睦れて予の頭を撫で、予の手を取り唄歌をうたひながら遊戯せり。其の歌の意は「あなたは牝鶏なり。我等は雛なり。親鳥の傍に遊ぶ雛の嬉しさよ」となり。予は之を聞いて實に骨肉の情をもちぬ。我が國人の動々もすれば、座席を爭ひ、年少者を顧みず、或は外國人に尊敬の念を拂はざるが如きと同日の談ならんや。

扨て、倫理というものは、倫理學として理論上より學ぶこと、實踐すべきが爲に實地實行に就きて修むるとの二つに分つべし。

而して此の學校の第一に勉むる事は、前にも云へる如く、品性を養成すること、即ち實行することを以て主とす。故に予は寧ろ學理としては、敢へて贅言せざるも、諸子は自ら誠めて發見せられんことを希望す。予が今日諸子に希望する所は、諸子自身の心の有様を更へて眞に其の味ひを自覺すると云ふ事に在り。

前回に於て予は諸子に、神道にもせよ、佛教、或は基督、或は儒教、何なりとも一の據所を定め、以て其れに到着すべく一向專心に眞理を研究せられよ。諸子が取る所のものは、何にてもあれ予の束縛する處にあらずと云へり。此を以て諸子或は予の言を聞きて、然らば有神論にても、無神論にてもよしとて放任するが如く、さては撞着するに非ずやと誤解せらるゝ人々もあらんかと察せらるゝ故、更に此が説明をなすべし。

勿論宇宙間の眞理は一より外にあらざれども、古來數多の學者が之に達せん事に勉めて種々の學說を立て、以て今日に至りしと雖も、終に眞理に到着し、之が全權を掌握せし者は未だ一人もあらざるなり。彼のコロンブスが印度に達せんとしてアメリカを發見し、一時は此の地を印度なりと思ひしが如きも、此のアメリカの發見によりて終に世界を一周し、印度にも達する事を得しが如き皆其の間には多少の誤解もあるべけれども、各々夫々に取る所ありて猶撓まず、屈せず進み行く時は、何時かは眞理に到着すべし。諸子乞う、之を解せられよ。即ち何か一つの主義ある人となられよ。決して無主義の人となる可からず。換言すれば、理想あり、目的ある人とならざる可からざるなり。

希望（hope）諸子或は云はん。年若きを以て未だ定むる事を得ずと。メレー・ライオンは如何。十三歳の時既に立派なる思想を以て一の希望を定め、之を生涯に貫徹せり。而して之がアメリカの今日の教育の基ともなりしなり。然れば之に徵するも、諸子は年齡は希望を定むる上に於て決して早きものならず。骨相學者は、人の頭を以て人物を知ると。曰く「人の頭には善事を希望追求する機關ありて、之には大小あり、然るに他の動物は之を缺きたるを以て前途の理想―希望なし。是は人間に限りて在するものなり」と。

此の力の大小は個人に取りても、社會に取りても進步の大原動力となる、最も大切なものなり。諸子は須らく此の活力を得て、有爲の人物となられん事を切望す。（實踐倫理講話）

倫理學とは如何なるものか

倫理學は行ひの學術なり。故に之を英語にて云へば conduct（行狀）又は ethics（實地行ふ）に當る學問なり。此れを以て moral science（道義學）或は freedom（自由）の學問とも云へり。凡そ世界の哲學とか、倫理學とかは、其の淵源を希臘に發し、日本の倫理は支那より傳はりたり。支那にては伏羲氏易を起し、天地間の理法を說きて以て人生に及ばさんとしたるが、是れもありしによりて我が國の倫理も大いに基の發達を助けられたり。斯かる事實より推すも、倫理學は實踐の學なりとも云ふを得べし。

諸子は今須く心の中に於て心理的大變化を爲さゞる可からず。是れ最も必要なる事にて理解的のものには非ず。全く心の働きなり。予が切望する所は、諸子が悟りを開かん事なり。即ち悟りを開きし後、說明すべき事多し。心の變化は諸子が人となり、品性を作るにつきて最も大切なる事なり。婦人の知識を

開拓する上に、又諸子が世に立つ上に學識も知識も勿論必要なれ共一層大切なるは品性なり。現今我が國の有様を見るに、婦人の爲すべき事柄は名稱ばかりにて、實際は凡て男子の手にあり。知識足らざる故か、學識狹き故か、是れ世人の非難するのみならず、實際何か一つ缺けたるものあるに相違なし。故に諸子が進むに當りて先づ第一に自覺すべき事は、自分と云ふこと、並びに自分の缺點を知る事なり。人々己の失敗は實に殘念にて苦しきものなり。然れども、古來事を成就したるものは必ず失敗を重ねたる人に多し。失敗は實に己を研磨する所の試驗にして、之を重ねて後にこそ、大事業をも成し得るものなり。思ふに諸子の境遇は、恰も目下の季節に相當せり。即ち此の好時節——草木發芽の候に於て、其の知識を開拓し、良種を選びて農家の種播きする如く、諸子の腦裡に下種する非ざれば、善見なる實を結ぶこと能はざるべし。故に先づ心を進化せしめざる可らかず。是れ倫理學を學ぶ目的にして、實踐倫理の眞髓なり。即ち ultimate good 終局的善を研究し、生涯の目的を定むべし。次ぎには、其の目的を達すべき方法及び道を講ずべし。換言すれば、心意の進化と研究の方法とを發見し、且變化せん事を勉めざる可からず。是れ予が品性の修養と、眞理の研究との二方面より說き起さんとする所以なり。

（實踐倫理講話）

吾人の理想

第一、我が國の品位を高むること

イ、女子教育を奬勵し、日本婦人として恥かしからざる人物を養成し、以て家庭の品位を高尙ならしむべし。

ロ、日本國民なりと云ふ觀念を强くし、外國に對しても我が邦の體面を汚さぬ樣に心掛くべし。是れは先づ國民の教育を普及せしめ、然る後初めて見る事を得べきものなり。殊に女子は家庭にありて直接子女教育の任に當るものなれば、所謂良妻賢母となりて其の任を全うすべし。

第二、廣く世界の形勢に注目して學術界に、實業界に、富國に、强兵に、我が國をして世界の競爭場裡の主人公たらしめんこと

斯くの如くならしめるには、是非社會を改良せざるべからず、即ち家庭の主動者たる女子を教育して其の力に俟つべきものなり。

實に國家の盛衰は、其の國婦女子の賢愚によると云ふことを得べし。何となれば、婦人の賢愚は之を大にしては、社會の進退の步調となり、小にしては一家の興廢存亡に關するものなれ

ばなり。而して社會を亂し、一家を亡ぼす事も、寧ろ男子よりも女子によりて生ずる事多きは事實なり。願くば女子たるもの、此に省みて自ら努力せられよ。先哲曰く、女子と小人とは養ひ難しと。此の苦言に鑑み大いに女子の品格を高め、其の學識を廣むる事を忽せにす可からざるなり。予は我が國の品位を高め、我が國の幸福を增進せんが爲に大いに女子教育に盡さんとす。

凡そ世の進歩につれて生存競爭烈しくなれば、人心も自ら輕佻浮薄に傾き易く、古の如く實着質朴など云ふ事は稀になりゆくものなり。されば往々國の爲を考へずして、私利を貪ぼり、我慾を逞しうせんとする者をも生じ、動々もすれば、泰然として持する所ある潔白の態度を保つ事能はずして、世に云ふ小刀細工をなし、商業に、工業に、其の他百般事に就きて一時の益を計らんとする者あり。

我が日本帝國は四方海を繞らし、亞細亞より亞米利加に通ずる唯一の大港を有し、加ふるに產物も亦豐饒なり。故に海外輸出品の中にも名聲高きもの尠からず。然るに偶々狡猾商ありて、間々粗惡の品を混ずるにより、品質大いに低下し之が爲に外評をおとしゝもの、蓋し尠少ならざるなり。一例を云へば、茶、織物、生絲等の類これなり。然らば如何にして此の惡弊を匡正すべきか。曰く、先づ國民教育の普及を圖り、國家的觀念を發達せしめざる可らず。其の天與の寶庫を開き、之れに人工を加へて琢磨し、外國の信用を固くして我が國の品位を高尚に保たんには必ず道德的基礎に由らざる可からず。扨て今諸子の心理に於ける問題及び、內外より來る試みを大別すれ

第一、むづかしき事

生涯の目的、目的を達するに就きての決心、目的を達する方法。

第二、內部（感情）より起る試み

迷ひ、競爭、不平（不平に二種あり、自身に就きての不滿と自分の境遇に關する之なり。而して之をよく利用すれば己の益となり惡しく用ふれば事を破壞し己を躓かすものなり。國民の不平をよく用ふれば革命となり、改良となり、進歩を來す源となるものなり。或人曰く、不平とは意思の薄弱なる事と、自分に依るといふ事を缺くことによりて起るものなりと。）

怪我、不健康（之は凡ての障碍の原因となるものなり。故に最もよく注意して健康を計り、活發なる精神を養ひ以て知識を開拓すべし。）

第三、外部より來る試み

輿論の攻擊（一は嫉妬、一は主義の衝突）、近親の反對、境

遇の變化。

外部より起る試みの中、主なるものは、輿論の攻撃にして、之には二つの原因あり、其の一は嫉妬により、一は主義方針—目的の反對（衝突）之なり。併し或は事をなし、或は自己の品性を造らんとする者は必ず戰場に立てるものと心得べし。夫れには非常なる勇氣を要す。如何なる讒謗攻撃にも怯まず臆せず、之に打ち勝つべし。是は卽ち消極的の test なり。

今日諸子は困難なる境遇に立てる故、卒業後は大いに其の性質、境遇をも變ふるならん。此の二百人の諸子の中には、將來卓絶せる見識を以て世に出づる者あらん。又は内外の刺戟に堪へずして、凡々に終る者もあらん。されど予は、一人にても卓出せる人あらん事を希望するなり。又更に進みては、諸子が卒業後、大學出身の名に相應する所の有力なる婦人となり、社會に卒先して世人を導き我が國の教育、及び延いては東洋の知識をも開發せられん事を切望するなり。米國には、メレー・ライオンと云ふ一人の女子出でし爲に今日の如き國となりしにあらずや。世間の識者は皆云ふ。日本の教育は先づ女子をして進ましめ、今後その力によりて社會の空氣を一洗せざる可からずと。以て世の女子に俟つ所大なるを知るべし。諸子は此の重大なる世の期待に應ずべき、主義方針理想を有せりや、否や。又諸子の中に拔群の秀才を出すとも、今日の我が國の有樣にては其の女子一人の力に由りて進歩せしめんことは到底望むべきにあらず。故に諸子は是れより相寄りて一の有機體となり、愛校心—親和力を養ひて其の目的理想を確定し、必ず成功せられんことを熱望す。

（實踐倫理講話）

理想、目的、希望

同一の鍼にても磁氣を有するものと、有せざるものとの二種あり。而して此の磁氣を感ぜしむるには兩種を打ち合はすれば直ちに感應し、もとの力は少しも減ぜざるのみならず漸次擴がるものなり。諸子には果して此の力ありや否や。若し無しとすれば速かに感應せざる可からず。又有りとすれば之を人に施さゞる可からず、諸子は此の原動力を得ることに大いに勉むべきなり。古來聖人或は偉人などゝ稱せられし人々は皆此の力ありしによるなり。然れども、之とても容易に成功したるにはあらず。今日我が國の教育を唱導する者は、皆此の力の乏しきを歎ぜざるはなし。又人民にとりて云ふも、國民を統一するに困難なるを歎くなり。此に於て或人は、宗教によりて人心を收め、此の力を養成せしむべしといふ。例へば釋迦の如きは遁世

して山中に多年の辛苦を盡し以て一の信ずる所を發見し、クリストは四十餘日の斷食をなし、マホメットは土穴の中に苦しみしを聞かずや。凡人と雖も此の理想―目的及び希望を解し得る時は此の境に到るを得べし。

理想、卽ち ideal は人の行ひにも事業にも、文學にも、美術にもあり。例へば、行爲にとりて云へば究極の善とも云ふべし。個人の行爲にも、學校にも、社會にも必ず一の理想あり。而して此の世の中は是非 utopia とならざる可からず。今日の如く戰爭などする有樣にては未だし。

希望（hope）目的に達せんには數多の困難あり、又多くの時を要す。されど如可なる事をも忍びて之に打ち勝ち、以て其の目的に到達せんとする大決斷なかる可からず。吾人の目ざす境地、孔子の仁、基督の愛の說く所にして、佛敎にては極樂、基督敎にては天國と稱す。理想、或は目的を分ちて二とす。例へば倫理學、物理學等に云ふ學の意は二あり、一つは science 一つは philosophy 之なり。倫理學は moral philosophy と云ふべし。凡てのものに通じて最大なる理法を發見すると云ふ時には philosophy の語を用ふ。物には擬物と眞物とあり、而して擬物は空想なり。一種の power が出でざれば凡て甲斐なき事と知るべし。

諸子の此の學期間に必ず爲すべき事は

(1) 事物を研究する方法及び

(2) 永久不滅の精神―一種の動力

右	左
知識	能力
讀書	實驗
記憶力	推理力
命令	工夫
講義	研究
教授	自修

是なり。諸子は右の方法によりて如何に此の一學期を經過し來りしかを反省せられよ。從來は必ず右の方に重きを置けるを感ぜしならん。然し予は今後、諸子が一層奮發して左右平均に、若しくは左の方に多く傾かれんことを切望す。

試みに、諸子の理想を問はゞ或は云はん。賢母、良妻とならん事を欲すと。西洋の婦人にも往々曰く、淑女たらんことを望むと。之當然の言なりと雖も、熟考せられよ。男子にしてよき父となり、よき夫とならん事を期すと云はゞ、世人は如何に感ずべきか。妻に對して夫と云ひ、淑女と云ふ詞に對して紳士あり、之等は畢生の目的とすべき全體にはあらずして、僅かに一部分を指せるものなり。

我が國の敎育及び、人民の思想は實に狹隘なるものとなれり。故に是非進化せしめざる可からず。西洋の一學者、此の進

化と云ふことの定義を下して曰く、

「進化とは、吾人の中に宿る力の働きによりて、又一定の法則に從つて常に繼續せる進歩的の變化なり」と。

ルソーは一の理想を描き、而して之が因となり佛國の革命は起りぬ。ピューリタンは一の理想の故を以て自國を捨てゝ亞米利加に渡り、今日の共和國を建つるに至れり。

コロンブスは印度に達せんとする一心より、新大陸の發見をなせるにあらずや。是を以て見れば、將來大學の業を修めんとする諸子は、今日の單純なる思想をして一層複雜に進化せしめざる可からず。知識を開拓しつゝあれば、不審、質疑等の交々來るあり。夫れに乘じて大いに心を振張せざる可からず。彼の冬日莖葉萎縮し、恰も跡なきが加き有樣なりし草木が、一度春陽に接するや、忽ち葉茂り、花開き、立ち榮ゆるを見ずや。吾人心中の進化も亦方に是に似たり。

（實踐倫理講話）

教授法及び試驗の方法

今日は第二學期に行はんとする教授法及び試驗の方法を布告すべし。是等の凡ての方法は、皆目的を達せんが爲の方便なり。構へて目的と方便とを混同し、或は主客を顚倒するが如き事ある可からず。

先づ諸子の學問を爲す目的を定めざる可からず。凡そ大學に入るに當りてよく人の問ふ事は、汝は學位を得んが爲にするか否かと云ふ事なり。而して學位を得んとするものは、論文を草して之を請求するなり。本校は諸子に學位を與ふるや否や。然らず。諸子は此の學校に於て資格を與へらるゝなり。而して此れを爲すには勢ひ多少の試驗を要するなり。惟ふに諸子の中には、實力を修養するが爲に、此の資格を得んが爲と其の希望に二種あらん。吾々は諸子が是れ丈けの程度に進みたりとて、政府に交渉して學位の請求をなしたり又世間にこれを發表する等のことは爲さざるなり。諸子が卒業後直ちに facility ならざる時は、學位、資格などは何の効をも爲さゞるなり。諸子が此の校を卒業して世に立つ曉、諸子の責任の如何に重、且大なるかを思はゞ、此の三年間に諸子は如何なるものを獲ておくべきか。又如何なる人物となりおくべきかは問題なり。併し、此は予が敢へて喋々するを俟たざるなり。故に予は諸子の學力、主意等を早く知るの必要あり。諸子が果して成功し得べきか否かを問はるれば、予は答へん。「諸子が各々爲すべき事に勉め、其の取るべき方法を誤らずば、敢へて成らざる所以なきなり」と。

予の受け持つ所は實踐倫理學 practical ethics なり。之は純

正倫理學 pure ethics に對して云ふ事なり。而して實踐倫理學は、純正倫理學の如く、理論、學說等を主とせざるも、其の中自ら整然たる秩序あるものなり。故に先づ之を諸子に咀嚼せしめん事を要す。現今、世界各國にて最も研究の新しきものは、社會學にして、これに續くものは、婦人問題、勞働問題等なり。而して是等は凡てpractical ethicsに含まるゝものなり。故に予が受け持つ處のものは、時々刻々に起り來る活問題にして、須臾も研究を怠る可からざるものなり。諸子と共に直接研究すべきものなる故、學生の進むに先立ちて實行すべきものなり。例へば時計の役は時を計るにあり、之をして其の用をなさしめんには、先づ此れを卷きて原動力を與へざる可からず。斯くの如く諸子各自が研究の第一着として勉むべきものは玆に存す。諸子の生涯に決して滅す可からざる處の燃燒力を保つ事を得ば、予の大いに滿足する處にして、之を得るは卽ち教育の目的なり。

一、原動力　二、實力　三、方法

此の三つのもの揃はざれば、何事をも成就する事能はず。又大いに時間に損あり。今日世界各國の教育の有樣を見るに、我が國もその進步著るしきものあれども、眞理を發見する點に於て教育法の不完全未だしきなり。然らばそは何故なるかと云ふに、全く教育の方法宜しからざるが爲なり。故に予は教育の方法を根柢より改革せんと欲するものなり。而して之は先づ、諸子より始めざる可からず。予は知識の分量よりも、此の三つの點に重きを置くなり。此れを以て予が諸子に要求することは、經驗、實驗、觀察等に富み、卽ち自動的にして且最も適當なる學課を選擇して發達すると云ふ事にあり。　（實踐倫理講話）

原動力とは如何なるものか及び之を得る方法は如何にすべきか

諸子各々その目的、理想に達する事を得ば、之を成功の生涯といふ。然る時は諸子自らの爲は勿論、國家、社會の爲有益なる人となるなり。

而して之を爲すには資本を要す。例へば、時、金、才、健康、意志等は、必ず揃はざる可からず。是等のものは、成るべく多くを得べき事なり。其の成るべく多くを得るには卽ち原動力を養成せざるべからず。一、二の例を擧ぐれば、永くアメリカにて商業を爲しゝ人の話に、猶太人の娘を年久しく召使ひし事あるが、其の家に來りし時は、僅か十三歲なりしに、よく働きその熱誠驚くべきものあり。故に如何にして斯くも働くかと仔細に觀察したるに彼女は每夜就寢前に、一の本の如きものを

見るを常とせしが、是は貯蓄銀行の帳面なりき。而して數年にして少女としては隨分多額の貯金をなすに至れり。之が彼女の唯一の目的にして、且猶太人の特性なり。思ふに、猶太人は今日迄、純粹なる血統を以て存すれども、猶太國は已に滅亡せり。故に富を以て第一となし、又何時にても旅行の必要を生じたる時の用意を爲さゞる可からず。特に女子は結婚なども殆ど貯蓄の多寡によりて定めらるゝ故に、若し、貯蓄なき女子ありとすれば、斯かる女は役に立たずとて、排斥せらるゝ有樣なり。故に此の一事が猶太人の凡ての行爲の動機となれるなり。支那人も、チヤン〳〵とて輕蔑を受けながら、よく數千金を容易に得て貯蓄する心に富めり。日本人は其の力乏しき故、外國に行きて商法を爲すも、數百金の利益を得て歸る者も少し。是等は金の事なれど、學問を修むるにも同樣なり。例へば、フランクリン氏の如きは大學に學ぶ事すらなし得ざりしにも拘らず、彼國幾百千の大學卒業生を凌いで世界に名譽を轟かせたるが如し。扨て原動力に三種あり左の如し。

原動力
- 第一、性質―善と惡と智力的のもの、倫理的のもの、審美的のもの、創造的のもの
- 第二、程度
- 第三、永久に堪へる事

教育の目的は、壓制的ならずして incentives を起さしむるにあり。諸子は成るべく其の點に迄達せんことに勉むべし。

扨て此の吾人をして活動せしむる力、卽ち原動力を大別すると

incentives
- physical impuls　生理的原動力
- mental impuls　心理的原動力

身體に對しては精神とも云ふ。而して精神の働きを起さしむるものを incentives 又は motives と云ふなり。凡て語には類似せるものあり。故に注意せざる可からず。例へば行爲は conduct と云ひ、動作は action と云ふが如し。行爲とは、必ず吾人の意志に基きて起る處の活動にして、其の活動は、必ずしも身體の上に現れざるものをも云ふ。之に反して動作とは、已に行ひの上に現れたるものにして、必ずしも意志に關係せざるものを云ふなり。

凡て今日我々が學問し、企圖する事も皆行爲なり。而して其の善惡は、悉く自己の幸禍損德となるものなり。故に行爲を善くせん事を佛教家に問へば、戒を守れと云はん。又クリスト教にては、行ひを正しくして十戒を守れと云はん。然れども、戒其のものが道德をすゝめ、人間を左右するものには非ざるべし。此を以て行爲なり、學問なり、眞に成就する人あらば、是

は其の前に心が非常によく働きしなり。畢竟其のもとは意志なるも、意志を動かして此に至らしむるものは原動力に外ならざるなり。例へば、本校に多額の金員を寄附せし人夥し。其の精神を見れば、種々の精神より出でたる行爲にして、名譽の爲に、利己の爲に、或は愛國心、或は信仰心などより起れるものなり。故に其の金額の多寡によりて論ずべきには非ざるなり。

諸子が學問を修むる上に於て始終養ふべきものは、精神を高尚にする事、換言すれば、原動力を養成する事なり。最もよき、高尚なる精神を養ひて取りかゝらざれば、眞の大業は成し難し。然らば、如何にすれば之を養ひ得べきかと云ふ事は、一の問題なり。即ち宗教、神學、哲學、科學等によらざる可からず。吾人は其の中の何れによるべきか。抑も人間の進歩發達及び吾々の成長の順序より考ふれば、最初に宗教、次ぎに神學、哲學、科學的となるが如し。

トランスヴアール國民が、非常の勢ひを以て英國に反抗し、少しも屈せざる所以のものは、一の宗教心なり。彼の蒸汽船が、蒸汽の力により石炭、材木等の燃料を要するが如く、吾人の心の中にも燃やすべき材料を要するなり。而して此れにも種々あれども何にてもよし、要は其の取り方、即ち選擇の如何にあり。選擇宜しきを得れば諸子を幸福にし、惡ければ大いに害ふ。さて心理的原動力を細別すれば次ぎの如し。

心理的原動力
- 一、智能的原動力
- 二、倫理的原動力
- 三、審美的原動力
- 四、構造的原動力

（實踐倫理講話）

選擇と改心

吾人の今最も勉むべき事に二つあり、第一は選擇にして、第二は心をかふる事なり。

第一選擇には善惡の二つあるのみ。故に最も適當に選ぶ時は常に善となるなり。

選擇
- 一、善……圓滿、全體
- 二、惡……偏、　局部

吾人の心身には常に燃えてやまざる處の火あり。故に之が圓滿に燃ゆる時は善きも、偏すれば甚だ惡し。其の一例をあぐれば、米國大統領を暗殺せし者の言に曰く、予は幾度も此の兇行を遂行せんと狙ひしも、果すこと能はず、殆ど絶望せしも、或社會黨の一女子の演說中に「凡て各國の國王は、悉く全滅に歸

せしめざるべからず」と云へり。此の一語は忽ち予が主義決心を沸騰せしめ、予をして最早猶豫する事能はざらしめたり」と。或は我が國の伊庭想太郎の如き、國家の爲に一命を抛ちて星氏を殺さゞる可からずとなし、遂に此れを決行せるものなり。彼等の此の精神は、よく萬物を排して此の暗殺を遂げしむるに至りしも、暗殺は實に東西共に惡しゝとする所なり、彼等の心中に今少しく圓滿なる火が燃えしならば、彼等が國家に盡す所の精力は一層よく働きしならんも、惜しい哉、其の火力は一方に偏したるが爲に己の生命をも亡ぼすに至りしなり。

第二、心を更ふる事。今我々の心が痲痺してゐるとか、眠つてゐるとか云ふことあり。然るに悔ゆるとか、目がさめるとか云ふ時は、さきの我とは非常に變りあり。斯かる事を改心と云ふ。改心とは、從來心中に惡しき原動力の働きしを、今度は善き原動力が働くやうになる事にして、之を生れかはるとか、甦生するとか云ふなり。而して吾人の身體健全なる時は、心中に燃ゆる火卽ち佛教に所謂煩腦はやむなきも、若し不健康ならんか、夜は眠るべきに眠られず食時ならざるに食氣を催す等の事あり。故に不健康なる時に凡ての慾に從はゞ、大害あり。斯かる人は大いに impulse を更へざる可からず、此の如き事は單り身體の健、不健に限らず、平生吾人の心中にも亦斯かる狀態あり。されば心に起る情は善きものもあれど惡しきものもあり、吾人の心には是非速かに更めざる可からざる事あり。而して之を改むるには三つの方法あり。

一、生理的變化より心理的變化を來すもの

昔は心理學と、生理學とは別物なりしも、今日にては生理學を學ぶには、必ず心理學を辨へざる可からず。心理學を研究せんとすれば、必ず生理學の知識なかる可からず。兩者は必ず相伴ふべきものにて吾人が人を教育する上に於ても又己を正しくする上に於ても考へざる可からざる事なり。

嘗て予の友人に放蕩者ありて、予も屢々注意を與へたれど甲斐なかりき。此の人は元來酒を好み、酒盃一度口に觸るれば、前後不覺の所業多かりしも、此の頃斷然禁酒せしに全く別人の如くなりて、溫厚なる人となり、家業に出精せり。此の人の斯く迄變りしは不思議のやうなるも、蓋しこは故ある事にして、此の程條虫出たりと云ふ。條虫は其の口を取らざれば根治する事能はざるものなり。然るに夫れは非常に口長くなりて、隨分成長せしものなりき。さて此れが出でしより酒を好まぬ樣になりし由にて、卽ち身體の有樣が變りてより、實に善き人になれりと云ふ。之は先日聞きし一例なり。其の他身體の變化が心に影響する事に就きては、其の例少からず。

二、心理上の一時の變化

是は何か心に非常に感動する事又は、非常に悟る事ありたる時に生ずる變化なり。是は誰も幾度も書にて讀み耳にせし事あるも、眞に其の事をするものなし。諸子の中にも、或は之を信ずる人少からんと思はる。眞に諸子の心に之を了解し、心中に一つの力を得られんことを希望す。

昔、アテネに極めて訥辯なる人ありき。聲は非常に低く、性質甚だ溫厚にして、恰も羊の如き人なりき。斯く語はどもり體は弱き人なりしも、一度時を得しより、全く別の人となり、古今無双の雄辯家なれり。此の人年甫めて十六歳なりし時、アテネにて、民法案に關して大演說をなせる人ありき。之を此の少年は聞きて大いに感激し、男子たるものは須らく斯くの如くならざる可からずと奮ひ起ちて、自分の聲を練習する爲に、野に叫び、海濱に出で、波の響きに勝つ發聲の練習をなせり。又或る時は、調子を整ふる爲に石を銜みなどし、或は家に籠りて鍛錬し、又修辭學を研究し、思想を高尚にし、專ら將來大雄辯家たらん事に苦心せしが、遂に放逸安居せるアテネ人を喚起して、强大なる國家を形成せしめ、救世主とも稱せられしは抑も何人ぞや、曰く、デモステネス其の人なり。之は男子の一例なるがさて女子の身にして何としても出來ぬ事は兵役につくの一事なり。之さへ除かば奮發次第にては隨分男子の爲すべき事をも爲し得べし。然るに此の兵士の爲すことを敢へて爲せし婦人あり。之をジャンヌ・ダルクとす。ジャンヌ・ダルクは田舍に生れし一少女なるが、十三歳の時、佛國の危急に際し、負傷兵の事を聞きて大いに感激し、身は一女子なるも佛國の爲に大いに戰はんものと非常なる苦心の結果、善く其の功を全うせし人なり。之等は例外なるも、一旦心のかへ方によりて、斯程の事も成就し得ると云ふ事は大いに學ぶべきなり。故に諸子が爲すべき事を成功するには、兎も角も非常なる困難を經過せざる可からず。其の力だに得る時は容易なる業なり。されば是非此の力を得られん事を要す。而して夫れには方法あり。

ジャンヌ・ダルクは極く內氣なる女らしき人物なりしも、この難事を耐へ忍びて成功せり。一は女の身を以て男の爲す事を爲し、天晴の大將となり、千軍萬馬の間に起ちて少しも狼狽する事なかりき。今一は兩親が如何程歎きしかも知れず。されど是が爲に少しも心を動かされざりき。又、一婦人の身にて兵士となり、佛蘭西の爲に英軍と戰はんと云ふも、誰か之を信ずる者あらんや。然れども屈せず撓まず、纖手よく萎微せる佛國の人心を鼓舞して一方の勇將となりし事、實に難き事なり。而して彼自ら善く此の難に堪へたる所以は、眞に愛國心の大なるも

のありしによるなり。凡その人の世にありて非常なる事を爲さんには、手段あり。マホメットは三年間穴居して考へ、釋尊は山中に入りて行を積み、クリストは四十日間斷食をなして人民の爲に祈れり。

予が今日迄學校を持ちし經驗によれば何處にも三、四種の人あり。卽ち何か事ある時には、己の寢食をも打ち忘れて考ふる人あり、不平なる人あり、得意になる人あり、又何ともなき人あり、例へば、學校全體に何かする時にも、話に加はらず、少しも關係せぬが如き之なり。斯く種々ある中にも、少々不平がる位は恕すべきも、最も惡しきは何も感ぜざる事なり。若し己の事より外の事は少しも氣にかゝらぬ者あらば、英語にてこれを selfish men と云ふ。世界中にて、最も愛國心の乏しきものは支那人、猶太人なり。此の猶太人及び支那人は、利己主義の外何をも思はず故に此等の徒は、世界各國何處に行くも愛國心のなき者として誰も齒せざるなり。國家に對する愛國心の必要なるが如く、學校にても愛校心の大切なるは、言を俟たざるなり。

予の久しく居りし町に、一億萬圓の金を自分一代に貯蓄せる人ありき。然れども公共事業には一錢をも出さゞりき。其の人の從弟に、ジョン・ポプキンと云ふ人ありて、大學の費用に應分の寄附せられん事を相談せしも、斷然拒絶したり。斯くて此の人は遂に誰にも之を與へずして死し後には七十餘歳の未亡人殘りしが、其の家に三十歳ばかりの園丁を召し使ひ居たりしに、此の未亡人は彼の園丁に結婚を申し込みて先づ二百萬圓を支度料として與へたり。其の後、予が歸朝して三年目に其の老婦人は死せしより、彼の大金は其の儘園丁の手に渡りしかば、巨萬の財は秋毫も世に益をなさゞりき。之に反して、サンフランシスコのスタンフォードと云ふ人は、同じく一億萬圓の金を有せしが、子もなく夫婦のみなりしに、スタンフォード・ユニバアシチーの爲に悉く其の金を出したり。凡そ社會に利己主義の者多く出づる時は、其の國は決して發達せず。又斯かる人は何處に行きても除け者にされ、社會の爲にもならず、故に全體の爲に考へるといふ事は何の上にも必要なり。吾人の一擧一動は、是が原動力となりて働かざる可からず。大金を出しゝ者も、大なる公益事業なるが、生涯苦心して身を犧牲となしゝ者は最も大なりとす。例へば布哇は癩病人多き所にして、之に罹れば或一小島に移されて一生其處にあぢきなく果つる習慣なり。然るに佛國の一女子は炒齡の健康體にして、將來如何なる幸福をも得らるべき身なるにも拘はらず、此の島人の不幸を慰めんといふ心のもだし難くて、遂に此の島に移住し、是等病人

の爲に一命を捧げて十年間程働きたる後、同症に罹りて此處に死しぬ。其の志や賞すべし。

（實踐倫理講話）

吾人今日の責任

一昨日の來賓中、湯本武比古君の演説に、此の日本女子大學校は、我が國に於ける唯一の女子高等教育を施す場所なり。故に凡ての教育界は皆模範を此處に仰がんと、注目して俟つ所なり。斯くの如く責任の重、且大なるを見ても宜しく全力を盡して世に益せられん事を希望す、と云はれ、西園寺公爵は、此の日本女子大學校を興し〻事は、日本女子の爲に一紀元を與へしものにして、東洋女子の新天地を開きしものは、實に此の日本女子大學校なりと稱せらる〻程に成功を奏せよ、と述べられたり。横濱の或外字雜誌は、今我々は日本の外資輸入に、財政困難に、其の他種々の問題に就き心配せるが、此の日本女子大學校が成功せしならば、是等の杞憂は立ちどころに消滅すべく、以て東洋の文明を生む事を得るならんと云へり。之等は敢へて過言にはあらざるべし。

彼のジヤンヌ・ダルクの如きは、國の將さに滅亡せんとする危機一髪の時に處して、斯程の事業をなし、國家をも救ひたり。我々は此の開明太平の世に生れて、何故に彼等の爲し〻程の愛國心を燃やさゞるか。之は只書籍を讀みしのみにては出來ず、一種の大なる力、卽ち校風を生まざる可からず、一度之を生みおかば、永久に繼續して發達する事を得べし。日本魂は國民の生命なり。若し我々極少數の人々が此に校風を生みおかば、將來次第に發達せんこと疑ひなし。故に此の時代に當り、最も注意すべき事數ケ條を云はん。

第一、愛國心及び愛校心、第二、私心を去る事、selfish の弊害を具體的に例すれば解し易からん。例へば先日の夜會の如き折などに、諸々の役目を定むるにも、投票にすればやはり男子間にては運動するもの等ありて、不平あり。甚だしきに至りては、人を中傷離間して叩き落しても自分が其の任に代らんとするが如き事少からず。斯く組織を作る上に於て此の selfish は弊害最も多く、且大なるものなれば、之を除かざる中は、團體をなして眞の organism となる事無し。予はこれ迄、婦人會に、青年會に、廢娼論に、種々の團體より依頼を受け、又寮舍などの事にも度々干渉せし事あれど、何時も日本にては旨くゆくもの少し。故に、各國共に斯かるものにやと漫遊中にも此の社會事業に注意して研究せしが、西洋と我が國とは、凡ての點に於て大いに趣きを異にせるを感じたり。私心とは、先づ下に

示すがごときものを云ふなり。嫉妬、高慢、我が儘、猜疑等。

團體的原動力

惟ふに、今日迄の吾々の有樣は烏合の衆に外ならざりき。只渾沌たる狀態なりしも、漸々進みて機械的の關係となれり。而して今少しく進む時は、始めて有機的關係の團體となるべく、凡ての事に此の三つの順序あるものなり。我々は今、有機的關係を以て其の中に一種の生命ある團體とならんことを希望せるなり。其の有機的關係を生ずるに最も必要なる條件は、吾々の心中に働ける活動力なり。若し吾々の心を圖に畫きて見るならば、隨分發達して大きなる頭腦を有する人もあり、又小さきもあり、種々雜多なり。然れど之を一つのものとして見るときは、物質の存在する以上は、必ず一つの力あり。そは凝集力なり。凡て物體と物體とが關係して、大きく云へば宇內となり、小さく云へば吾人の身體となる。それをさして引力と云ふなり。予惟ふに、若し吾々の心中に働く力が凝集力にして、私といふものゝみ働き、私のみが行爲なりしならば決して發達する事能はず。然れども其の間に物質が集りて體を成す時は、必ず引力を有するものにして然る時は vital power とか、親和力とか種々の名を付くるなり。吾々は有機的關係なる故、一の學校となり、一の會となる時は烏合のものに非ず。關係を相持して一の活きたるものとなるには物體ならば引力と雖も、心にては外の名を附けざる可からず。此の力なかりせば、眞の團體とはならず。而してこれを破壞するものは、物體にて云へば反撥力なり。例へば其の原動力となるものは、光、熱、電氣等もあれど、斯かるものが其の間に生ずる時は、こはれて了ふなり。故に玆に引力と、反撥力と戰へるも、引力が之に勝たざる可からず。其の反撥力の著しきものは、人の心にある嫉妬なり。是は凡ての團體を破壞する所の大なる反撥力にして、內閣も、會社も、皆之によりて瓦解する事、日本人の通弊なり。之は島國なる故もあらん。又、封建の餘波にもやあらん。實に頭腦の狹小なるを示すものなり。之は獨り女子のみならず、男子にも高慢心とか猜疑心とか甚だ夥しく、彼の歐米諸國の人々の如く、廣量大度にして有爲の質を備ふる者甚だ稀なり。斯かる私心が一つにても我が心中にある時は何事も成功せず。諸子が此の校に入りて人と共に爲す事を勉め、反撥心に勝つ事能はずば、孰れの學校、孰れの家庭にてもやはり成功せず、度外視せらるゝに至らん。就中嫉妬などは、吾々の成功を害するのみならず、身體の成長をも害するものなり。其の次ぎに害をなすものは、虛榮卽ち名譽心なり。吾々が之に勝たざれば、何事にも成功せ

ず。故に譏譽褒貶を意とせざるものとならざる可からず。社會に立ちて國家の爲、人道の爲事を爲さんとするには、之に勝つ丈けの力なくば、決して成功する事能はず。諸子が赤心を以てする事を、人より野心と云ひ、僞善と云ひ、樣々の惡口せらるゝとも、夫れが心にかゝる位ならば、寧ろ去つて隱遁すべし。是はやはり名譽心あるが故なり。吾人は國の爲盡すべき故に働くなり。古來聖賢を見られよ。皆僞善者、野心家と云はれて生命を終へたるに非ずや。されど永久の生命は、常に光明赫々として死せざるにあらずや。

次ぎに競爭心を去らざる可からず。他の人と我とを比較して、人より上にならんとするを競爭心と云ふなり。予は諸子が彼の人よりも己は勝れたりなどゝ比較せざらん事を望む。今諸子各々を見るに、各自の長所あり、短所あり、そは又各々違ふ所に於て長短あるなり。故に目と鼻とを比較する事能はず、物を見るには目に勝る所はなく、嗅ぐ事に至りては、鼻の特權なればなり。故に兎も角も吾々が互に事を爲さんとするには、目のやうなる人、口のやうなる人、各々に長所を持ち合はして交換補益せざる可からず。之を以て競爭せんとするは誤りなり。只我々は、昨日の我と、今日の我とを比較して進歩せんことを希はざる可からず。吾も人も共に進歩せんことを目的とすべきなり。次ぎには獄官熱と云ふ事あり。佛國人は此の熱最も烈しく、役人になるには試驗をなす故に眞の學者は出來ざるなり。英、米などにては斯かる空氣なし。凡そ官途につける人が、必ずしも當時第一流の人物にはあらず。諸子が人と共に事をなす上に於て、虛榮心等よりかくかくなりたるが善しなど思ふは誤りにて、之は反撥力より出づる事なり。故に眞に夫れにならんとする者は、衆人の爲に仕ふるといふ精神なかる可からず。投票の場合にても、一度選びたる以上は、其の人が吾々の爲に仕へて吳るゝもの故、吾等は大いに感謝せざる可からず。畢竟凡ての事には、破壞せんとする力と、成功せしむる力とあるを以て、此の善き力が勝を占むれば、團體を成長せしむるのみならず、各個人をも、夫々成長せしむるものなり。こは全く有機的關係ある故に成長と云ふ事あるなり。

諸子が會を爲すにも、其の中に眞實の social-life が出來ねばならず、表面上の成立は何の効をもなさゞるなり。諸子は種々の方面より來れる故、各々違ふ所に長所短所あり。自重心のあるは善き事なるも、他より少しも感化を受けざる時は、孤立して進歩する事なし。會は始めは打ちとけて儀式ばらずに愉快にせざる可からず。諸子のこれよりなすべき事は、競爭、名譽、利益等が原動力とならずして、主義、研究、taste 等が原

動力となりて、是等のものが日夜活動して發達せん事を要す。

抑も吾々の事を爲す原動力には、一時にして消滅するものと、永久に續くものとあり。消滅する方の力は、之を心理學上の語を以て云ひ現すに最も近きものは本能なり。

action　を起すもとの力に種々あり。本能のみにて働けるものは下等動物なり。人間は最も高尚なるもの故、本能は少きも、本能的の働きを有す。即ち任意的に氣の向く樣にするなり。例へば、本を讀むにも、挿畫を見れば妙だなアと思ひ、讀んで見ようと思ひ立ちて讀めば此れは面白い。それでは猶讀み續けんと考ふる心を生ずるなり。

第一、眞に目的を定めて斯う云ふ事を得ようと思ひてするのとは違ふなり。外界の境遇によりてするは面白き樣なるも、境遇が變るか、六ケしき事に出で遇ふかする時は、永久に持續するものにあらず。忽ち消滅するものなり。

第二、名利、名利心が動機となる事は今日の人が事を爲す主なる原動力なり。是によりて大いに人を奬勵し、鼓舞するものなり。凡そ今日の人の、立身する有樣を見るに四途あるが如し。一は試驗、一は品負、一は門閥、一は實力にして、就中實力によるものは、他の三者によるものよりも、二倍も三倍も骨の折れることなれば、實力のみによりて他を顧みざる人は甚だ稀なり。例へば先日聞きし話あり。或學校に講座開かれ、最初は只研究を目的として試驗をなさゞりしに、その始めには五人の生徒入り來りしも、漸次その跡を絶ちて遂に三人となりしを以て、已むを得ず試驗を課する事とするや否や、忽ち三十人の學生を得たりと云ふ。以て社會人心の如何に名利を追求せるかを知るに足らん。さはれ名利に刺戟せられて起る所の力は永久持續せざるものなり。教育上の事も亦然り。今日我が國の學生は凡て此の方に滔々として走り下れり。諸子はよく是に注意して、その濁流に染まる事なく、折角計畫せる本校の目的方針を失ふ可からず。

第三、競爭心又敵愾心、義士仇討等は單に敵愾心のみより起るにあらず。義、孝を本とせるや明らかなり。之に反しナポレオンの如きは、非常に偉き人にて比類なき力ありしも、續く力にあらず。

第四、第三に反して他を愛する心、例へば博愛、仁道等なり。是より起る心は凡て尊し。

第五、研究心又眞理を愛する心。

即ち第四及び、第五の如き心が眞に吾人の心を動かす原動力となる時は、益々深く進みて永久に發達する事を得るものなり。此の二つのものが心を動かし、行ひを支配し、勢力の源泉

となる人は下の如き特色を有せり。

一、其の人の爲す事は必ず一定し、又必ず一定の制限あるものなり。畢竟其の人は必ず心の中に是が私の天職なり、此の爲に私は生存すと云ふ確たる目的あり。故に多岐にわたる事なし。

二、活動と、研究とが心中に調和宜しきを得て、組織だち居るを以て混雜せず、心に入り來るものは凡て同化し居ると云ふ特色あり。

是等の事を最もよく解し得るには、實例をあげて說明すべし。古來、大業を成せる人の經驗を聞けば明らかならん。斯かる人は皆研究心に富み、又爲す事に制限をつくるものなり。英の哲學者スペンサーは、生來多病なりしも、能く大業を爲せる人なり。當時の英國は、凡ての外國語を修めざる可からざりしも、氏は凡てを取らんとはせざりき。卽ち氏が研究せんとする事に最も必要なる語學を爲しぬ。而して其の生涯に爲しゝ事は、隨分夥しきものなり。就中氏の始めて著述をなしゝは、三十歲の時にして Social statics 七十五部を著はせり。然れども、之を求むる人少くして十四年間に漸く購讀せられたり。次ぎは四十二歲の時 First Principleses を、四十四歲の時には Principles of Biology を、五十一歲の時 Principles of Psychology を著はしぬ。而して彼が畢生の力を集注したる Principles of Sociology は實に三十六年の長日月を費して書きたるものなり。其の他敎育學に關する著書も亦多し。

其の始めに當りては氏が研鑽を盡して著述すれども、世は顧みず印刷を請負ふ人も無かりき。故に氏は少しばかりの財產も是が爲に投げ出し且病身なりしかば、時には十八ヵ月も床に就きし事さへあり。今年は已に八十一歲なるが、斯くの如く輿論にも容れられず、金に乏しく、病身にてありながら、力衰へずして非常の進步發達をなし今年は已に八十一歲なり。此を以て見れば、斯く永續する力を有する人は、自ら悉く他の事を捨てゝ、先づ其の本據を固め、自ら爲すべき事を勉むるものなり。氏の著述及び研究は斯くの如く種々あれども、皆調和して、大、且つ一なる philosophy となれり。諸子の爲に諸講座を設ければ、どれも皆學びたく思ふならん。併し餘り手をひろげ過ぐれば、結局無制限となりて得るところ反つて無からん。故に餘程制限して調和宜しきを得ざる可からず。今は種々の事が頭腦に入り混ぢり居るも、融合して一の production を生ぜざる可からず。斯くなる時は諸子の研究力は如何なる事に遭遇するも、決して衰へず、進步發達する事を得るなり。ヘブライの諺にキヤメルラツクド云々と云ふ事あり。其の意は己の取る

べきものを失ふと云ふ事なり。返す〳〵も制限を加へ心の中の調和融合を計らざる可からず。

（實踐倫理講話）

注意力の集注

之は或意味より云へば、日常必要の事にして、力ともいひ得べし。物の出來る人、力の有る人等云ふは孰れも注意力を集注し、又堅忍不拔即ち永く續くる力の有る人を云ふなり。有名なる文豪 Thomas Carlyle 曰く、續けるところの力は即ち天才なりと、genius とは文豪にて云へば、能力有る人の事、研究する人ならば original research をする人にして、物を仕遂ぐる迄は決して止めざる力なり。又、十九世紀に於ける佛蘭西のある大哲學者曰く、天才は延長したる注意力に外ならずと云へり。予は更に云はん。之は始終必要なるも、又時々非常なる場合に於て非常なる注意力を出し、以て集注する事必要なり。吾人が常に使用する注意力は、一部分の物なるが或時は大腦及び、小腦に於ける神經全體の注意力に大凝點を作り、之に大印象を爲すべき時あり。斯かる focus を作りて印象を捺さんとする時は、恰も寫眞を撮る時に少しも動かれぬ如く、一つの focus に一つの繪を映さゞれば、大理想、品格等を作る事能はず、例へば散漫せる日光を一つの鏡に受けて、之を焦點に集むれば、金屬をも熔かし、物を燒く事をも得るなり。之と同じく何人も必ず大いなる努力と注意力と無かる可からず。斯程の事は一生涯に於て度々は出會はざるも、普通の注意力を要する事は毎日有るものなり。其の一大凝點を作りて、此の印象を腦中に捺す事に吾々は力を盡したるものなり。

我々の生涯には時々非常なる難問題の起る事あり。之を解釋するは甚だむつかしきものなり。學生時代にては、人々の著書を見て過すも、之より活動時代となれば、自ら書物をも著述せざる可からず。即ち物を拵へねばならぬ事有り。此に至ればやがて社會の困難なる暗流は滔々として吾人を遮らんとす。其の時我が腦中に印象せられたる、立派なる品格と、之より出でたる堅忍不拔の精神、即ち永久に疲れざる注意力の集注無くんば、忽ち此の暗流に捲き去られんとす。

例へば論文を書くにも、能く調べの屆きしものもあれば、纏らざるものも有り。之は骨折りが少き故にして、綿密に調ぶる時は誰にも出來る事にて、人の生れつきには左程優劣あるに非ざるなり。玆に於て吾人自らの力を試し見るに二つの方法あり。

一、經驗に徵する事……注意力を集むる事が出來しや否や。

二、結果を見る事。

凡そ教育を受けし人なるか否か、物の出來る人か否かは、一見して解るものなり。而して斯くなる迄には、長き經驗を要するも、結局は其の人の注意力の如何によりて判斷する事を得。我が國の小學生と、外國の小學生とを比較すれば、其の差異非常に著し。

注意力の如何は、眞に其の人の力の如何を示すものなり。而して之は小兒の時より養成せずば、成人となりて後完全ならしめんとするも、容易ならざるなり。或經驗あり、學識あり、技量ある裁判官の云へる事あり。曰く、吾人の brain と ability 等は、最も廉價なる商品なり。唯、空氣、水、火等の如く、缺く可からず。然も何處にも存在する物と同樣なり。然れども、之等を善く用ひて一の有機體と成れる其の ability は、實に尊く、古來稀なるものにして容易に得難きものなりと。

前にも云ひし如く prolong attention 卽ち延長したる力、及び永久繼續する力必要なるが、此の上に well attention 必要なり。（aspiration 向上精神とも云ふ。）

吾人は注意力の集注に就きて、一時大いに熱したり。之は甚だ宜しき事なれども、之丈けにては冷むれば復元の如くなるのみ。然れば、此の熱したる時に鍛冶屋の如く極力鍛へて、立派なる印章を鑄造せば、冷めたる後も今迄とは變りて、立派なる物と成るに至るべし。之と同じく我々の精神も、熱したる時夫れきりにせず、必ず印を捺す事を忘る可からず。返す〳〵も品性を陶冶する事を忘る可からざるなり。

人の働き、能力、理想、思考、仕事等は、きれぎれにては甚だ小なり。併し、生涯を貫徹して統一したるもの、卽ち統一的に組み立てられたる時は、初めて羅馬人の如く、有力なる働きを爲す事を得るに至る。品性の出來たといふ事は、偉大なる人と成り得る資格を養ひ得たりと云ふ事なり。之には、時機を失ふ可からず。例へば、盆栽の松と成るも、廣莫たる原野の松となるも其の初めは同じ種より出でゝ或程度迄は同じく進めども、或境遇に勝つ事能はず、此の時に勝つ事を得ざりしものは遂に盆栽たり。此の時機を失ひて一度盆栽となりては、如何に奮ふも遂に大なる松となること能はず。之に反し、此の時を切り拔けて勝ち得たるものは、卽ち大いに發達すべき道に出で、自らの思ふ存分に成長し得るなり。斯くして品性の基礎の出來たる人は、此の大木の如く成らざる可からず。一度此の域に到達すれば、伸びんと欲する時は飽く迄も伸び得らるゝものなり。而して吾人に善化を與ふるものと成るなり。

（實踐倫理講話）

品格養成

ナポレオン曰く「人は數字の如きものなり。一より十までの數は其の數字の價丈け。併し同じ六にても之を萬位の處に置けば、六萬となる。然れば校長となる時は、其の價値と實力とは、刺戟と熱心とによりて自然に出で來るものなり。故に人は成る可く好き地位を得ざる可からず」と之は我が國にても、古より行はれし說なり。地位と實力とは相伴ふと雖も、婦人の如きは萬一惡しき人に嫁げば、自身は如何にうちに實を有するも、遂に世に立つこと能はず、恰も地下に埋められたると同じく、日蔭の者となるなり。然れども地位などは餘り關係せずともよし。唯好みて惡しき地位や惡しき人を選ぶ必要は少しもなし。注意すべき事は、自分に最も適當し、且好める地位を選ぶことなり。而して其の適當なる事業や地位には、萬事を捨てゝ最も忠實に盡すべし。之卽ち自分の主義に働く事となればなり。換言すれば、吾人の意見に意志を從はしむるは、人間唯一の神聖なる事にして、主義の爲に爲すべきを爲すは、最も良き地位を得る手段なり。自分は之丈けの肩書あれば、此の席でなければ坐らぬ等と云ふ人は、却つて良くならぬものなり。唯自分の好みて爲しゝ事は、席は下でも何でもよし、之を忠實にすると云ふ決心にて、地位の高きを望まぬ人は、眞に働く人なりと知るべし。

然れば人は、地位の卑きを恐るゝ事なく、唯自身の品性善に進み難き事を心配せよ。品性の立派に出來し人ならば、何時も失敗する事無し。性質の惡しき事は、惡しき缺點を憎むと雖も、其の人を憎む可からず。品性の善からぬ人は人として最も憫むべく、又其の人の生涯に取りて之程不幸なるもの無し。人は、馬鹿でさへなくば力に於て心配せずともよし。唯德性に於て缺けたる人程困る事はなく、其の人の不幸之に過ぐる事なし。此の德性に缺けたる程匡正し難く、又自分に見えぬものは無し。之福澤先生の所謂「人品教育は出來ず、之性は天性にして遂に直し難し。」にて、之は直されざるに非ず。直す事の難きを云はれたるものなり。

故に他人の事は自分が直りてからにて宜し。先づ己を直さゞる可からず。汝若し、人に用ひられぬならば、社會に出でたる後の事を氣遣ふならば、品性のまだ出來ざるところあるならば、之は人の所爲にはあらずして、責めは全く自らにあり。故に能く之を分析して反省百度せよ。然らば始めて修養と云ふ事を明らかにするを得るなり。

人の性は其の面の如く異れり。之と同じく學校の性質も其の名の如く異るものなり。學校の性質は如何なるところより成りたつか。之は寮舍、次ぎは各級の風より成るなり。

他を化する事能はざるは、やはり己の惡しき故なり。然れば、若し全體は善けれども或一人が惡しゝと云ふ場合ありとも、其の人をさして惡しゝと云ふ勿れ。之自身が未だ人を感化する力無きに由るものなり。故に人を知るよりも先づ實踐躬行して、今迄よりも一層勵行せよ。又茲に團體の調和の出來ぬ程苦しき事は無し。友人間にても然り。斯かる時は、決して一方の惡しきには非ず、双方共に惡しきなり。如何となれば、彼が惡しき故に之は出來ずと不平を云ふは、此の場合にては双方共に云ふ事にして、此の時若し、眞に一方善き時は、決して人を怒らずして、大いに忍ぶところ有るなり。

無論高き理想と、下劣の理想とは一致せず、古來如何にするも感化する事能はざる人々も有りしかど、我等は爲せば成るのである。惡しき學校は惡しき人を責めて夫れに罪を歸する事多し。併し斯樣の事をすれば、其の惡風は到底直る事なし。故に斯かる場合には、宜しく人を謗らず他に罪を歸せず、自ら責むること必要なり。凡そ團體の不調和は、自らを許し、人に罪を歸する事より來るものと知らざる可からず。

孔子曰く、「學んで勵行し、道に達するを得ざる者は、未だ之有らざるなり」と。此の語は眞に人をして失望せしめず、如何に力無き者をも奮起せしむる唯一の語なり。而して我が國の古聖賢も、其の多くは何事も爲せば成る、と教へしと能く相似たり。蓋し又人を起たしむる祕訣か。

世の中に慈善と云ふ事あり。此の心無き人を吝嗇と云ひ、又最も理想且道德の低き人と云ふ。而して隱德有る人をさして、非常に德の高き人と云ひ、陰險なる者をさして、惡の最大なるものとす。又一方より見れば、金錢に關せざる陰險及び詐僞多くあり。唯吾人は之を悟らざるのみ。

性質の曲れる者は人に憎まれ、醜けれど、之半ばは精神上の病氣なる故、身體上の病氣と同じく憫むべきものなり。然れば之を憎み、之を排斥せば、恰も大病人を憎むと同じく、實に人道に反する者に非ずや。卽ち大國民たる者は、之を陰に陽に救ひ直さん事最も高尙なる業なり。而して之には非常なる忍耐を要し、少しも其の人に知られぬ樣祕かに之を實行するは、大なる隱德と云ふべく、斯くの如きは金錢を多く惠むよりも、其の曲れる人に取りては尙一層有難き事なり。之に反して人の善行を見つゝも、知らぬ間に人の缺點を探し、或は知らぬ間に人々の間に毒種を播き居る人あり。例へば人のアラを探して之を密

かに人に知らするが如きは、人を毒殺するに等しく、恰も暗殺すると同様にて、斯様にせられし人は遂に挫折する事有るべく、其の所行は實に罪惡の最大なるものと云ふべし。

學校の間に、若し此の隱德多く行はれざれば、校風は良くならず、讒誣の風行はるゝ時は、決して良き校風を作り難し。斯かる學校は、内に良風有りと雖も、一敗地に塗るゝに至らん。而して吾人の屬せる團體は、即ち吾人の身體に等しければ、其の惡しきは、全體としても局部としても、皆吾人の身體の汚れたる事となり、其の善きも惡しきも皆直接我にかゝるところなり。故に吾人は協同心盛んにして、之を取り除かざる可からず。予は重ねて諸子に云はん。「人の惡しきを云ふ事勿れ」と。

（實踐倫理講話）

修德の方法

古より行はれて最も注目されし一の仕方は、人間の罪惡は總て心慾より來るものなれば、此の慾を殺して無我に成る事を努むるもの其の一なり。之を採用する人々の方法にも種々有りて、佛教、基督教に最も嚴重に行はれたるもの克己・禁慾などの方法あり。斯くして意志を強くする處の工夫を凝らすなり。併しこゝに考ふべき事は極端なる禁慾主義者は却つて人間の本性を歪め遂に自殺的行爲にまで導くことあり。人間と生れたる以上、人間の理想に生きざるべからず。然らざれば生れたる甲斐なし。故に禁慾主義、克己主義と云ふ事も、修德の方法として意志を錬り、而して宗教的無我にまで行く方法としては可なり。

抑も道德家は宗教に依れる人多し。現に我が國に於て、道德上の制裁なきは、宗教無きがためなりとする說は政治家、道德家の中にも多し。而して宗教に根據を置ける者の最も大切なる事は信仰なり。併し一言に信仰といへど、これにもまた種々ありて、奇蹟を信ずる者有り。又祈祷を以てする者有り。故に此の信仰に依る事は非常に感化力有るも、其の裏には少なからざる危險も有れば、其の爲に誤れる者も多し。又誤れる他力主義に依れる者、又一方には唯我獨尊主義とて意志力即ち自力に依る者あり。之も動もすれば傲慢、無慈悲に陷る缺點を有す。又主觀、客觀と云ふ事あり。主觀に過ぎる人は殆ど精神病になり、客觀即ち境遇のみに依る人は殆ど精神無きが如き行爲をなす事あり。玆に於て形、描象的模範、精神、實踐、應用、或は人物等に依る人も有り。諸子の中にも知識、其の他種々のものに依れる人有らん。然らば、何故に人をして失望に終らしむる

かを考究せざるべからず。

以上修德の方法は種々有るも、其の一方に偏する者は必ず成功する事を得ず。故に予の考にては信仰、工夫等の力のみにては、修養を遂ぐるものには非ずと思ふなり。意、智、情、境遇、理想等に偏するは誤りなり。然らば此等には一も取るところなきか。否々、之等の中には非常に尊き眞理あり。故に各々の長所を採り、全部が統一さるゝに至つて、初めて効果有らん。つまり中庸を取らざる可からず。吾人の生涯には軌道あるを以て、之に外れざらん事を努むべきなり。

予の經驗によれば、多くの女學生は學校に在る間はとにかく軌道を踏み外さず行くが如きも、卒業後社會に出つるに及んでは、蹉跌失敗に歸する者多し。例へば、宗教に傾ける者は頑固なる頭と成るに非ざれば、精神病者、又は迷信者となり、或は社會の風潮につれて萍(ウキグサ)の如く漂ふ者有り、彼の嚴然として怒濤の中に立つ巖の如き者は、實に得難しとす。世の多くの人を見よ。激情に驅られては衝突して倒れ、或は見識足らずして軌道に外るゝ者夥し。嗚呼、誘惑極まりなくして恰も亂麻の如く復雜なる人生に、正道を辿り行く事亦難からずや。而して人の世に處するや、綱渡りにも似たり。從來の人々の修養法は、實に此の危險なる綱渡り法のみなりき。

人生のあらゆる慾情を分ちて、物質慾、社會慾、精神慾とする人あり。又は、肉慾、智慾、體慾とする人もあり。禁慾主義に陷る時は、活氣無くして滅亡に至るべく、進歩發見等は一も成る事なし。乃ち其の反動として起るものを快樂主義とす。快樂とは慾望を滿たすにあり。之等極端なものは到底調和の出來ざるものかと云ふに、決して然らず、宇宙には遠心力と、求心力との二つあり。遠心力は飽く迄も向ふに行かんとし、求心力は遠くなる程引き寄せんとす。故に吾人は願望力、卽ち身體を壯健にして、益々其の力を働かせざる可からず。夫れと共に非常なる克己力卽ち體慾、心慾、名利心等を制する力を養はん事を要す。此の二つの力相俟ちて能く調節する時は決して危險なる事無し。我々には非常なる活動力必要なれども、必ず生涯步むべき軌道が見えざるべからず、古の武士道は卽ちこれなり。

今日まで軌道を外せし人の多くは感情を制し得ざるに因る。感情激すれば、行路を眩まさるゝを以てなり。予が諸子に就きて最も危ぶむ點は此の感情に激する事なり。今一つは、理性の力を適當に働かす事、卽ち判斷の如何にあり。非常なる事件に遭遇して其の事の眞相を知る事、及び之に對して如何に處置すべきかに苦しむことなり。諸子の現在は人に問ふべき時代なるを以て差支へなきも、諸子が一校を預り、一家を齋へ、諸般の

事を自ら決すべき地位に立つべき時は眼前に迫れり。故に此の力無くば人の上に立ち、人を支配する事は生涯出來得べくも非ず。之を以て感情の爲に軌道を誤らぬ事、難事に遭遇しても正しき判斷を下し得る素養、此の二點は諸子に就きて予の最も心配に堪へざるところなり。向上的精神は如何程強くとも可なり。唯此の求心力卽ち克己力が之と並行して、大いに發達せざるべからず。

我々は遠心力と、求心力と、軌道を觀る明との三方面より研究して處世せざる可からず。若し一方を缺かば、品性墮落の虞れあり。故に修德とは、此の三點を平均に養ふ事にして、卽ち智情意の德を平均に養ふ道なり。本務の數の多き如く、德も亦細別すれば、自己に對する本務を盡す力を勇と云ひ、家族に對するを愛と云ひ、國家に對するを義と云ひ、社會に對するを仁、自然に對するを智と云ふ。此の五德も亦三種の德に入るなり。勇と義の二つは意に屬し、愛と仁とは情に入り、自然に對する德は卽ち智なり。故に予は意志と德との關係を說きて、修養法を述べんとす。

此の三つの德が平均に發達せざれば、品性墮落の虞れ有るにも拘らず、何故に第一の意より說くかと云ふに、此れは歷史的の關係有る事と且修德に着手の順序より見るも、意を先きにする事を正當なりとす。何故に歷史的の關係が、意の德に關係の深きものなるか、又第一に意の德を養ふべきかと云ふに、抑も德の發達し來りしもとに遡れば、意の德は勇より發達し來れるものなり。

德といふ文字は、支那の儒敎より來れり。西洋にて所謂 virtue は、羅甸語のヴイルトスと云ふ事にて、英語の manliness（丈夫）と共に孰れも勇と云ふ文字と同じ。勇—德、德—勇にして、東西の德の字義及び社會の德の根源は皆勇氣の發達に外ならず。我が國の德は大和魂にして、其のおこりも亦勇にあり。女德も所謂武士氣質にして、希臘の德も stoicism 英國の chivalry（騎士道）なり。stoicism は西曆紀元前第三世紀に出でし希臘の哲學者 Zeno の創設したるストア學派の主義にして、其は感情といふものを全く意志に從はしむるなり。彼はストアボイキレーと云ふ處にて學舍を開き弟子達に敎へし爲、之より其の名となりぬ。其の目的は大膽、平靜、快活の德を養ふにありき。其の思想が發達して chivalry の德となりしものなり。

儒敎の德の骨子も克己なり。卽ち、見レ義不レ爲無レ勇也、とか、殺レ身爲レ仁とか、克レ己復レ禮等の語あり。基督敎の主義も亦同じ。基督曰く、「爾曹我に從はんと欲する者は、十字架を

負へ」此の精神が修德の基となれり。故に德とは意志の習慣に外ならざるなり。己の爲すべき事の爲には、如何なる難關をも辭せずして意志の命ずる處に從ふが德なり。斯くして勇は今日も依然として德の樞要の地位を占む。

今日は發達して圓滿になりしも、昔は德は卽ち勇、不德は怯懦なりと考へたり。

我が國の德育は、大和魂を養ふに有り。之は卽ち西洋にて云ふところの self-control にして、喜怒哀樂によりて顏色を變ぜず、志操を枉げざるなり。卽ち平然として己の爲すべき事に從ふの謂なり。女子には三從の教ありて、彼我共に忍耐を主とするなり。其は婦人は主として、育兒、教育、養老、看護等にあづかる者なればなり。三從の如きは云ひ易くして實際行ひ難けれども、現在の感情を忍びて、一層高き理想の爲に、總てを忍ぶ事と知るべし。之我が國女子教育の根本にして、また德育法の根柢をなせるものなり。ストイツク主義は、恰かも我が武士教育の如し。Epictetus は、ストア學派の哲學者なり。此の人の學說と模範とによりて、ストイシズムは大いに發達せるなり。彼はもと奴隷なりしが羅馬にて教育を受け、甚だ貧困なる上に跛者にてさへありき。併し此の人程艱難に遭ひて、しかも總てを忍び盡したる人は稀なり。其の主意は、人間の目的は思想にあらずして實行にありと云へり。嘗て奴隷なりし時、非常に虐待され、彼の主人は棒を以て彼を毆打せり。然れども彼は平然として曰く、「あなたがもう少し注意して打つて下さらぬと私の脛が折れませう」と注意せしに、主人は益々ひどく打ちて、遂に彼の足を挫折せり。其の時彼は怒れる樣子もなく、「先程云々の注意をせしにあらずや」と云へり。彼の膽力の如きは、道德上、缺くべからざる要素にして、然もこは意志の發達せるものに外ならざるなり。

女子は比較的感情を制する力弱し。故に意志を發達せしむる事は、諸子の修德の基礎なり。諸子の品性を崩すべき試みは、諸子の生涯に多々あるべし。故にこれに添ふべき意志力なくば、忽ちにして其の品性は滅び盡すべし。卽ち先づ情と戰ひ、惡に戰ひ、己の主義を全ふせざる可からず。其の次ぎの勇の德は、從容卽ち狼狽せぬ事なり。現今我が國の學者、政治家は、實に此の力乏しき故、一事に遭へば忽ち其の職を辭し、又結婚する者も、終りを全ふせざる者多し。次ぎには堅忍不拔、之が養はれずば、其の人の生涯は必ず失敗に歸す。此の精神全身に滿ち、而も濫用せざる人にして、始めて志を生涯に貫徹する事を得るなり。聖書の神の言に、「我は嫉妬の神なり」とあるは、卽ち人民を子の如く思ふ故に、其の不正を許さゞるなり。親が

子を害せんとする者を見れば、烈火の如く怒るは此の心ある故に愛情あるなり。フアラデーは理學者にして、大發明家なり。或人彼を評して曰く「フアラデーの柔和の下には噴火山の如く燃ゆる火あり」と。

意志の力、卽ち勇氣は、諸子が自由を得る爲に必要なり。自由とは、奴隷の反對なり。西洋にては古來、奴隷、壓制等の行われし爲に、人皆自由といふものを渴望せり。我が國にては、奴隷もなく、非常なる壓制もなかりし爲、自由の思想少く、文學等に於ても其の趣味を感ずる事も乏しけれど、奴隷は實に哀れなる境遇に在る者にして、此の制度は十九世紀の初めに至りて漸く廢せられしも、或部分に於ては、未だに殘存せり（例へば醜業婦の如き）。世には肉體上の奴隷のみならず、精神上の奴隷となる者あり。卽ち束縛といふ事は、古來文學にも現れ、又我々も幾分か其の分子を含む事を感ずるなり（暴君、惡しき繼母など）。併しそれ等の爲につまらぬ心配に時間を費すのみならず、果ては身體をも弱くするは、やはり奴隷の境遇なり。諸子が業を成さゞる時は、其の敵は各自の心中に存するものと知るべし。故に自分の爲さんと決心せし事は、必ず仕遂ぐる丈けの自由を得ざる可からず。此の心の自由を得るには、意志の力、卽ち勇氣なくしては決して能はざるなり。故に若し、友人の我を防害し、我に反對する事あらば、我々は其の人を憎まず、彼は精神上の捕虜となり、暴君の壓制を脫し得ざる者と見て、之を憫み助けん事に努むべし。然る時は、其の人に對して腹の立つことなし。

一、諸子の本務を全うする爲に意志の力を要す。

二、女德の中、最も大切なる柔和には、必ず意志の鍛錬を必要とす。

昔より勇敢なる人は最も宏量にして、且柔和なりと云へり。故に將來德を修むるには、先づ此の勇氣を養ふ事必要なり。

三、如何にすれば此の力を養ひ得るか。

之も細かく、且圓滿に考ふる時は、複雜なるを以って、後に至りて說明すべし。其の中最も必要なる點を云へば、意志を最も善く使ひ、善く働かすべし。其は困難なる境遇にありて非常なる忍耐を續け、刻苦勉勵して進まんとする人を見て悟るべし。凡そ思想界の先導者、發明、發見者等、少くも天下の人目を惹き、頭角を顯はしゝ人にして、非常なる迫害、苦難の中を通過せざる者は無し。又、宗敎、學說、黨派、文明等の跡を尋ぬるも、皆然り。現在世界中にて最も有力なる宗敎は基督敎なり。

基督敎は羅馬といふ大强國を敵として三百年間相對峙し、幾

多の人命を失ひし事は、殉教者傳に明らかなり。又ガリレオは、地球運行説を稱へし爲に羅馬法王より取消を命ぜられ辛うじて餘命をフロレンスにて送りぬ。佛教者の中には坐禪、斷食等によりて、意志を鍛錬せんとする者有るなり。斯くの如く苦難に耐へ又わざ〳〵その苦難の道をとつて我々の意志を錬りこれを發達せしめんとするなり。故に必ず之を通すといふ決心を以て困難と戰へば、我々の意志は研かるゝなり。之を忍ぶ事が最も愉快に覺ゆる樣になる經驗を積まざる可からず。

今一つは唯無暗に困難するのが善きには非ず。自分の一つの主義方針ありて、その中にて困難を忍ぶ事を要す。故に我々の意志には最も高尚なる目的を有する事心要なり。左に掲ぐる語錄は予の最も仰慕し、且咀嚼せし事なり。曰く、

予は三種の寶を持ち、之を貴み、且守れり。

第一、人道を愛する事

第二、節儉なる事

第三、予は他の人よりも勝らん事を思はず、而して人道を愛する故に恐れなし。儉約なる故に我は人に施す事を得るなり。

又野心と云ふものより、自由を得てゐる故に、誰も予の上に立てる者無しと。

之は最も吾人の修養となる語にして、此の主義を以て世に立つ人は立派なり。人道とは、人の爲にするといふ事なれば、此の考を以て働く時は、何の恐るゝ事も疚ましき事もなし。然るに當世の人は人道を卑しみ、傲慢にして節儉を輕んじ、浪費多し。而して野心に束縛さらるゝ故常に人に勝らんとして焦心す。之等の道を辿る者は、日に日に死地に進みつゝあるなり。

然るに此の主義有らば益々意志を固くし、着實に目的を達する事を得るなり。吾人の最も束縛せらるゝものを名譽心とす。之に由りて何時と無く卑劣に陷るなり。總て我を他に較べるといふ事は、團體の精神を傷るものなるが、之を有たざれば總てに自由を得て明らかなる事を得るなり。

修德と情との關係

我々は情の奴隷と成り易きもの故、極端なる克己論者は之を罪惡とし排斥すべきものとせり。然れども情は然程我々を害するものに非ず。修德及び進歩の爲に缺くべからざるのみか、意志の力と相俟ちて、互に助くべきものなり。卽ち情の力强くなれば意志の力も亦强くなる事、恰も宇宙の遠心力と求心力とに於けるが如し。故に一方を殺ぎて一方を强くする事能はず。情は斯くの如く吾人に缺く可からざる大切のものにして、而も非

常に危險なるものなり。故に之を善く制し善く働かす事必要なり。決して之を無くして了ふのが人生の目的には非ざるなり。

情は果して克己論者の云ふ如く罪惡なるか

予は然らずとせり。情は德の土臺となるものにして、之には肉體的のものと精神的のもの、或は高きものと卑きものとの別有るも、之等は情そのものゝ惡しきにあらず、働かせ方の如何に由るなり。孔子の仁、猛子の惻隱の情、英語の compassion, sympathy, 等は、總て德の動機にして、慈善博愛等の原動力となるものなり。又復讐の動機は公義心の基となるなり。例へば赤穗義士の如きは今日より云へば復讐は善き事にあらざるも、其の時代の制度、思想等より見れば、必ず此の擧に出でざるを得ざりしなり。カントの所謂「全く動機を離れ、心情より獨立して、全然道德律に從つて事を爲すは、人間には爲し能はざる事なり。」孔子曰く、「人の善を好む性は恰も水の低きにつくが如し」と。之は性善說なり。

古より人間は最大幸福を求むる者なるが、其の最大幸福とは、所謂安心立命にして之を與ふるものは宗教なり。安心を得るは卽ち道德なりと云ふを得べし。孔子の云ふ德は仁、釋迦は慈悲、佛蘭西の或學者は曰く、「善を爲すを樂しみ、實行する情熱有する者は、卽ち有德の人なり」と。之等を總括して云へば、善は心情の理想的活動にして（理想的活動とは調和にして强弱各種の活動的順序の調和するを云ふ）、德は情の相互の衝突を防ぎ、活動の調和を保ち、之を平均して秩序的に爲すものなり。

何故に快樂を求むる事は空しきかと云ふに、之を求むるものは常に滿足する事無く、又之を求むる爲に身を誤り、罪惡に陷る者あり。之等は畢竟不調和に基くものにしてスペンサー曰く、「快樂の最高點は情の圓滿にあるなり。快樂は進化と同伴し、不快は破壞と同伴す。」と。之は盡し得たりと云ふ可し。何となれば心配、良心の責めは身體の健康にも心の發達にも害あり。浩然の氣、快活等は身體の發達にも心の發展にも益あり。併しながら玆に衝突といふものありて、之を混亂せしむる時は大いなる害あり。故に德に進む、卽ち進化といふ目的を以て愉快に事を爲す時は、其の發達は非常に速かにして効果あるものなり。

智と德とに於ける關係

エピクテタス曰く、「人生の目的は行爲なり。而して行爲は意志の力に依りて爲す」と。又「德は意志卽ち智なり」とも云

へり。又、アリストテレス曰く、「德は物を選擇する力、事を熟考する力なり」と。世間には往々智を以て德に不必要なるものとし、却つて有害なりと云ひて女子にも學問を爲さしめざるを可とする傾きあり。又宗教家は智を輕んじて專ら信仰に重きを置かんとす。然れども思ふに、不善を爲し、不德を爲す者の多くは、物の解らぬ人卽ち智のなき者なり。

又智は信仰感情を排斥し、論說理想と相反し、兩者相容るゝものに非ざる樣に考ふる事あり。然れども智の結果は理想學說にて、恰も吾人の魂に於けるが如く、而して實行は之に較ぶれば、恰も身體の如きものなり。智を缺ける人は、暗夜に旅行する者に似て、其の目的も見えず、其の道筋も分明せざるなり。故に智を輕んじて實行のみを重んずる人は、自分のみはよしと思へど、其の行爲は却つて自身を輕んじ、且社會をも害する事あり。又智なくして實行のみの人は、進步する事なし。idea ありて初めて進步する事を得るものなれば、吾人の尊ぶべき實行は、時々刻々常に進步的なるを要す。

智を分ちて四つと爲す

一、知覺

二、知識

三、智慧

四、智力

一、は事實を知覺する事、又は事實を記憶に存して置く事を云ふ。吾人の知識、卽ち knowledge は、內界と外界との二方面より入るものなり。內界とは我を知ると云ふ事より始まる。卽ち直覺的なり。外界とは卽ち讀書、談話、講義等に由りて得るを云ふ。

二、は口に入れし食物を嚥下して消化せし物が、血となり肉と成り、骨となるが如く、內界及び外界より入りし知識を全く我が物として消化し、我が智となしたるものを云ふ。

三、は全く消化せられし後、力となりて働くを云ふなり。

四、智力とは反省力の意にして、此の力は自分の經驗及び他人の經驗、且は世界の事物に照らして反省するものにして、之によりて理想、目的、人生の至善等を定むるものなり。又結論をなす此の力は、未開の民と文明の民、下等動物と高等動物、德の高き人と俗物とを區別し、隨つて文明を生ずるなり。此の能力を發達せしむる事は吾人の修養上最も大切なり。

前にも述べたる如く、修德、信仰等に對して此の力は大切なりとする人と、之を否定する人と有り。信仰に重きを置き過ぎる人は此の力を輕んずる傾きあり。故に古來懷疑說を持つ人は、物を調べざれば信ぜず、又今まである所の考に疑問を起し

て見るなり。之等を異端者として排斥する考は、古より多けれ共、此の働きなき人は進歩する事能はず。英國の科學界の泰斗、ハツクスレー曰く、「懷疑説は却つて我々の最も高き義務なり。而して迷信は避く可からざる罪惡なり。」と。

ともかくも如何なる宗教家も文明を否定する事能はざる可し。今や世界の大勢を見て進化と云ふ事を認めざる者は無からん。或人は此の世界に宗教でなければならぬなどいふもあれど、何事も總て reflection power によりて發達するものなり、卽ち科學の力によりて進歩しつゝあるなり。

男女の心理上の區別の主なるものは、男子には此の懷疑力强く、女子は直覺力强き事なり。男子は信ずる前に必ず why といふ事を考ふれども、女子は此の考に乏し。故に女子は迷信に陷り易し。男子は取捨し、女子は心醉す。隨つて女子は如何なる親友を得るも之を益友とする事能はず。之は女子教育上最も恐る可き事なりとす。英國婦人の中には偏見にて物を定むる者多し。反省力により物を定めず、偏見によりて定むるは、保守的に傾く基にして進歩を妨ぐるものなり。女子の特徴とも云ふべき直覺力は、急なる時、又は文學等には必要なる事あり。

（實踐倫理講話）

判斷に就きて

次ぎに來るものは物を判斷するに己の考よりも他人の説に依る事多し。聖教、格言、輿論、他人の説等に依りて己の主義目的等を定むる者あり。婦人が自己の考のみに依らず、他人の説に依りて考ふる弊を云へば、

第一、他人の説に依りて考を定むる事は、必ず其の基礎薄弱なり。故に一旦其の敬服せる他人の説と反對なる説を聞かば忽ち變ず可ければなり。

第二、境遇により、或は輿論によりて變るなり。從來の女子教育は危險を恐れて何を教ふるにも具體化して教へしも、實際、學問は斯くの如くするものに非ず。原理をつかまへて其の時々に應用すべきものなり。併しこれは教育者の杞憂のみならず、自身の考、自己の説を立てゝ進歩せざる可からず。

第三、他人の説に依りて事を決する人は、欺かるゝといふ恐れあり。基督も弟子達に對して、「爾曹を世に出だすは、羊を狼の中に出だす如きものなり。」と云はれたり。世の中は欺きつゝあるものなり。人に欺かるゝは不道德なり。罪惡なり。其は吾人の心には判斷する智力を附與せられたるに之を用ひず、

不注意に反省の德を缺きて然らしむるものなればなり。

第四、自ら物を考へぬ人は、眞理に不忠なるものなり。君上に對し、眞理に對し、其の他、本務に、道德に忠實なる人は、決して油斷をせぬ者なり。故に此の反省力を養はざれば、基礎ある品格を養ふこと能はずと知るべし。

第五、運に任せて物を定める事、一例を擧ぐれば、我が國婦人今日の結婚法なるべし。先づ聞合せには財産、地位、性質、學問等、人のいふ事を聞きたるのみに賴り、其の他は全く天運に任せ置くなり。此れは己の思慮を用ひずして事を決する最も危險にして且最も不道德なる事なり。

判斷を誤るに二つの種類あり

一、心ならず判斷を誤る事——正當の判斷を得たき心はありながら、智力なきために誤る。斯かる人々は事に當りて狼狽し、感情を害するのみならず、失敗に歸する事多きものなり。

二、故意に判斷を誤る事——僞の人、不正直の人、曲りたる人。

兩者共に德に缺けたる人、惡人とも云ふべく、その身は禍をまぬかれざる可し。而して或行ひは、之等の中孰れに屬すべきか分ち難き事あり。其の判斷は我々に取りて容易ならざる事なり。其は人の手前、己の利害等に關する情實を生ずるに由るなり。例へば楠正成、足利尊氏を論ずるが如きも、善く當時の事實、歷史等を詳細に調ぶる時は忠臣、國賊等の判斷は下し難かる可し。若し其の子孫より考ふれば、更に容易ならざるなり。眞を眞とし、僞を僞とし、愛憎の念を去り公平にすれば判斷を誤る事少きも、今日の世ほど、之を誤れる世は無かる可し。其は愛情、都合、利害、好惡等の念に驅らるればなり。平重盛の進退の如きも當時の事情、道德より察すれば尤もなる事なり。何となれば其は公私の情を混ずればなり。

今日は八方美人と云ふ語有り。八方美人にて善くば差支へ無きも、實際に於ては白を白、黑を黑と分たざる可からざる事ありて、中々行はれぬものなり。孰れの方面よりするも一度判斷を誤る時は不德なり。其の判斷に迷ひ、進退玆に谷まると云ふことは必ず情實、公私、善惡等を混ずるにより、其の結果は常に失敗、禍なる可し。扨て物事を判斷するに就きての誡めに二種あり。

物を判斷するには人の說、風說、輿論等のみによりて定むる事なかれ

情實のみにより物を判斷する事勿れ

消極的の誡
- 利害の心によりて定む可からず
- 愛情の念により定むべからず
- 好惡によりて定む可からず
- 感情によりて定むべからず
- 偏見によりて定むべからず

積極的の誡
- 良心によりて判斷すべき事
- 理性によりて定めざるべからず
- 道理と思ふ事に從ふ事
- ロヂカルに判斷する習慣を作るべし
- 自分の爲に總ての行ひの標準を定めて物を判斷し、何事も標準に叶ふ樣にする習慣を養ふ事
- 正義によりて定めざる可からず（眞理に忠實なる心を養ふこと）

予が諸子の爲に最も恐るゝ點は、感情に動かされて判斷を誤る事なり。昔十四世紀に英國が暗黑世界に陷り宗教、政治、實業等總て腐敗せし時、ウイリアム・ピットは「私のみが此の國を救ふ事が出來る」と云ひ、私情を去り正義一片を以て世を救ひ、民心を誠に歸らしめたるは何人も知る所なり。今日新聞に現れ來る總ての人心の動機は私情、情實にして、其の生むところは虛僞なり。社會は滔々として斯くの如くなるのを以て、諸子茲に注目せずんば其の渦中に奪ひ去られ生涯得るところ無かる可し。マルチン・ルーテル曰く、「予は此處に立てり。其の他に爲すべき道無し。我は爲すべき事を爲す故に一歩も退くことなし。」と。其の意は、誠とすることのために盡し、他を顧みずと云ふ事にあり。之を爲し能はずば、決して眞の事を爲し能はざるなり。

如何なる德を備へたる人を善人と云ふか

意を重んずる方の德は、勇氣及び不變にあり。動き、變ると云ふ事は最も惡しき事にして、之は意志の弱きに因る。人の眞價は言行よりも、心中の目的にあり。

智の德は智慧、正直、眞實等にして、眞を發見し、眞に近づかんとする事、而して情の德は親切、同情、寛大、慈悲深き心等なり。

此の智情意の部門を分ちて各々の德を記し、一つの表と爲し、さて全體に完備したる德を備へん事に勉むべし。然る後、第一に考ふべき事は、各々の部類に入るゝ德の中には、一寸考ふれば相衝突する點有るが如く見ゆるものあり。併しこれを深く考ふる時は、却つて此の三つの德完備して一つの大なる德となるなり。併し意の德を全うせんには、必ず情智の德加はつて

之を助成せざる可からず。例へば智を缺きたる勇は蠻勇、猪武者となる。卽ち愚者の勇、頑迷となるなり。情の德に智、卽ち正義を缺く時は姑息の愛となり、却つて人を害するものなり。智の德に意を缺かば、亂行、優柔となる。故に此の中一を缺かば、決して完全なる人となること能はず。斯く云へばいと容易きことなる樣なれど、實際に於ては常識にて誤解せることあり。一方に偏したる人を見て、最も尊ぶべく、甚だ善き人なりと思ふことあり。形態の不具は笑へども、心の不具を知らず、大いに崇拜する弊あり。諸子は決して此の誤解に陷る可からず。是非三つの德を全うすることと必要なり。

次ぎに今一つ最も大切なる事を述べん。我等の世界は其の始め混沌たる有樣より成立せりと云ふ。混沌たる狀態より自然の運行によりて、秩序整然たる今日の如き cosmos とは成れり。宇宙間數多の天體あれども衝突する事なく、吾人と萬物との間にも一の關係あり。我等の身體も亦一の cosmos なり。此の cosmos に相當する語は日本に無し。諸子の知識は caos なるも、其の中に必ず cosmos とならざる可からず。修德の法も亦然り。種子の分子ありて必ず統一せられ、完備せる cosmos となるべきものなり。斯くして初めて吾人も亦 unity となるを得べし。然る後、相寄りて社會、國家、宇內と云ふ大なる cosmos を作らざる可からず。

（實踐倫理講話）

杖を捨てよ、自ら步め

諸子の熱心に力を用ふべき事は、品性陶冶、團體的精神、實力を養ふことなり。此の兩者の關係を能く解釋する時は、決して別物に非ず。例へば吾人の健康の如し。心も亦然り。我々の日々得る新知識は我々全體の食物なり。每日見聞する所のものが、唯暗記的ならずして實力となるならば、則ち品性の陶冶に與りて力有るものなり。此の二つは本校創立の始めより、能く諸子に了解せられん事を希望せり。故に予が本校の學生に實力を得しむる主義方針は、諸子が從來經驗せし方法を根本より改良せざれば、本校の望むところの人物とはなること能はざるなり。然るに今日の試驗法は暗記のみを以てす。學生は金箔を得んとし、社會の病源は依賴心より發す。故に諸子は眞に實力を以て世に出でざるべからず。さすれば何も諸子を妨ぐるものなきは明らかなり。

專門の學校ならば生徒を藝人になすべきも、本校は然らず。其は生涯の勝利を得せしめんと欲すればなり。諸子は水桶となる勿れ。噴水となれ、泉となれ。校風、學風も之よりは具體的

に說明すべし。一番時のかゝる、然も獨立して爲し難き學問は何かと云ふに、先づ外國語なるべし。

之より後、外國語は必要益々多くして、其の書は愈々得易くなるべし。吾人は廣く世界に通ずる語を知りて思想を交換し、知識を廣く、且高くせざる可からず。故に或人は「語は家の窓の如きものなり。」とも云へり。自國の通用語を廣むるにも、外國語を知ること必要なり。coffee, lemon, orange, 等を始め match, station 等は殆ど今日は我が國の語となれり。idea, thought 等も日本の文字にて表さんとするも、其の眞義は解し難し。唯英文の中にて自然に認むることを得べし。故に國文を學ぶにも外國語を知らざれば、國文その用を爲さず。今一つは交際上實用に便なり。而して教育上必要なる事は言を俟たず。之より少しく予の經驗を述べん。

予は十三歳の時蘭學を始めしが、十五歳にして英學に移り、辭書と文典の書を求め、之に由りて學ばんと欲し、或先生に問ひしに「無益なり」と云はれ、大いに失望せり。而して毎日少しづゝ reader を讀みしが、十八歳の時外國人に聞きしに、「自分でせよ」と云はれたり。此に於て方法を定めたり。卽ち第一、獨立。忙しき中に少しの時間を之にあてゝも爲さん。而して一日も怠らざること。

第二、實際に用ふべし。決して飜譯を日本文にてせぬこと。

第三、心理的原理を應用し、必ず學理的方法を用ふることこれなり。

予は十三歳にて國を出でし時より、旅費、學資等一切親より受けず、十八歳の時大阪に梅花女學校を建て、五學級を一人にて教へ、小使を置かず、校長、教師、會計、用達等總てを自ら辨じ常に一時過ぎて寢に就けり。三度の食時の後、十分間計りづつと毎朝便所に行きし時と、道を歩む時、及び人を訪問して待たさるゝ間等を語學の勉强に充てたり。斯くて二年後には Encyclopaedia 等を用ひ通辨をなし、又外國人と相談もなせり。予は此の時より暗記をなさず、學校に入らず、師につかずして之をなせる者なり。併し幼時には小學、中庸、大學、論語、孟子、十八史略等の素讀より進みて、蒙求、論語、孟子、史記、十八史略、春秋、日本外史等の輪講を爲し、漢文、漢詩等をも作りたり。斯くて師範學校に入り、頭髪既に半白の人を友として劣らず六ケ月毎の試驗に首尾よく及第して十六歳の時卒業せり。玆に於て予は金箔をつけて巡回訓導となりしも、之に甘んずる事能はず。之より獨學に由らんと決心せり。今日の人々の學問の進まざるは、心足らざればなり。而して最も大切なる事は、順序なり。耳の語、眼の語、話の語、字引の語等あり。要

するに易きより入るべし。故に日々に讀むものは非常に面白く、心に泌みつきて感ずる物、肌身離さじと思ふ程の書を撰ぶ可し。

次には心理學の原理を應用すること。卽ち心の働きなり。耳と眼と口とを馴らすこと。又子供らしくなる事故心のはたらきは左程要せざるやうなれども、我々の自然に從はざる可からず。玆に於て最も大切なることは心のはたらきなり。吾人が物を考ふるにも語を用ひざる可からず、故に最も便利なる語を用ひて考ふる傾きあり。予は屢々外國人より問はるゝことあり、「君は物を考ふるに、日本語にて考ふるか、英語にて考ふるか」と。其は、英語にて物を考ふる習慣をつくれば、英語も自然に進む譯にて、同化せざれば如何に暗記するも効なし。又英語を學ぶには、英語に漬からねばならぬと云ふ人あり。此は一理あることなれど、頭を馴らし、耳を馴らすことは自ら爲し得るものにして、或人は蓄音機を耳にあてゝ發音を直す法によるもあり、要するに注意力を集むること、明白なること、判然と理解することは、學問を爲すに最も大切な事にて、之は面白く感ずる時に起る事なり。又實用に充つること必要にて、予は始めより之をなせり。今一つは新しき事、面白しと思ひし事は、新聞などにて必ず讀む事なり。又書くことを怠るべからず。之は題を課せられて、苦しみながら爲すに非ずして、自ら樂しみて爲すこと及び話すことなり。心の合ひたる仲間を組みて、四、五人にて英語のみにて互に面白き話を爲すなり。

凡そ物ありて idea 成り感ずるところより word 出づ。故に成る可く實際と、語とを離さぬ樣に勉むべし。自ら爲すことは遲きやうなるも、成功の基なりと知るべし。

學理的方法とは、外國人に賴らずとも僅かの時間の用ひ方によりて、必ず爲し得らるゝものにして、之は獨り英語のみならず、何の學問にても斯かる風に自ら修むる時は必ず成功するものなり。

（實踐倫理講話）

諸子生涯の志として全力を注ぐ可き事は何なるか

天職、本務

之は左程解し難きにあらず。又諸子自ら運動して求むべき職にもあらず。今諸子を賴むが如く仰ぐが如く、呼びなす聲、さし招く手は、果して諸子の耳目に映ずるや、否や。其の聲は切なり。望みや急なり。それが耳目に見え、聞ゆるならば、我が責任を全うするに足るべき力ありや、用意ありや、と省みれば、其の聲の何處より來るかは明らかに認めらるゝならん。

今日の我が國家、社會、家庭は諸子を待つこと甚だ切なり。今日地位を與へよ、名譽を與へよ、と絶叫する者は、雲霞の如しと雖も、眞に本務の爲に一命を抛ちて盡す者は稀なり。今日の我が國は人物拂底なり。之最も我が國にとり恐るべき弱點なり。今一つは今日國家の急を見て、直ちに起つ人あらざることなり。

斯くの如き狀態なるを以て、國家は女性諸子に向つて、非常なる熱望を以て殆ど願ふが如く、呼びつゝあるなり。諸子自ら難しとせん。世人皆然り。さりながら女子によりて挽回することを得べしと、望みを囑する者有り。予も亦その一人なり。之は諸子一人にては成し難きも、團體の力によりて諸子各々出來る丈けの力を以て之を引き受けて起つ者あらば、必ず此の要求に應ずる事を得べし。諸子或は躊躇するところあらん。然れども諸子の國家に對する本務と、家庭に對する本務とは異なることなし。國家、家庭、父母の呼び聲は、一にして二ならず。今一つは到底我が力に及ばざる事にあらざるかと云う問題起るべし。諸子の力にては成る程骨は折るゝなり。我が力にて出來るや、否やを考ふるには、先づ己の天賦の性能より思はざる可からず。而して諸子は、女の手にて之を爲し得る力有るなり。又之を爲すが最も適當なる天賦なり。

古今興亡の跡を考ふるに、皆原因するところあり。故に予は、必ずしも今日諸子の手を以て之を治す可しとは斷言せざるなり。此の大病に弱りたる者を養ひ立て、身體に榮養を與へ、社會の衝突を融和せしむ可き天性を備へ、社會の調和者、國家の教育者たるべき感化力を有するは女子なり。之は決して予が獨斷にあらず。

昔より活眼を開きて社會の狀態を見、後世への豫言を爲せる人々も、皆異口同音に稱ふるところなり。

佛蘭西の或學者は曰く、「天地間に於て、社會を感化する力の最大なるものは、婦人によりて保たる。婦人は善惡孰れにも、最大なる感化力を有す。」と。又或人の曰く、「佛國の社會にて中流以上の者にして犯罪せる人の百中、九十九迄は、皆其のもとに婦人にあり。」と。

羅馬のカトーは、「羅馬帝國は、今や世界を統轄せるが、其の羅馬を統轄せる者は婦人なり」と云へり。婦人自ら本務を重んじ、社會が婦人を重じたる時は、羅馬隆盛の時代にして、然らざる時は衰亡せること、事實に照らして明らかなり。之等の事實を分類して眞理を探求する時は、古來幾多の學者の云へるが如く、其の本は婦人にありという事に歸着す。國家の風、腐敗したりと云へば、その國家は衰へたりといふべし。斯くの如

き風潮の源は、家庭にして、其の本は婦人なり。家庭は小なるが如しと雖も、國家の風を作るところの基なり。

今一つ國家の風――性質を作るものは個人の品性にして、之亦母の薫陶によるものなり。有名なる人の傳記を見よ。皆云はずや、「我が成功は實に母の賜なり」と。之は予の例證するを俟たざるなり。然らば則ち今日社會の風惡しきは、母より及ぼしゝものと云はざる可からず。故に國家の風を正しきに歸さんとならば、先づ根本なる母親の教育より始めざる可からずといふ事は、世人の既に認むるところなり。

然るに今日の家庭は如何、確乎たる意志を抱き、社會を感化すべき力ある母親は、甚だ多からざるなり。源淸からずば其の末を如何せん。卽ち諸子が立派なる家庭を作り、其の模範を示さるゝならば、國家の大慶之に如くは無し。

吾人は二千萬の同胞婦人を教育せんと欲するものなり。今日の高等女學校教育、男子の教育、家庭、寄宿舍は如何。單に書籍を暗記するのみ。之を改良するには、總ての方面に於て適當の働きをなすこと必要なり。故に立派なる家庭、立派なる母を作るといふことは卽ち立派なる國家を作る事なり。之を爲すには又種々の活動を機關として、其の目的を達せん事に勉めざる可からず。之を總括して云えば、教育の一言を以て足れりとす。予の所謂教育とは、品性を作り、家庭、社會、國家を教育する事なり。之は最も尊き天職なりとす。孔子の如く、ソクラテスの如く、ルーテルの如く、人を奮起せしむるところの人物を出すも、皆教育にあり。之諸子を俟つ事、最も急なる所以にして、此の任務を完うせずんば國家の前途は安からざるなり。

（實踐倫理講話）

時に就きて

力と方法

予は先日も十九世紀は世界に於ても、又日本に於ても、非常に事業の進歩發達せし時代なり。廿世紀は婦人の時代にして、又日本に取りては婦人の爲に一つの新世界を開始せしものならんと云へり。然るに此の日本女子大學校は、廿世紀の曉に當りて誕生せしものにして、諸子は其の始めより一の志を立てゝ入學せられし人々ならば、諸子は此の廿世紀の舞臺に現るべき、主なる演技者なりと述べぬ。而して諸子の將來を察すれば、是を三種に分類する事を得べし。其の

第一は、廿世紀の活劇を演ずる所の原動力、卽ち是より起る

所の進歩の主動者になる人。

第二は、それ迄には行かざるも、此の廿世紀に於ける我が國の進歩に後れず追ひつく人。

第三は、時世に後れて遂に廿世紀の事業には餘り與からざる人。

今日の世界の大勢は決して現狀の儘にて止まるべきものに非ず、諸子も亦何とかして是に後れざる樣不斷の努力をなすべしと、誰も皆考へらるゝならん。併しながら、自ら右之等の中、孰れに屬するかを知り、大いに社會の爲に貢献するに足るべき力のありや否やは疑問なり。故に予は三種に分ちたれども、誰々は孰れの階級に屬し、某々は孰れに入るべしと分類する事能はず。諸子自ら考ふるも、確かに孰れなりと云ふ事は、能はざる所なるべし。予は諸子が殘らず時世の先導者としての地位に到るべきものと思ひ、又一方には殘らず、むづかしきものなりとも思ふなり。何となれば、是より諸子が爲さんと思ふ事は甚だ多し。今諸子が學科を修むるにも、制限せられたる科目を、定まりたる時間に修むるのみにても容易ならざるべし。其の、足りない、出來ない、むづかしい等云ふ事の源は、何處にあるかを考へざる可からず。或人は己の仕事が自分の力に餘る故、到底自身の時と力とより考ふるも、それを仕遂くる事はむづかしいと感ずべく、次ぎに或人は他人には出來るならんも、自分は天性短才なる故爲し能はずと感ずる者もあらん。又或人は學資に困り、ために家に歸りて爲すべき事多からん。又諸子の中には、自分が男子と生れしならば爲し得べきも、女子なるが爲に出來ずと考ふる人もあらん。例へば、ヒュース孃の云はれし如く、西洋は人種が違ふ故、どうも氣性にて仕方なし。彼はアングロサクソンなる故爲し能ふも、自身は出來ずと考へらる。又諸子が、有名なる人の傳を讀むも、スペンサーの綜合哲學、社會學、ダーウインの書などを讀めば、如何に此等の人の腦髓は偉大なるかを知るに足るべし。或はエヂソンの電氣に關する機械を發明せる、又文學者にて云へば、シエークスピヤの如き高尚なる思想の湧出せるを見れば、到底吾々通常の人間は、如何に勉强するも、斯かる事は出來ざるべし。是等の人々は一種特別なる考を有せしかの如く思はるれど、其の實は決して然らず。彼等に苦しまずして、是れ程の考が出でしものならば、決して尊ぶに足らざるなり。例へば蜘蛛の如き、アミーバの如きは決して教育の力にもよらず、instinct にて爲すもの、奚ぞ之を尊重するの價値あらんや。併し如何なる大家に聞くも、其の經驗、苦心は毫も吾々と異る事なし。此の大切なる問題が、諸子の問題とならざれば、予が敢へて喋々するの必要な

し。諸子の心中に時といふ問題が、一の大問題とならずば、如何に説明するも甲斐なきなり。而して是は諸子の爲に考ふるも、甚だむづかしき事なれど、諸子がこれをなさゞれば、其の實あがらず。何となれば大學は、家其のものにあらざればなり。

而して諸子の誤り易き二つの點あり。

第一は、其の事をよい加減に考ふる故、經驗なく、且無形の事なるが爲に實際に遠く、空想多くして、結局自ら欺かるゝ事なり。

第二は、これに反し無論むづかしき事故到底出來ざるべしと思ひて落膽することなり。併し予は思ふに、諸子が此處にて第一の事を見出さゞれば、其の成功覺束なしと信ず。今云ふ處は、諸子が第二の過に陷らんことを慮りて、之を防がんが爲なり。既に十九世紀に現れし大學者の經驗を聞くに、皆吾々と同じ困難は身邊に横はりしなり。されどその凡てに戰ひて打ち勝ちたるに外ならず。然るに自身は爲さんと欲するも、不才なるを以て能はずとするが如きは、罪を天に歸するものと云ふべし。兎角人は、罪を人に歸し易きものなり。殊に學生の失敗せる時には、學校や、教授や又友人を怨みに思ふもの多し。豈愼しまざる可けんや。

古來大學者と稱せらるゝ人の言を聞くに、私の學校は私の居る所なり。家に歸れば卽ち家、田舍に行けば則ち田舍がやはり私の學校なれば、到る處として私の學校ならざるはなしと云へり。ジョン・バンヤンは種々の小說を作りしが、彼の學校が十二年間在りし鐵窓の中なりき。全アメリカを動かしたるアンクル・トムス・キヤビンの著者ストウ夫人の學校は臺所にして、フランクリンは其の仕事場が學校なりき。彼等の師は凡て彼等の交際する人々なりき。彼等は規則正しく凡て設備完備せる學校に入學せざるも、敢へて師に乏しきことなかりき。天地萬有は悉く彼等の師にして、自ら彼等が發明の便りとならざるはなかりき。これを以て見れば、世界の偉人は實に卽ち自分で自分を教育せるものなり。自分の境遇が惡しき故、或は天性鈍きが爲、又は病身なるが故にと思ふは抑も誤りなり。志を立てゝ、終に夫れを遂ぐる事能はずして、老大、徒に悲傷せる人及び之に反して成功し、活動の中に年を重ねつゝある人の經驗を聞くに、又凡ての辛酸を嘗め來りて事を廢せし人と、遂に然らざる者とに聞くも、今少し時機が多ければよかりしにと歎ずるものは一人も無し。彼の失敗せる者は皆曰く、我が爲に機會は幾度も來りしに、惜しい哉予は其の時機を逸したりと。卽ち諸子の將來にも、あの時斯くすれば宜しかりしにと云ふ事は、蓋し少

からざるべし。如何なる境遇に在りとも、自ら志を立てゝ、成功する道を知れりと信ずる人はよきも、未だ其の確信なく、反對の勢力強き時は、之が爲に打ち負かされ、服從して止まる者あらば實に憂ふべきなり。今諸子の境遇は、一方には爲すべき事多く、且責任は重大なり。又一方には、夫れを皆仕逸げんと思ひ、責任を果たさんとすれば容易ならず。凡ての事がそれを妨げんとするなり。是等は心裡にある誘惑及び氣のつかざる處にある反對の力なり。而して成功を期するに必要なるものは

一は力にして

一は新しき方法なり

此の二つが結合する事を得ば、諸子は容易に成功する事を得べし。十九世紀の進歩は著しきものなるが、そは力と新しき方法との結合せるに因るなり。是と同じく我々にとりても此の二つを結合する事を得ば、志す域にも直進して到着する事を得るなり。彼のエヂソンの大發明の如きも始め之を是非爲さゞる可からずと云ふ考を定め、然る後其の方法を研究したるものなり。

以上述ぶる所は「時」に就きてなり。其の前より云ふ所は、廿世紀に於て吾々は果して其の任務を盡し得るや否やと云ふ事なり。是につきて最も大切なる事は力と方法との結合にあり。力につきては已に說明せしが、次ぎには方法につきて述べんとす。

人或は云はん。方法は大切なるものにあらず。精神だにあらば、方法はさほど喧しく云ふには及ばずと、是尤もの事なり。若し方法のみによりて教育の結果を得んとならば不條理なり。方法にて事を爲し能ふものならんには、アメリカにて行はるゝ事を、日本に於ても直ちに爲し能ふべき筈なるも、然らざるは何ぞや。例へば、ナイヤガラの大瀑布あるが爲に之を利用して、全國中に電氣其の他の大事業を布き得るや、我が國にては斯かる奇態の事は眞似難きが如し。凡て力は器機ありてその中に用ふる事を得て後、動かしむべきものなり。動機、誘因等も善き方法によりて、始めて正當に用ふる事を得。十九世紀の進歩は大なるものなり。歐洲に於ける文明の發達は實に甚だしきものなり。そは十九世紀に至りて、人間が大原理を發見せしによるかと云ふに然らず。十九世紀の發達は、只發明にあり。卽ち從來ありし力、及び古よりありし方法を新しく應用したるに過ぎざるなり。畢意方法の改良に外ならざるなり。教育にても、其の以前より大なる教育家出でたりしも、十九世紀に至りて其の方法を改良せるなり。又、醫學も非常に進歩せり。ジフテリヤ、抱瘡の治療等の如き、皆醫學の學理を應用する方法の

發達なり。電氣應用も新方法にあてはめる事を得しに由るなり。故に原理、力、時、等の如き、凡ての物が、少しも增加せしにはあらず、而も非常の進歩をなせるは、全く只新しき方法を發見せしに因るなり。惟ふに廿世紀は空中の旅行をも爲す事を得べし。從來の輕氣球に乘る者は上には昇る事を得しも、旋回する事能はざりき。然るに頃日獨乙にては衆人の見る所にて實驗せしに、風に從ひて三哩を八分間にて行き、塔を廻りて歸りには風に逆ひて廿秒にて歸りたりと云ふ。諸子の學問を爲すも是と同じく天地に潛める力を發見して、新方法に應用する事を得ば、是迄の人の十年かゝりし事を僅か一年にて爲す事をも得べし。諸子が發見せざる可からざる急務は、其の方法なり。屢々述ぶるが如く大豪傑、大學者と雖も、特別の腦髓を有するには非ざるなり。只凡人と違ふ所は其の方法にあり。如何にすれば力を增し、又早く達するを得るかは、時を應用する方法による事最も大なりとす。

時を利用する方法

是は吾人一人の經驗にては明らかに解し得べからず。卽ち成功せし大家に問ひて多くの說に徵する時は、自ら釋然たる所あらん。

What is time?
Time is money,
時とは何ぞ
時は金なり

Time is power,
Time conquers all.
時は力なり
時は凡てを征服す

獨逸の或大學者曰く、「時は奇遭を行ふ神なり」と。其の他大聖人、大偉人、大學者に聞くに、皆時の大切なるを感ぜざる人なし。異口同音に唱ふる所は、私が此の大事業を成しゝ事を考ふるに、皆時が無かりとならば、決して爲し能はざりしなりと云はざる者なし。故に吾々今日責任を感ずる者、凡ては、此の時の必要なる事を感ずると共に、時を利用する事の困難及び、如何にすれば此の時を利用し得るかを、明らかに知りたしと思はざる者なからん。

第一多くの人の所謂「時が足らない」と云ふ事を以て量の不足とするのは誤りなり。其の足らずとする所は、是を用ふる力の足らざるなり。今我々はお互に時を使用せり。又今日と云ふ日を吾々は使用せり。而して日に何卷の書物を讀みしと云ふも、左程の効あるに非ず。假令一頁にても良し、それに記されたる眞理が、眞に諸子の頭腦に入りしならば、大なるものなり。眞に合點のゆきたる人は、僅かに一節を讀みても非常に多くの考おこり、大いに決心する所ありて、自分の力が知らず知

らず增加して、制し得可からざる考が湧然として起るなり。然るに一方には、讀みても〳〵其の意を解せずして只讀過する人あり。何故かゝる差があるかと云ふに、是他なし全く本氣となるとならざるとの差なり。眞に時を利用する事に就きては、日本語には適當の詞なし。之を英語にて云へば、教育上最も大切なる事は interest なり。先づ吾々が人格を高めると云ふ希望があるならば、眞理を愛する心、修養に力を盡す心、一意に到達せんとする熱望、又一事業を爲さんとする心が、常に燃えざるべからず。夫れには rejuvenation 必要なり

rejuvenation とは、再び少年に立ちかへる事にして、卽ち若がへるといふ事なり。吾人は生涯年をとらざる靑年とならざる可からず、常に此の氣象が復興せざれば、發達は期す可からざるなり。アメリカ人は、概して此の力盛んなり。又彼の獨逸國が、十九世紀の始め、イエナの戰ひに於て大いに敗北し、殆ど佛蘭西の屬國視せられし觀ありしも、能く今日の隆盛をなせり。獨乙は廿六の洲と、四つの王國とより成り、その主なるものをプロシヤとす。

而してプロシヤが佛國の爲に蹂躪せられしより、上下心を一にして大いに教育を盛んにせり。今其の教育制度の大體を云へばユニバーシテイ、ギムナジウム、ハイスクール、カンマンスクールの四つに分れたり。ギムナジウムは文科大學の如きものにて主としてラテン、クラシツク等を修めしむ。そは rejuvenation を養成せんが爲にして、此の國が長足の進歩をなせる所以は、實に老ひぼれざる國民となりしに因るなり。凡そ學者の頭腦を大別すれば三つとなるべし。第一、保守家、第二、急進家、第三、進歩主義卽ち是なり。東洋は一般に保守的なるも、就中支那は最も甚だしとす。それ故世人往々孔夫子を退歩主義、又保守家なりとする者あり。これは甚だしき誤りと云ふべし。夫子は堯、舜、禹等を崇拜し、我が師とせしより、一見復古主義の如く見ゆるを以て、門人中或は孔子の眞相を悟らずして自ら保守家となりし者少からず。彼等は孔子の糟粕を嘗めし者なり。夫人の意奚んぞ之に留まらんや。生涯學んで倦まず、行うて已まざる精神は、朝に道を聞き、夕に死すとも可なりとし、又故きを溫ねて新しきを知ると云へるが如き語に徵するも明らかなり。卽ち汎く古今に亘りて判斷の材料を取り、古きを捨てずして新しきに向ふの意氣滿ち〳〵たるを知るべし。人誰か古を學はずして、今日事を談ずるを得んや。

保守家は云はん We must keep the old accept new. と。されど眞の保守は新しき眞理、新しき事柄には極力反對する者なり。有名なる天文學者ガリレオは、望遠鏡にて、遊星に四つの

衛星ある事を發見せしかば、之を友人に示し「どうか君一度、彼處にある星を、此の望遠鏡で御らん下さい」と云ひしに友人は、そは決してあるべき筈なければ、見るに及ばずとて、肯ぜざりしと云ふ。之等は眞に保守家の極りと云ふべし。世に又、己自ら聖人になりしつもりにて、一切人の忠告を受けざる人あり。自重心は大切なるものなるも、斯くの如きに至りては、全く老朽せる者にて、人の糟なり。故にキリストは斯かる者を蝮なり、僞善なり、墓なり、と云へり。孔子は三人行かば必ず我が師ありと云ひぬ。こは常に學ばんとする快心あるによるなり。

急進といふ方は、新しきもののみを取る爲に却つてその本領を失ふなり。斯かる人には組織も品格もなきものなり。故に以上の二者は、取るに足らざる事を悟るべし。之に反して進歩論者は古き眞理は固く持ち、己の本領を動かさずして、しかも新しきものを喜んで容るゝ人なり。之は故きを溫ねて新しきを知る人故、始終進歩なり。而して進歩するに大切なる規則あり。一は、する、一は、なる、一は、まなぶ、と云ふ此の三つをよく守るべし。只その人物になりしのみにては、甲斐なし。何か世の爲にせねばならず。而して學びやめざるなり。孔子曰く、吾常に終日食せず、終夜眠らず、以て思ふも益なし、學ぶに如かず。と。又曰く、學問は思考によりて補ふ、思考は又學問によりて助けざる可からずと。

而して猶、此の上に學ぶ事を要す。是が偏すれば、到底發達は庶幾す可からざるなり。予が說く所は實踐を目的とするも、無論學理なり。故に學理も必要なれど、兎に角實行が先に立たざる可からず。之を以て平生聞きたる事は直ちに應用して人格を高め、智育の助けとせられん事を希望す。以上縷述したる事を簡單に云へば、時の分量に非ずして、時を用ふる力の大切なる事を說明したるなり。

（實踐倫理講話）

大器晚成

適當の詞なきも、大器晚成とでも云はゞ宜しからん。若し諸子が成功を急ぎ、俗に云ふあせるといふ事になりては、却つて不可なり。やはり古來時をよく用ひたる人の說を聞くに、所謂せつかず來れるなり。併しながら生涯に必ず一の取り得る所有り。故に先づ全體を考へ、其の全體より割り出して時を使用せざる可からず。又此の反對を云ふ人あり。予は早くより父を失ひし故、叔父の許にありて始終誡められたる事あり。そは予が獵を好むより、大鳥打ちの小鳥もようたぬと云はれし事な

り。夫れも説明を誤らずば、大いに味はふべき事ならずや。

世に金を貯蓄する人を經濟家といふ。予の知人に、今六十歳ばかりなるが百萬圓以上の貯蓄をなせる人あり。常に子弟を誡めて曰く、「汝等一圓以上の金を使ふには、然程考を要せず。されど一圓以下の金子を用ふる時には、謹みて熟考すべし」と。實に然り。小額なりてと意を用ひざる時は、大貯蓄も爲し難し。少しの金をよく考へて使用する人は、大金をも善き事に使用し得るものなり。嘗てアメリカの或財産家の許に、寄附金の相談を爲さんとて、門口まで來りし人あり。然るに戸外に立ちて樣子を聞けば、今しも主人は大いに怒りて番頭を叱り居る樣なり。そは小僧がマッチの一方を使ひて棄てたるを、番頭の誡めざりしによるなり。（彼の國のマッチは兩端を用ひらる）之を立ち聞きせし彼は、斯かる人物にては到底寄附金などはむづかしからんと思ひながら、兎も角面會を乞ひて懇談せしに、豫想よりも十倍程の寄附を得たりしとぞ。予は金子のみならず、時も斯くの如く利用すべきものと考ふるなり。諸子の日常にも、一分以下の時に注意すべし。十九世紀發達の原因は時を省く事にあるなり。

予嘗て、プリンストンより、ウースターに移りし時、五弗（我が十圓位）の書籍を買へり。其の本には、定價を記しありしが、予は餘り急ぎしかば、代價は後より送りたり。我が國の人は買物するにも、まけるとか、ねぎるとかいふ事に、多くの時間を費せども、西洋人は決して斯かる事をせず、そは全く時が金なればなり。時間嚴守といふ事は、非常に大切なり。毎日一分づゝを儉約し、よく使へば生涯には非常に多くの事が出來るものなり。併し之を有益に使ふといふ事は永久とか、無限とかいふ事に解せざれば詮なき事なり。銘々にとれば、生涯といふものより考へざる可からず。之を譬へば、宇内といふ觀念なき人には、太陽といふ事解らず、此の太陽系統といふ事を解せずば、月の盈虧も説く事能はざるなり。つまり全體といふ事を解せざれば部分も解し能はざるものなり。

吾人の生涯に爲すこと、考ふる事、及び行爲等はやはり時間を充たさざる可からず。併し全體といふものは、全體につきて考へ、部分々々に充たしゆくものなるが、年月は恰も連鎖の如きものなり。故に時も有機體のごとく、全體の如くならざる可からず。又吾々の生涯も、神經系統の如くならざる可からず。神經は全身にわたれども、處々に濃き所あり。薄き所あり。吾人の爲す事も、所々に塊りを要す。畢竟吾人の生涯は、時といふ觀念を持つ時は、廿世紀といふ事、又自分の天職としては、生涯の事を考へざる可からず。然らざれば今日のきれぎれの時

を以て、立派なる品性を作り上ぐる事能はず。奈何となれば、我々が時を失ふに、二つの大なる誘惑あり。

即ち

一、未來の爲に現今を犧牲に供する事

二、多くの人は心配の爲に時間を空費する事

是なり。前者は將來を考ふる爲に、今日を無益にするなり。是は甚だしき例を云へば、放蕩息子が金を使ふと同じく、或は碁に耽り、釣に溺れて怠惰に流るゝ如く、諸子の中にもむだなる事を喋舌り、又つまらぬ身の飾りに時を移す者あらん。されど苟も志ある者は、今日を無益に使用する事能はざるなり。

廿世紀は、今より百年間を云へば、吾人の前途を五十年とするも、徒費する時間は生涯の半分以上あり。

後者に至りては吾々は無論考へて見ねばならねど、杞憂にのみ時を費すべきものに非ず。心配をする爲に、今日爲すべき事が出來ぬ事多きのみならず、心配は又身體に害を來し吾々の活動に要するエネルギーを消費する事甚だし。是は如何なる人にも起るべき弱點なり。されど心に時の全體を解し、今日を使ふ人には缺點少し。故に直接の問題として諸子の考を要することは、

一、廿世紀に於ける諸子の本務

二、諸子の生涯に於て爲し遂ぐべき本務

を明らかに覺悟する事なり。廿世紀に於て諸子の直接に關係すべき事は、無論日本國民として勉むべき事を考へざる可からず。世界の文明は西と南へ段々進み行きつゝあるなり。十九世紀の始めには、新興國としてアメリカありき。次ぎは日本の番にて、今一つは南方センツラル・アメリカの方に渡れり。今や我が國も米國に劣らず發達せざる可からず。教育の上より見るも、米國のハーバード・ユニヴアシテイの最初の生徒は僅かに三百廿五人なりしが、今は實に五千人以上となれり。故に初めは極少數なりしも、今日は世界文明の基を爲せり。嘗て我々の考へし所は、已に我が國の輿論となり、數の上にても、實際の上よりも大いに發達せざる可からずと云ふ事なり。此の點に就いて日本の教育制度と、外國の教育制度とは異れるを以て、諸子には或は了解し難かるべし。併し我が國に於ても從來の如き制度にては、到底不可なりと云ふ事は、最早多くの有力なる人々に悟らるゝ樣になりぬ。即ち二、三年前より教育制度研究曾といふもの設けられ、未だ公にならざれども、已に新聞紙上に記載せられ、衆議院にも提出する事となりたり。此の案によれば、日本に數多の大學を起し制度を改めんとする計畫にて、夫れは中學校より大學に入るべき組織にせんとする案なり。

而して、今後は大學を一私人が建つる事を得るやうに、私立大學と雖も、官立大學と同じ特權を與へ、卒業生には、學位をも授くる事を得。その中に、女子大學の制度もあり、之は高等女學校より入學するものとし、大學卒業生には男子と同じく學位を與ふる事を許すべしとの建議なり。斯かる制度によりて學校の發達する事は、一大急務にして、殊に我が國の爲には目下の急務なり。米國にはもと廿四の大學ありて、夫れ等の學校は學生の月謝と、寄附金にて、年々の經費を維持し、或大學の如きは今日實に二億萬圓といふ基本財產を有せり。彼の名高きハーバード、エール、プリンストン等の大學は皆私立なるが、之等は決して役人製造所の如きものにあらず、又今日全體の中、百分の五十二の官立師範學校あれど、そは官費生にはあらざるなり。而して大學出身者と師範學校卒業生とは、孰れが勝れるかといふ事は、現に歐米にても喧しき問題なり。故に予は前述の如き教育制度の行はれて、教育の大發達を見ざる以上は、國民の天職を全うする事は望むべからずと信ずるなり。斯かる女子大學制度の行はるゝ曉には、日本の教育も一大進歩を來すべし。卽ち男子にとりては、早稻田專門學校、慶應義塾、女子にありて此の日本女子大學校出身者が、此の大問題を解決する標準となるべき者なり。故に一言を以て云へば、諸子各々は斯かる重大の責任を身に負はるゝものなれば、最も自重せられん事を要す。

諸子の心中に、若しも在學の三年といふ事より外なかりせば、眞に成功する事能はざる可し。畢竟廿世紀の國民として、我が國家及び、廣く人類の爲に盡すべき任務と、諸子の生涯に爲し遂ぐべき事とを、眞に了解せざる可からず。

今日云ふ處は、吾々の生涯かゝりて爲し遂ぐべき事業及び、研究すべき事は何ぞやといふ事なり。諸子が爲すべき事多き中に、必ず生涯研究せんと欲する科目あらん。それを三年と限りて、其の間に仕おふせんと思ふは誤りなり。生涯の心算を立てゝ爲さゞれば、此の三年は何の効をも爲すことなからん。此は凡ての人の疑はざる眞理なり。而して生涯の間に計畫をたてゝ成功せし人の經驗にあらざれば、取るに足らざるなり。或人嘗て多くの偉人の中、成功の代表者とも云ふべきは誰なるかを、米國の文豪エマスンに問ひしに、エマスンは第一にスウエーデンボルグを擧げたり。此の人は獨乙の大哲學者、宗教家、思想家にして八十五歳を以て死せり。スウエーデンボルグは自分の爲すべき事、研究すべき事が確定せるを以て已に與へられたる時を、悉くその目的の爲に使用せり。卽ち食物とても成るべく簡單なるものを選び、決して美食せざりき。其の食料の主

なるものは、パンとミルクと植物のみなりき。されど健康は凡ての事の資本なる故、其の爲には必ず時を使ひたり。而して彼は生涯獨身にて終りぬ。世間多くの人は、つまらぬ交際に時を費せども、スウエーデンボルグはさる事をなさず、只知識を交換する爲には交際の甚だ必要なるを認めたれども、不要なる事には一切携はらざりき。故に或人はスウエーデンボルグを評して非常にせまき人なりと云ひ、彼の眞價知る人は誠に少かりき。偉人と雖も、其の時間を節する事斯くの如し。況んや普通平凡の者に於てをや。

凡そ何人と雖も眞に大なる事業、大なる研究を爲さんには、雜事は省き得る丈け省かざれば、到底時は足らざるなり。獨乙の大學者カントは、生涯獨身にて、凡ての事を省き得る丈け省略し、交際なども餘り爲さゞりしが、唯食事の時のみは有益なる友を招きて食しつゝ知識を交換せり。米國のメレー・ライオンは獨身生活をなして生涯教育の爲に全力を注ぎ、ビーチヤー・ストウは嫁して後も猶文筆をとり、孰れも女子教育の爲に大いに貢献したる人なり。佛國のボルテール、米國のフランクリン、又英國の社會を動かしゝウエスレー等は、皆思想界に於て、社會に大變動を來しゝ人々なり。斯くの如く生涯精力を集注したる人の事を考ふれば大いに開發する所あり。予は女子を人として婦人として、又國民として、教育せんと欲する者なり。此は既に著書にも記し演說にもし、公然天下に告げたる事なり。諸子幸に誤解する事勿れ。

時をよく使ふ祕訣は

健全なる知識を得、健全なる行爲をなすといふ事なり。而して此の健全といふ中には、完全なる知識、本末ある知識、理論ある知識、有機的の組織等の意をも含めり。さて此の問題を解するに先ちて、決すべき問題あり。そは銘々の心の狀態に關係せり。即ち吾々が或人に接するや、その人物の如何は、顏色、目つき、態度にても略ぼ推察せらるゝものにして、之を大別すれば、生理上、心理上、骨相等によりて知る事を得べし。さて人の氣質にも種々あれど、先づ今日普通の分け方によれば、四種の中孰れかに屬すべし。

多血質の人は物に激し易く、活潑にして物事をよくすれども、永續し難し。

膽汁質の人は剛膽にして容易に物に動ぜず、亦よく事に耐ふるなり。

粘液質の人は平坦なる性質を有す。

神經質の人は執念深し。

物の眞僞を判斷し、又輕重優劣を辨別する事は吾人の日常に最も大切なる事なり。今日の天候を見て明日の天氣を推察し、時勢を見て社會を解し、物を聞きて眞僞のわかる人と少しもわからざる人とあり。そは皆心による事なれば、吾人の心に準備なくては叶ふ可からず。又社會の風にも幾分か感染するものなり。一言を以て云へば、今日の人心は眞面目にあらず、ごまかしなり。凡ての事が本氣に非ず。何事も先づ本氣になり自分の事として考へずば了解せられぬものなり。一の眞理を研究するにも、書籍を讀むにも、先づ我が心正しきか否かを省みざる可からず。先きには人の性質を學理上よりわかちしが、此を俗語にて云へばよくわかる事なり。

一、笑ひ上戸（浮きたつ性質）

二、怒り上戸（よき事にも惡しき事にも怒る人）

三、泣き上戸（心の中に泣くより外の事なき人）

四、粘液質に屬する者

宗教上より云へば、クリストの祈祷、禪宗の座禪あり。孰れも心をおちつけて、正しく考ふる態度となるなり。然るに今日の實社會は、ごまかしを以て世を渡るもの多し。卽ち人心は醉ひ、狂ひ、踊るも舞ふも、凡て輕佻浮薄極まれる故、たまたま眞面目なる事を爲せば、世間より嘲笑せらるゝ有樣なり。嘗て英國が、斯くの如き狀態に陷りし時、ピューリタン起りしも之を容るゝ人なく、遂に國外に放逐せり。又クリストの出でし時も、眞に之が眞相を解し是認せし者は、僅かに十餘人のみなりき。ソクラテスも又然り。今我が國人心は、幾らか、かゝる有樣に傾けり。故に吾々は、時には寢食をもうち忘れて考へざる可からず。此の時に當りて、眞面目なる者出でずして可ならんや。

さて健全なる soundness と云ふ事に就きて云はんか、之には二つの要素あり。

第一の要素——完全と云ふ要素あり、物を學ぶにも皮相に流れずして、深き所に達するを云ふなり。諸子は讀みしもの聞きしものにつきて自ら考察せよ。例へば衛生學を學ぶ時は如何にすれば我が健康を保ち得べきかと云ふ事に直ぐ應用する力ありて始めて soundness とはなるなり。

第二の要素——有機的に組織だちたるものならざる可からず。秩序あり、本末ありて終始一貫せる行爲ならざる可からず。斯く云へば諸子或は思はん。眞に完全なる事を得んとするには、勢ひ問題を少くせざる可からずと。併し是に伴ふ弊は、狹きに過ぐる事なり。さて種々の問題に當りて考ふべきは重要なる點と、補助物との區別を立つる事なり。例へば諸子の中、

己は生涯教育學を修め、充分之を研究せんと思ふものあらん。されどその一つの目的を達する爲には、唯教育學を研究するのみにては不可なり。故にその補助として進化論をも調べざる可からず。又心理學、生理學、神經系統、人類學、生物學、社會學等をも考究せざれば、斯かる大問題は解し能はざるなり。而して此等の全體を究めん事は中々容易の業にはあらず。又是等が個々の物となりて腦に入る時は、何の効をも爲さゞるなり。必ず連絡して目的物の助けとならざる可からず。

（實踐倫理講話）

何故に諸子の直ちに着手すべき事の遲延するか

一、多忙なる故に直ちに爲し難しと云ふならん。予は之に答ふるに、忙しき故、延引してはならぬと云ふなり。非常に忙しき人の經驗を聞くに、忙しき人程速く物を運ぶものなり。ナポレオンは非常に多忙なる生涯を送りし人なるが、凡ての事を電光の如く處理せる祕訣は何ぞや。「吾人の用務は輻輳し來つて、十も二十もある樣なれど、その中の最も大切なる事は唯一つなり。故に此の一事を爲す爲に、凡ての事は犧牲に供すべしと云ふ事が、早く見分けらるゝなり。而してこれを悟る時は、寸時も猶豫する事なく、直ちに着手決行すべし」と。スコットは或時、百拾壹萬圓程の借財を身に負ひし故、早く之を返濟せんものと決心し、晝夜を分たず非常の勉强をなせり。而して其の忙しき境遇にあり乍ら、朝飯前に返書を認めし事毎日廿通より卅通に及びしと云ふ。此の人は決して今日爲すべき事を明日に延ばさゞりし人なり。スコツト常に曰く「朝飯の前に必ずその日の仕事の頭を碎く」と。如何にむづかしき用なりとも、朝起きたる時その强敵を挫き置かば、終日勝利に歸するものなり。ダニエル・ウエブスタも同じ經驗を爲せし一人なり。古來澤山の仕事を爲しゝ人は、決して物を躊躇せざりし事を知らざる可からず。

二、困難、むづかしいと云ふ事　此の誤りは、時を眞に勘定する事能はざるより起るなり。吾人は十年かゝりて爲すべき事を、一年にて爲さんと企つる事あり。これは數理的に考ふれば直ぐ解る事なり。

三、輿論の反對、或は一個人の反對を恐るゝ事　吾人が輿論又は友人に反對するは、必ずしも善き事にはあらざるも、眞理の爲には多少之を忍ばざる可からず。先見の明ありて率先者となる者は、須らく主義を貫徹すべし。之が善き事なり。正しき

事なり。爲すべき事なり、と信ずる以上は、蹶然起つて行はざる可からず。假令一時成功し難き樣なりとも、心の光は益々輝きて、力を增し加ふべし。

予は十九才の時、京都に在りて同志社の事、組合教會等の事に就きても斷然獨立主義を稱へしが、新島先生を始め、海老名君、松村君、横井君等の同志も、總て之に反對せられたり。然れども、今日に至りては組合教會は獨立主義を取りて、最も勢力有るものと成れり。故に之が善なり斯くせざる可からずと信ずる事の爲には、全體が反對する事ありとも、構はず着々それを實行すべし。而してその結果善ければ終には全體之に從ひ、萬一惡しき時は改むれば宜しきなり。

四、相談　此の相談といふ事はよき事の樣なれども、心弱き人ならば必ず此を爲したる爲に熱心を冷やさるゝなり。善き事に相談の力あるが如く、惡しき方にも力あり。惡しき友は惡しき方に引込み、善き事あらば打消すなり。故に進退を決するは我にあり。必ず善と信ずれば何ぞ相談を俟つの必要あらんや。

五、失敗　如何なる人も失敗せざる事無し。失敗すれば卽ち改むべきなり。所謂九轉十起の諺に由り、失敗に勝ち、決して之に心を奪はれざらん事を勉むべし。失敗は人の勇氣を挫き、躊躇せしむるものなり。故に諸子が、爲すべき事と知りたる時は、今日より着手せん事を希望す。

（實踐倫理講話）

其の時の機會を其の時に得よ

今日我が國學生の最も大なる缺點は、眞相を取り能はざる事なり。之には祕訣あり。各人の境遇、機會等は左程の差異なし。唯人をして非常に違はしむるは、其の物を取る事の如何にあり。故にこれを眞に了解する事に勉むべし。

諸子の心には確かに眞心あり、熱心ありて、物の眞相を看破すべき判然たる知識及び、心身の力を得んと欲し、又時々刻々德を積みたし、或は此より起るところの人生の幸福安心を得たし、と云ふ希望はあるならん。併し總ての人々は曰く「心の活動する程度に應じて之を滿足せしむる丈けの力を得難し」と。又世人多くは富を渴望せり。例へば金、銀、鑛などありと聞けば、如何なる冒險事業をも進んで爲すものなり。斯かる經驗より見れば、世界は實に財源に乏しきものゝ如し。併し實際は、宇宙に充滿せるものにして、十四億の人間が如何に取るとも盡きざる上に、自然は實に公平なるものなり。斯くの如く或物は充滿せるものにも拘らず、人間は何故に貧しきか。曰く財源及びそれを取るべき機會は公平なるも、唯人間がそれを取る術を

知らざるに因るのみ。總て吾人の心中に渇望せるものを、如何にして取るべきかを知る事必要なり。之は落ちて居る物を拾う如き事に非ず。宇宙は常に活動し、吾人の日夜求むるものは、四時諸子の頭上を通過する事飛鳥の如し、故に夫れを取る事の如何に由りて相違を生ずるなり。或人の語に「我々に來る機會は後頭が禿げて居る」現在は甚だ短し。銃獵等も一瞬のわざなり。其の瞬間に觀察して捉ふる事を得ずば機會は永久に去るものなり。之は予の獨斷にあらず。總て科學なり、文學なり、其の他實業、工業等何事によらず成功せし人の經驗を聞くに皆然り。即ち重きを現在に置かざるは無し。

"Don't brood over the past, or dream of the future, but seize the instant. Opportunity is just like the flying bird."

之はくよ〳〵と考へて居るなと云ふ事なり。現在爲す可き事に熱心の足らざるは、必ず過去の事を考へ或は將來の事を想像するために現在の事を怠るなり。何故に過去の事を悔ゆるかと云ふに其の現在に於て怠りしが爲なり。然らば過去の事を考へ、將來の計畫をなすは惡しきかと云ふに、決して然らず。故に之を誤解す可からず、過去の經驗に由りて將來を愼しみ、又將來の爲に現在はあるなり。此を以て、過去及び將來を考ふる事は甚だ必要なるも、今予の說くところは過去及び將來の爲に、此の大切なる現在を犧牲に供する事勿れと云ふ事なり。予の常に云ふところは、全體と部分とを誤る可からず。其の時々に判斷を誤らざる知識を得よといふなり。

扨て其の力は如何にして得らるゝかと云ふに、諸子の心中に靈感が臨みし瞬間に於て之を捉へて熟考するにあり。

ジエームス・ワツトの蒸汽機關發明は世界に貢献するところ甚だ大なり。湯の沸騰したる時、鐵瓶の蓋を持ち上ぐる事は、何人も度々見る事なるが、ワツトは之によりて大發明の暗示を得たり。其は日頃何彼に就きて、始終考へ居たる時に當り、一寸心中に浮びし考を逃がさゞりしに由るなり。

其の他フランクリン、シエクスピア等も皆然り。瀧澤馬琴の里見八犬傳とても種無きにあらず。之に由りて考ふれば如何なる大思想、大文學、大發見と雖も不思議なるものには非ずして、各人の頭上を飛來するものを、其の瞬間に捉ふるにあり。之は心の極細微なる作用にして、總ての事に應用せらる。

開發的の教育とは、其の瞬間に於て取る可き物を取らしむるに外ならず。既に經驗ある人は予の今說くところの事に就きて合點する事あるべし。之無き人は直ちに之につきて熟考、決心せざる可からず。即ち吾人の最も大切なる事は、總ての事を即時瞬間に決する事なり。此の習慣つけば、萬事躊躇する事なく

心中常に愉快なり。

瞬間を分ちて三つとす
考　考起れば直ちに物を
決心　決斷し之を
實行　實行する事大切なり

然れども茲に注意すべき事は、人から何か聞けば、前後を顧みず忽ちに夫れを爲して而して忽ちに失敗する事なり。吾人の欲するところは、諸子に決斷力を養はしめんとするにあり。而してその決定を爲すには考を要す。果斷に富みたるナポレオンさへ

「先づ心中に考へ、之は爲すべきものと判然了解せざれば何事も爲さゞるなり」と云へり。

When you did not quite know what ought to be done, it was best to do nothing at all.

畫家と雖も實際手を動かして描き始むれば左程むづかしきものに非ず。又時を要するものに非ざるも之を考案する事最も困難なり。然るに斯く〳〵すべき物と決心すれば、疾風迅雷の如く爲すべきなり。之を以て或時は考へ、或時は決斷し、又或時は實行すべく時の區別あり。物を爲しつゝある間に一寸起る考を逸せざる事大切にして、工夫、發見、觀察等は皆茲に存す。

予は先きに物事を延引するは、自他の時を盗む賊なり。然るにとかく人間は此の疾ありと云へり。之を治する方法如何。物事を速かに決するの外無し。予は先日より、諸子が出來難しと感ずる事を諄々說きて倦まざりき。例へば、品性陶冶の如き事も、諸子の心中にある癖を根柢より作り直す事及び、友人の性質を直す事等は容易ならざる事なり。而も今之を爲し能はずば、將來教育家となりても、人を感化する事能はずと知らざる可からず。單に自己のみならず校風を作り、社會の風を匡正し延いて國家の風潮を挽回する事甚だ困難なり。試みに之を問はゞ、三種の答を得べし。

一、決心せり――何事も成功する人

二、決心の出來ぬ人――何事にも反對し破壞する人

三、出來ぬ人――何事を試みても失敗し、將來望みなき人

第一に屬する人は決斷ある人にして、物の成功せぬといふ事なし。假令表面に見えたるところは鈍くとも弱さうなりとも、腹に決心有る人は必ず最後の勝利を得て志を達する人なり。予は學年の終りに當り、此の問題を與ふべし。諸子須らく自省せよ、昔スコットは百餘萬弗の借金を償却せんと決心せしより、其の志全身に充ち滿ちて如何なる難事をも打碎かざるは無かりき。半信半疑は心の病源なり。決心する時は猶豫なく實行すべきもの、之は此の期に於ての好問題なるべし。

予は諸子に對して二つの希望を有せり

（實踐倫理講話）

其の一は、理想的教育家に成らん事。其の二は、諸子が學校を出でゝ向ふ方面は、社會に於て最も要求し居るところのものならん事を望むなり。

理想的教育家と云ふ事はつまりモデルに成ると云ふ事に同じ。之は予の考ふるところにては、教育の改革の爲し得るところならんと察せらる。モデルと成れば其の人は死すともその精神、理想は永久に亡びざるものなり。歴史上より考ふるも古代文明の源をなせるギリシヤ、アテネの文明は、實にアテネ人が長い間理想を抱きて夫れを實現せし結果によるものなり。彼のパンテオン神殿の材料は純潔なる蠟石にて刻まれたるものにして、調刻、裝飾等何れの點より見るも殆ど完全なるものにして、即ち建築のモデルと成れるものなり。斯くの如き理想なれば、宮殿は崩れてもその美は決して滅せざるなり。

之は美術史の示すところなるが、教育に於ても同樣なり。古のルソー、コメニユース、ペスタロツヂ等は皆自らモデルとなり、理想を作りしも、其の死後永久に此の主義が實行せられんとは彼等自身も思はざりしならん。然るに之が今日の開發的教育の源泉と成りしなり。即ち理想的教育主義を立てゝ、理想的學校を建設するは容易ならざる事なるも、一度此の志に覺醒すれば、假令その人の生存中に行はれずとも、必ず後世に行はるべきなり。而して現社會は交通自在にしてペスタロツヂ等の時とは比較すべからざるを以て、之が普及は一層迅速なるべしと思はる。故に諸子は家庭にても、學校にてもよし、理想的教育家とならんには、其の縣、其の市に於て主義を布教する事を得べし。今一つは現社會に於て、是非とも諸子の救はざる可からざるものあり。其處に進んで改革せられん事を熱望す。諸子は必ずそれに當り得る資格あり。之は點數に由りて爲し能ふ可きものに非ず、此の一年間に十分その力を養ひ、此の資格を作られん事を希望す。

第一、意志の鞏固なる事

パンテオン神殿は、純潔なる蠟石なるを以て火、水、風の恐れなき爲にアテネ人は此の材料を取りしも、結局物質なるを以て倒れたり。彫刻を蠟石や、鋼鐵に施せば、消えざるが如く諸子の品性も亦斯くの如く堅固ならざる可からず。其の材料は即ち鞏固なる意志に外ならざるなり。故に先づ諸子の材料たる意

志を、鞏固に育てざる可からず。其は永遠不易の性質と成らざる可からざる事なり。地位境遇に因りて變ずる人ならば、決して人を感化する事能はず。故に諸子の人物が日々輝ける太陽の如くならざる可からず。然るに女子の性たるや、或時は圓滿なるも時としては平靜を缺き、又或時は光輝を放ち、或時は暗黑となる。其の故は他なし。抑も月は自らの光を有するに非ずして、他より受くる光にて輝くものなればなり。イソップ物語に月が其の母に對ひて「私に適當したる衣服を與へられたし」と乞ひしに、母の曰く、「或時は滿月となり或時は新月となり、盈虧常なき汝なれば、如何なる服を作らば最も汝に適すべきか計り難し」と答へしと云ふ諺あり。故に諸子各々に就きて、夫れ〴〵各個人の天職は如何なるものなるかを示すこと能はざるも、其の境遇によりて今日の理想を跡形なく變更せん事は、予の從來の經驗に照らして、女學生の爲に最も杞憂するところなり。故に在學中如何なる困難にも堪へ、種々の問題にもうち勝ちて、充分各自の主義を貫徹すべき勇氣を養はざる可からず。

第二、事に當りて狼狽せぬ事

コーネル大學には男子部と女子部と有り。或時女子數名にてボートに乘り、湖水に出でしに一人の女子狼狽するや一同續きて狼狽せしより、忽ち其の短艇は沈沒せり。靜かに判斷すれば斯かる事は無くてすむなり。

マサチユウセツトのアシユランドと云ふ處に或婦人ありき。非常に小膽にして臆病なる性質なりしも常に狼狽せね習慣を養へり。一夜夫の留守中目を覺ましゝに、階下にて物音聞えしかば、靜かに床中にて考を定め、そと戸を開きしに果して盜賊の來れるなり。乃ち戸を閉ぢて夫の愛銃に彈丸を籠め、一旦出でんとせしに又眼鏡を忘れし事を思ひ出し、之をかけて徐ろに戸を開きて先づ聲をかけ、頓て息の音をとめて吳れんずと、一發の下に賊を討ち、身を全うせりと云ふ。此の修養だにあらば、如何なる暴風怒濤にあふとも泰然自若たる事を得べし。之婦人にはむづかしき事なり。反對を恐れ、失策を恐れ、ビクビクする者は生涯成功する事無し。而して沈着の性を養ふ者は事に臨みて一箇の少婦と雖も、有髯男子に遜色無きあり。

第三、非常なる忍耐力を有する事

予、米國に在るや、努めて白痴院を觀察せり。其の歷史を聞くに、感ず可きもの多し。初めて之を建てし先生の話を聞くに、發言はおろか步行すら爲し能はざりし小兒を辛うじて教育し、出來る丈け其の能力を伸展せしめ、彼等の不幸を最小に制

せられたりと云ふ。教育家の最も困難なる事は、性質の曲りし者を矯正するにあり。之も今日は浮浪の子、或は犯罪人を集め教育する人多く、又効果も見ゆる所なるが、實際諸子が社會に立ちて感化するには、必ず非常なる忍耐を要す。直ちに疳癪の起るやうな事にては、到底人を教育する事能はず。之は實地の研究なり。

第四、知　識

眞の教育家は注入せるもの非ずして、自ら湧き出づる知識を有せざる可からず。又諸子が子女を教育して、彼等に與ふべきものは斯くの如きものならざる可からず。畢竟知識の庫の鍵を諸子の手に持たざる可からず。之を以て其の庫を開き、人々に知識を與ふる人たらざる可からず。

然るに今日の教育は師範學校にて行へるが、其の方法は注入的のものなり。故に諸子が此の校を出でゝ教育に從事する時、今日の教育制度の如何を知らざれば直ちに失敗す可し。又教科書の調査等を心配せらるゝが如く察せらるゝも、之は甚だしき誤解なり。今日日本の教育には根本的の誤りあり。之は大問題なるを以て、諸子の心には一寸了解し難かる可きも、其の大要を云へば今日の教育は書物を讀む事の如く思惟せる者多けれども教科書は編輯者の集めし材料引例證明に過ぎず。然るに日本の現在の人民は四千萬有り。之に誰にも共通せる献立をなし、何處の家庭にも用ひらる可き食物を與へ得べきか。之は到底望むべからざる事なり。然るを教科書に限りて、何處の學校、如何なる程度の生徒にも全然適合するを得んや。即ち教科書は吾人の參考に過ぎざるなり。又教育家自身が、生徒に説明教授するに丁度適當せるものなるや、否や、明瞭ならざるなり。今一つは教育家が學生に教ふる所は、單に教科書に限られたるものに非ず。天地間の森羅萬象凡てこれ教材にて教ふべからざるものなり。故に生徒に示す材料、説明等は教科書にある物よりも一層勝りて適當なる物を自ら作る力なかる可からず。之を以て吾人の生徒に教ふる所の大部分は直接自ら得たるものなる事を要す。

凡そ學問は讀書に限らず自ら科學を作るにあり。讀書には思惟力が進化して知識となり、科學となり、品性となり、力とならざる可からず。之は大學のみの事と思はんも、決して然らず。程度こそ異なれ、教育の本源は幼稚園より此の主義を取らざる可からず。唯鸚鵡的に物を記憶せしむるに非ず。自ら爲す習慣實力を養成せしむるにあり。故に諸子が小兒を教育するに當りては大いに用意すべきなり。教育書を精選するは勿論、小

兒の心中に活動する心理を解して、教育を施さゞる可からず。自ら教科書を編成せざる可からず。之には小兒の心理を研究して、最も適當なる材料を以て指導する事を要す。人の編輯せる教科書によりて唯記憶せしむるが如きは抑も教育の本旨を誤れるものなるも、今日は人の足らざるため滔々として此の弊に流れつゝあるなり。教育の本は教育者に存す。古人も云へる事あり。「眞の教育者は自らを教育する者なり」と。此は自ら道德を修養し、知識を開發すると云ふ事にて、此の知識、習慣、品性を以て後進を陶冶する者を云ふなり。教育者は仙人の態度を取る可からず。常識を備へ、活動社會を知り、自然と人生との關係を辨へ、時に應じて最上の處置を爲し得る力無かる可からず。故に今諸子の先づ第一に養ふ可きものは智力にして、之は注入的の知識以上のものなり。

予は重ねて諸子に云はん。先づ眼識を具へよと。

第五、教授法

諸子の卒業も間近になつて教授法又は、其の他の事につき、直接社會に出でゝ學得の知識を應用すべき場合の事を種々諸子が懸念するは尤もなる事なり。併し之は諸子の學得せる知識により自ら悟る所無かる可からず。予は卽ち今日行はるゝ所の方法其の教授法を諸子に依りて將來改善せん事を希望する者なり。故に予は今日已むを得ず玆に今日一般に行はるゝところの通弊を論じ置くべき必要あり。之を一言に云へば、今日の教育家は死物なる、機械的教授法に束縛せられ、自由の活動を缺きたり。故に生ける人間を取扱ふべき眞の方法を解せずと云ふ可し。先づ第一に遺傳に束縛せらる。詳言すれば、今日の方法が注入的、獨斷的、具體的になり、常に保守的に傾き、眞似をする、丸呑込みにする、又は讀書的等の弊あり。之等は總て今日の教育法を云ひ表せるものと知る可し。此の教育法の傾向が、我が國にては殆ど先天的に存するを以て、人間が生るゝや否や之に傾きたる養育を受け、母の心も亦之に傾ける者多し。此は甚だ恐る可き事にして、人間の本能的活動——生れつき程變へ難きものは無し。其の點は諸子に縷述して說く必要はなかる可し。然らば之を改良薰陶すべき筈なるに惜しい哉、今日の母親は、其の活知識を缺けり。此の恐る可き傾向は如何にして根治すべきか。

ミラボー曰く「其の人の教育は母の教育より始めざる可からず。卽ちその人の生れざる廿五年前より着手せざる可からず。」と。之遺傳を指せるものなり。遺傳は兩親より引くものなるも、智力は父より、生理的のものは母より、と云ふ說を稱ふる

者も有り。然れども主として品性智力等は母より受くる事多し。即ち女子教育によりて母の頭腦を直さゞる可からず。此の點より考ふるも、女子教育の方法を改め、又男子と同じく其の教育を高めざる可からず。勿論之は知識を詰め込むの謂には非ざるなり。

第二の原因は今日社會の風をなせる祖先傳來の學風なり。此の學風が教育家、學生の頭腦を束縛して、終に眞の教育を爲し難き有様に陷らしめつゝあるなり。ヒューズ孃の英文學部生徒に與へられし手紙を見るに「日本の教育は支那の祖先傳來の注入的學風（日、清、佛の教育は試驗制度なり。之に及第する爲に咀嚼し難きものを注入するに至る）暗記的作用にして此の學風が今に至る迄、日本の學校の上にたゞよへり。而して世界に新しく行はれ居る教育法及び學說は、稀に日本に到着せるのみなり」と。此の意味は實際に行はれざるを云へるなり。

予は一人の外國婦人の說に依りて之を取るに非ざるも、予自らの經驗に由りても、此の觀察が不當ならざるを信ずるものなり。此の支那的教育は、漢學者流より行はれたるなり。古の教育は素讀にて字を覺え、講義說明を聞き、文章を綴るに止まれり。故に此の教育を受けて成長せし人は、唯氣象あるのみにて實に機械的頭腦となれり。明治の初年萩藩の漢學者某は、山口縣の或小學校長に任ぜられ、拜命して歸宅の途中土手にて自殺したりき。之も亦一例と見る事を得べし。故に思考觀察等の力を養ひ、愈々進んで眞理を發見し、發明する人物を養ふ事能はず。此の因習は今日猶我が國の教育界を支配せるなり。

第六、師範學校

今日我が國の師範學校には品性、精神、實力等乏しく、又學識も淺薄なる者多く、その教授方法たるや死物にして機械的なり、故に予は之を稱して死せる教育法と云ふ。斯く云へば言頗る過大の如くなれど、その眞爲は結果に徵して見る可きなり。古諺にも「母親を知らんと欲せば先づ小兒を見よ」と云ふ事あり。即ち小學生によつて教育法の如何を知るべきなり。數多の教育家の說を聞くに、小學兒童達の特徵は、盜み、虛言、落書、又學校の道具を傷むる等は平氣なりといふ。而して教育が與へざる可からざる處の品性に至りては甚だ嘆はしき有様なりと云ふ。

方今多くの教員の精神品性は如何。先づ俸給の爲に運動し、中傷離間を事とし、賄賂公行せらると云ふ。何故に斯かる弊害を生ずるか。予思ふに、官費なるが故に、師範學校は入學希望者頗る多く、村長、視學官、郡長等に運動し、其の結果により

て彼の校に入學する事を得るといふ。而して官費にて養はれ、その爲に非常なる束縛を受くる事は予も經驗あり。快きものに非ず。予は是によりて非常なる反動力を起し、獨立的精神を發揮したり。斯かる教育を受け、社會に出で之を傳播するを以て、社會及び教育界はその流れを汲まざるを得ず。然らば之を如何にすべきか。

師範學校は教育の源泉なり。教授法の講究は最も大切なる事なれば先づその内部より改革せざる可からず。予は國家の爲に堅く信ずるところあるも、今日茲に公言すべき限りに非ず。然れども諸子はそれよりも一層上の教育を施すべきものと自信せしめんが爲に、注意を促しおくなり。

次ぎに今の教育者は、概して知識淺薄なる事、幼稚園の保育と雖も輕視す可からず。兒童を眞に教育するには、深き心理學上の知識を要するものなり。然るに彼等は研究的——向上的精神無く、唯文部省より規定せられたる事のみを墨守して之に留まり、自ら進みて眞理を發見せんといふ考なし。總ては何事によらず、精神ありて初めて方法の必要を生ずるものなれば、單に方法のみを知るも効なきなり。

（實踐倫理講話）

女子と教育

世の中に女と云ふものは非常に輕蔑されて居るもので、昔から凡ての聖賢の立てました教へでも、譬へば佛教なり、儒教なり、大抵女子と云ふものは、非常に男子に取りまして劣るのみならず、極甚だしきに至つては、國家社會を亂す所の禍ひの源とまで云うて居るのですが、詰り私の考へは、然う云はれ、又此女子の一生涯から考へて見ると、幼少の時から矢張其の風習があつて、男の子からも非常に輕蔑され、娘になりましても人の弄びものであるかのやうに思はれ殊に嫁入つてからは男子に服從すると云ふ有様でございまして、女の一生から考へて見ても、昔から聖賢の教へに對しましても、又普通の教へにしても、皆んな女子と云ふものを輕蔑して、卑しめられて來て居りますが、一つ女子に何處から見ても輕蔑されない點がある、其輕蔑されない點と云ふのは、母たる點であります。全躰世の中の人が先天的女子を賤むと云ふの結果、女子が生れるを喜ばんと云ふ、是を佛教に於ては又說て、女子に十惡がある。第一には生れた時に父母をして落膽せしむる、これ其罪の初なりなど云ふ者がありまして、誰でも生れた時は女子を喜ばぬと云ふ、

此の一言で殆んど女子の一生涯は盡されて居る、これに反して男子が生れると非常に喜ぶ、尤も我が日本あたりでは下層社會……業賤業者は女子が生れると云ふことを、或る一種の野心の爲に喜ぶ、それは愛情の點からでも何でもなく、成長の上は女郎にでも賣らうとか、藝者にして左團扇で暮さうと云ふ賤しい了簡からであつて、殆んど女子の出生を喜ぶのは、かういふ部分に限られて居る。一般から云へば喜ばない。外國に於きましても、矢張さう云ふ問題が時々起ると見えまして、此頃或る學校では教師が女生徒を集めて、自分が女に生れたことを好まんかと云ふ問題を出しました所が、亞米利加は御承知の通り女權が擴張されて居りますから、大抵女子は女子たることを榮譽として喜ぶと云ふ意を述べたさうであるが、是は果して本統であるか、未だ私は疑問中に屬して居りますが、然しながら能く考へれは、他の位置は何んなに惡いとしましても、又惡く思はれて居りましても、母と云ふ位置は何處から見ても價値ある立派な神聖なものである、若し母の位置が女子になかつたならば、女子は誠に氣の毒な人類の一部であると云はなければなりませぬ。

（「女子新聞」第四號）明治三十五年十月

女子教育雜感

建設的精神を以て、女子教育を發達せしむべし

我國の去る半世紀の歷史は、其大半は破壞的でありました。卽ち新日本を建設せんが爲に、舊日本の多くの部分を破壞し去つたのであります、封建制度を始として宗教風俗習慣等多くは、舊い所の物を破壞致しました、無論此社會は、破壞と建設の兩作用を以て改革進步するものでありますから、此破壞と云ふことも必要であつたには相違ございませぬが、今後我新日本を建設するには、此建設的積極的の精神が非常に必要であると確信致します、で是からは大に根を養ひ、內を堅め、國力を充實致さねばなりませぬ、大に進步發達を促さねばならないといふ急務に望んで居るのであります。之を實現するの道は健全なる教育に依るの外はないと云ふことは、申すまでもないことでございますが、此健全なる教育を建設すると云ふことは、其根本であるところの女子教育を發達せしめなければなりませぬと申すことも、亦論を待たぬことであります。

處が此我國の女子教育を發達せしむると云ふことは、殊に健

全なる發達を遂げると云ふことは、中々困難なことであると感じます、成程過去の歴史に於いて、既に吾々は女子の教育に就ては多くの失敗の經驗を積みました。今度は經驗が積みましたら、今度の發達は嘘ではないだらう、今度は眞の女子教育の發達であらうと感ぜられますが、未だほんとうの結果を表はさないのであります、唯氣運が向つたと云ふ丈であります、大に女學校の數が增して、女學校の數が增したと云ふ丈では、此起つた女子教育の結果は、果して如何であるかと云ふことは、未來に屬することですから、未だ失敗とも成功とも云ふことは、大早計であらうと思ひます、夫と同時に、又今後我國の女子教育に、如何なる反動が起つて參るか、如何なる暴風怒濤に際會して折角起らんとする勢ひを挫かれはせぬかと云ふ心配は先づ我々も亦多くの社會の人々、懸念をして居る次第でありますが、確にほんとうに我國の女子教育が發達して、如何なる暴風怒濤に際會しても、如何なる嶮道に逢ふことがあつても、少しも勢ひを挫かれることなくして、將來限りなく發達する女子教育になるまでには、是ならば大盤石の上に立つた女子教育であると云ふ、誠に强い力を持つて居る女子教育になるまでには、幾多の苦みを嘗めなければならないと云ふことは、明かであらうと考へます、而して今日私どもは、我國の教育のために、女子の教育の爲に、愼んで今後來る處の禍を防ぐ所の道を講じて置く必要があらうと思ひます。我々お互ひに力を合せて此建設的の精神を持つて、健全なる女子教育を發達せしむるといふ必要があらうと感ずるのであります。

果して我國の女子教育は斯の如き發達を爲し遂げ得るや、果して我國の女子は斯の如き困難に堪へる斯の忍耐力と、氣力が有りや否や、此問に答へる私は若し左の三つの條件を我國の女子教育に備へ得たならば、我々の目的は成功し得るものであると云ふことは、斷言し得ると考へます、其三つの條件に就きましては、簡單に意見を述べて見度と考へます。

（「女子新聞」第六號）明治三十五年十一月

偉大なる國民たれ

自喜豪氣尙未摧、毎經一難一倍來といふ句は、年を取れば取る程困難に出逢へば出逢ふ程、豪氣て益々奮ひ進むといふのであります、此精神此活氣此元氣を缺ました時には、齡が幾ら若くとも、身體がどんなに强壯でも、もう役に立ちません、老朽望を屬するに足らない處の人であります、抑も偉大な人物の資格には樣々ありませうが、兎にも角にも如何なる境遇

に立ちましても、どんな難事に際會致しましても、如何なる失敗に出逢ましても、何ふ云ふ强敵に攻撃されましても、此精神、此氣象、此元氣を持續けて、何時々々迄も進み進んで、主義を貫ぬき理想を達せぬ限りは止まないと云ふ氣象をもて居る者が偉大な人物であらふと思ひます、古今の俊傑と呼れ君子と云はれた人の事蹟を考へて見ますと頭髪は霜の如く、眞白になり、頰骨は巖の如く高く秀でゝ、身體が自由に利ないといふ歳に成りましても、其精神は活氣に滿ち滿ちて奮勵勇進して止むことなく何時迄も向ふに進み往くといふ氣象に滿ちてをります。かゝる人こそ眞に仙人とも云ふべきもので、體は白髪心は童顔の有様だと評するも差支はありません、併し之に反して齡は縱令春の青葉の如く若くても、早やその精神は活氣なく、恰もその枯葉の萎縮して生命もなく光澤もないのと一般の人物があります。夫で如是年齡は若くとも、其精神は既に業に萎縮して仕舞つた活氣のない年若い老青年は、其生涯に於て見るべき程の成蹟の擧らぬと云ふ事は分り切つた話でありませふ。是れは一個人に就て生理であるのみならず、亦國民の上に照しても同じく生理であらうと考へます。

吾日本國民は少壯有爲の國民でありませふか、將た老成を氣取て居る年若い老人國民でありませふか、之れは今日吾々國民がよろしく考へねばならぬ問題であらうと思ひます。吾大和民族が呱々の聲を敷島の大和島根に揚げましてから實に數千年の長い歳月を過ぎ去てをります、決して若い國民とはいはれませぬ。併し乍ら我日本國民が世界列强の間に立て、獨立の體面をもて待遇さるゝに至たのはつい近年の事でありますから、まだ〳〵若い國民であると云ふことが出來ます、此の二千五百有餘年と云ふ山鳥の尾の長〳〵しい長年月は此日本國民が一大國民となり、世界に飛躍せんとする豫備時代に過ぎなかつたので、今や吾日本國民は少壯期に達した計りの國民であつて、遠大の志望を抱き元氣に滿ちて活氣に富んで是から進まねばならぬ故に、彼の國民的意識もなく統一の必要をも感ぜなかつた、支那に打ち勝つた位の事で、又歐米の制度文物を輸入消化した位な幼稚な事柄で、やれ文明ぢや開花ぢやと云つて鼻を蠢めかし、進み進んで止むべからざる氣象を鈍らす様の事があつては、此日本國民も岌々乎として亦危いかなではありませぬか。

然して遠大の志望を抱き、活氣に滿ち滿ちて居るべき筈の吾日本國民たるものは、此後萬年を經るも、希望の後に希望を增し、何時までも進歩發達して止まない偉大の國民たるの覺悟を持たねばなりませぬ。此の精神が一般國民の内に滿ちてをらねばなりませぬ。

我が偉大な國民と云ふ字句を使て、富强な國民といふ言葉を使はぬのは少しく意味のあることであります。富强の國民といへば物質的に偏して居る嫌ひがありますも、偉大の國民といへば此物質的發達に加るに精神的發達を以てしてをりますから、一方に偏しない國民の完全なる發達を表はす言葉であると思ひますから使つたのであります、どふか我日本國民をして、物質上にも精神上にも發達した偉大の國民となしたいものであります、然り而して此日本國民は老成を氣取て小成に安ぜず何時も少壯の若い氣になつて大志を抱いて活溌々地に活動して進步發達して往くなら、偉大になるまいと思ふても、必ず偉大の國民となります、固より前に申しました樣に此の國民を若くすると云ふことは、年齡を若くすると云ふ譯ではありませぬ、年齡の老若は一向にかまいませぬ、唯國民が高尙の理想を有ち、遠大の抱負を懷き、進み進んで往くならば、それが卽ち少壯になる途であります、然らば我日本國民の精神內に、高尙の理想及び遠大の抱負を湧出せしむる源泉は何であるかと申せば卽ち教育であります、教育は一方には國民をして高尙の理想を懷かしめ大志を樹立せしめ、又之れと同時に一方には其理想を實現し其大志を成就せしむる源泉であります。

而して此教育の基礎は女子教育及びそれより來る家庭教育であります、此の根本基礎たる女子教育を持たない教育は、架空の教育であります、女子教育の缺いて居る教育は、片輪の教育たるのみでなく、實に効力薄弱なる教育であります、故に古來女子教育を顧みなかつた國は、亡國にあらざれば弱國であります、然らざれば野蠻國であります、然るに國民を偉大にするに缺く可らざる女子教育に對する我國人の態度は如何であります、近年稍やく女子教育が頭を持ち上げ掛るや、やれ女子教育の弊害ぢや、やれ女學生の墮落ぢやと申しまして周章狼狽を極め女子は遊學に出す可らず、宜く家庭に留め置くべしと唱へてひたすら消極的の態度を執るものあるやに聞えるが之は實に臭ひ物に蓋をするのと同一轍でありませう、勿論今日の女學生に弊害の無いといふではありませぬ、隨分志操の卑劣なものもあるらしい、實地の益々立たぬものもある樣で論語讀みの論語識らずも決して稀ではありますまい、局部を誤解して全體の見へない爲め判斷を誤り迷ひ易き者も多くあるやうでありますが之は女子教育其物の弊害ではない、寧ろ教育法の罪であつて其道を誤てをるのでありますから、之を改めさへすればよいのであります、然るに若しも吾國民否之が先驅たる者にして此の如き區々たる困難に狼狽し此の如き些々たる弊害に避易し日々に弊を改め日々善に進むの忍耐勇氣無く常に風濤に動されて居る樣

の有様では決して偉大な國民といふ目的の港に到着することは出來ませぬ、古人も『斷じて之を行へば鬼神も之を避く』と申したではありませぬか、社會の先導たるべき人々にして苟も女子教育の必要を確信するならば何故にその弊害と戰ひ、その困難に打勝つの方法を講ずるの英氣を奮ふことなく、意氣地なくも退嬰主義の古城に退げ延びんとはせらるゝぞ、噫吾國民は何んと根氣の弱きことではありませんか。我善良なる女學生諸子よ、諸子は他日賢母良妻となりて此の如き根氣弱き國民を一變して根氣強き國民たらしむべき大責任を負へるものなれば、世評に注意して之を以て他山の石となすは可なれども必ずしも之に迷ふことなく諸子の大責任の遂行に向て邁往勇進せられよ。而して之を爲すに當りては常々女性としての諸子の性格品性を高め女性としての職責を盡すに必要なる實力を增進することに努力し、かりそめにも淺薄未熟なる學藝を人に誇らんが爲に修むることなく只學藝は諸子の性格品位を高むるの基礎であつて且つ諸子の責務を果する方便に過ぎないものであることを忘れなかつたならば明治卅六年は我日本國民が偉大の國民たるの方向に第一歩を轉じたる年となることが出來ませう。

（「女學世界」第參卷第壹號）明治三十六年一月

卒業生に告ぐ

來賓諸君、玆に本日諸君及び本校創立委員諸氏、竝に本校教職員生徒一同より成れる此の集會の面前に於て、あなた方本校附屬高等女學校卒業生九十二名に對し、卒業證書授與の式典を行ふことを得まするは、誠に我等一同の喜びとし、且光榮とする所であります。又あなた方九十二名の中、七十五名は自分の決心に依つて、又殘りの十七名は父母の命を受けて、遙に笈を負うて、或は今より二ケ年前或は一ケ年前、此の學校に御入學になつて、種々の困難と戰ひ、中には寮婢の職をも務めて成業なさつた方が二名あり、又主婦の重任を御經驗になつた方が七名、其の他銘々の課業の外に或は此の學校の校風を作る爲に、又は寮舍に對する本務を全ふする爲に、此の學校の學生として盡すべき義務責任を全ふして、遂に今日あるを致されたことは、私の深く喜びとする所であります。

斯くあなた方の今日あるを喜ぶと共に、又あなた方の將來に就て種々慮つて見なければならない事があるのであります。今日我邦多數の學生は、學校生活を送つて居る間は、隨分有望なのが多く、又進歩の觀るべきものも尠からぬやうであるが、一

旦卒業して校門を出づるや、間もなく從來の元氣を失うて、段々と進歩が止つて仕舞ふといふやうな有樣に見受けられる。殊に女子に斯の如き生徒が多いやうであります。若し今後も相變らず、斯の如き有樣にて繼續するならば、實に我邦の前途は思ひやられることであると、私のみならず、總ての世の識者が感じて居られます。併し、今日卒業の榮を擔はれるあなた方、斯の如き弊には決して陷らないといふ御決心であることは、私の深く信じて疑はぬ所でありまするが、實際はあなた方の考へらるゝよりも、尙一層六つかしいのであります。それで私は今日此の式に臨んで、尙一言あなた方に御注意をして置きたいと考へるのであります。

何故に今日の男女の多數學生は、卒業までは隨分進歩致しますが、卒業してから後に、觀るべきの結果が無いのでありませうか。是には種々の原因があらうと考へますが、私は其の中の重なるもの二三ケ條を擧げて、あなた方の反省を促して置きたいと思ふのであります。

其の第一の原因と思ふものは、今日の多數學生は、卒業其の物を目的として學問をして居ると云ふことでありませう。卽ち卒業證書、或は學位を得る爲に、是非逃れられない試驗を受くる爲に學問をして居ることでありませう。其の結果は如何であるか。是は私共の度々申したやうに、暗記或は詰込になる弊に陷り、不消化の學問となります。而して肝腎の目的である所の修養は、御留守になります。卒業する間際になつても、學生の唯一の目的である所の品性は未だ確定して居りませず、暗記や詰込の爲に、諸能力は却て其の發達を妨害されて來た時代に卒業する譯であります。而して卒業すれば、自分の學問の目的として居る卒業證書を貰ひ、又は學位を得るのでありますから、それで、早や自分の生涯の目的は達せられたかの如くに感じて、間もなく心が弛んで、段々元氣も向上心も退却して、遂には其の進歩が止つて仕舞ふという有樣であります。

私の愚考致しますには、一體此の卒業といふ字が宜しく無い、我々人間に取つて卒業といふことは我々が棺桶の中に這入る日まで決して有るべきことでは無いと思ひます。故に今日の如き式を卒業式と名けるのも、實は面白く無いと思ふのであります。英語では此の diploma 或は degree を授受する式を Commencement と申します、卽ち始業式と申しますが、此の言葉の方が至當であらうと思ひます。それで私は今日の此の式が、あなた方の爲に卒業式とならずして、始業式となることを希望するのであります。無論あなた方九十二名の中、八十名許りは大學部に入つて、是より益々進まうといふ御決心である

が、併し殘りの十數名の方々は、種々の事情の爲に御歸省なさるのであるが、此の方々も大學に這入らうといふ決心を持つて居る人々と同じ精神を以て、是れより本當の學問の門に這入り、是れから本當の實驗をなし、是れから本當の研究を始めて、是れからあなた方の進歩發達する端緒を開かなければなりませぬ。而してあなた方の生涯進み進んで、遂に此の世を去るといふ日が、卽ちあなた方の卒業の日であります。あなた方の此の世を去るの日に於て、此の母校にあなた方一生涯の報道がありました時に、學校では之を學報に載せて關係者に通知を致しますのが、是が實にあなた方の本當の卒業式であると考へます。

第二の原因と思ひますものは、今日の學校と家庭とが餘り隔り過ぎると云ふことであります。そこで學校にては餘り空理空論に馳せ、實際に遠かり、又實効の乏しくなりまして、暗記的知識讀書的學問が多くなつて、實行力が乏しくなり、實際役に立たなくなるといふやうな非難が、大にあるやうな次第であります。然るに一方に於ては、今日の我邦の多くの家庭は、餘り無學文盲で、學理の應用とか、讀書の趣味とか、教育の精神とかいふやうなことが、餘程缺けて居つて、家庭に入り込むと最早人間の進歩發達といふことは、止つて仕舞ふ有樣であります。故に男女學生をして、殊に女學生をして、卒業後も決して進歩が止らないやうに、一生涯中進歩發達して、其の本務を全ふせしむるやうな教育を與へんとするには、將來の家庭をして益々學校に接近せしめ、又將來の學校をして益々家庭に引寄せる、語を換へて言へば、將來の家庭はモツト學校らしくなり、又學校はモツト家庭らしくなつて、其の隔りを減じなければ、家庭も教育も、本當にその目的を達することは出來まいと思ふのであります。それで私があなた方に望むところは、是から家庭にお歸りになりまして、此の學校に於て養ふた所の精神を益々育てゝ、あなた方の家庭は益々學校らしくなつて、本當の教育の精神に滿ちたところの家庭と變らんことを私は希望いたします。

第三の原因と思ひますのは、今日の多くの學生は、確固不動の目的を定めて、一生涯を送るといふことに乏しいことであります。確固不動の目的を缺いて居る人間は、恰も楫や櫓を失ふた船の如きものであり、又は脊骨の拔けた動物の如きものであって、終始一貫の精神を以て、生涯止まざる進歩を遂げるとか、或は何處々々までも、己の天職を擔つて起つの勇氣は、到底望まれないことゝ思ひます。斯の如く、今日の多くの青年は、己の心に一定の主義方針が無く、確固たる目的を缺いて居

る故に、甚だ薄志弱行の人が多いやうであります。殊に此の婦人の中には、自暴自棄に陥り、或は懶惰放逸に日を過ごし、殆と床の上の置物と一般、無用の長物となつて暮して居る者が多い様であります。又は無用の心配をしたり、瑣々たる事に心が迷うたり、一旦決心した事も、直に變更するやうな女子が多いやうでありますが、是は女子は男子よりも、生涯の目的を定むる上に於て、一層困難なる事情があるに依るであらうかと思ひます。之を東西古今の歴史に徴しますれば、男女を問はず、生涯迷ふことなく、變ること無く、始終一貫して、成功の生涯を送つた所の人は、確かに心の中に、不動不拔の一の目的を持つて居らないものはありませぬ。女子と雖も此の確固不動の目的を得ることが出來たならば、古來我邦の多くの學者の憂へて居つた、女の五病の如きものは、必ず療すことが出來るであらうと私は信じて居ります。故に私はあなた方の卒業式に臨みまして、前途あなた方が目下心中に抱いて居らるゝ其の目的を飽く迄貫いて貫ひたい、其の目的から湧き出づる向上心と實行力とを益々育てゝあなた方の一生涯中に於て我邦の女子として遂げねばならない本務天職を全ふして頂きたいといふことを切望するのであります。

終に臨んで私は一言、あなた方に問を設けたい。あなた方は何を以て生涯の目的となさつて居らるゝのでありますか。私は之に答へてあなた方は一大理想を懷いて居る彫刻家であります。其の理想を刻み附ける材料はあなた方自身の身體と心であります。あなた方は一大理想を描いて居る建築家であります。古代グリーキのアデンの山上にグリーキの理想として、又世界の模範として、存立して居つて、今は僅に其の遺跡を止めて居る、彼のパアセノンの如き完全無缺の宮殿を一生涯中に築き上げようといふ目的を懷いて居る所の建築家であります。而して其の材料は、實にあなた方が未來の良人たる人であります。又あなた方が未來の子女であります。又あなた方が未來に造り出さんとする家庭であります。又あなた方は一大疾病を治療せんと希望して、日夜刻苦勉勵して居る醫者でありまして、其の患者は今日の社會であります。是れ誠に一大志望ではあるが、決して空望ではありませぬ。あなた方の生涯に於て、必ず實行され得べきものであります。又あなた方の生涯に於て、必ず實行を遂げねばならない目的であると信じます。

然らば、其の目的は如何にして成し遂げ得らるゝか、私は別に六つかしいことでは無いと思ひます。今日迄此の學校に於て、あなた方が學び且つ經驗した所のもの、又あなた方が既に着手した所のものを成就して行けば、それで必ず實行が出來る

と私は考へるのであります。あなた方の同窓たる本校生徒全體の中には、華族の御嬢さんもあり、金持の御嬢さんもありますが、此の學校に入學せられてからは、襷掛けになつて雑布掛けもせねばならぬ、御庭の掃除も致さねばならぬ、臺所に這入つて芋の皮も剝ぎ、御膳拵へもし、給仕もするといふ勇氣を御出しになつたのであります。それで今後種々の家庭に御這入りになつて、如何なる境遇、卽ち貧賤に處することも富貴に處することも、平氣で出來るやうにならなければならぬのであります。あなた方五百名許りの同窓諸子は今から二年前に、東西南北の地方より、思想を異にし、主義を異にし、言語を異にし、風習を異にした方々が、此の學校に集つて來られ、其の時は烏合の兵同樣であつたけれども、遂に本校の主義精神に從て、相互に切磋琢磨して、不知不識の裡に感化し、感化せられて、兎に角、一種の良校風を造るといふことが出來たのであります。今後あなた方が家庭の衝に當らるゝ時にも、斯の如き主義精神を持ち續けて、如何なる昔氣質の姑に事へる時にも、決して衝突することなく、如何なる異主義の人、如何なる氣風の人と相混ずるも、克く辛抱し、克く忍耐し、處置宜きを得て、家庭が圓滿に治まり、家族全體が、不知不識の間に、あなた方の主義精神に同化せられ、理想に近い家庭を造り出す樣に仰がなければなりませぬ。

これまで學校で課した所の學藝を初め實地の演習其の他萬般の仕事も、悉く其の目的はあなた方の品性陶冶實力養成にあつたのであります。今日の式場の如きも生徒自身の意匠に依り、生徒一同の協力に依り、適宜の裝飾をなされ、又家政部に於ては、生徒自身の考案を以て種々の菓子を燒き本日の來賓諸君を裏の花壇で饗應歡待する筈になつて居りますが、これ品性陶冶、實力養成の一端であります。あなた方は是から鄕里にお歸りになつても此の精神を持續して頂きたいのであります。

（「學報」第一號）明治三十六年三月